

**REPORTS OF SUMMER EXCHANGE PROGRAM  
AT 3 VETERINARY SCHOOLS IN THE USA, 2012**  
米国三大学獣医学部夏季研修レポート 2012



**PURDUE UNIVERSITY,  
SCHOOL OF VETERINARY MEDICINE**



**THE UNIVERSITY OF TENNESSEE,  
COLLEGE OF VETERINARY MEDICINE**



**THE UNIVERSITY OF GEORGIA,  
COLLEGE OF VETERINARY MEDICINE**



**Kitasato University, School of Veterinary Medicine**

## はじめに

本年度も獣医学科の5年生23名が米国三大学の獣医学部附属動物病院で獣医臨床実習を行い、全員無事帰国した。Purdue 大学には嶋本助教（平成24年8月25日～9月9日）、Tennessee 大学には堀講師（平成24年8月25日～9月9日）、Georgia 大学へは吉岡講師（平成24年8月18日～9月2日）がそれぞれ同行した。各大学とも無事研修を終え、全員が元気に帰国した。その後、Purdue 大学からは、10月14日から10月21日の日程で、Dr. D. F. Hogan と Dr. N. K. Parnell の夫妻を本学に迎え、学部4年生および5年生向けの講義、教員対象のセミナーで講演をしていただいた。

各大学の動物病院での研修は、非常に有意義かつ印象深い経験として、実習参加者の財産となると確信している。

2012年10月30日 国際交流委員会（米国）委員長 坂口 実

これまでの米国 3 大学からの招聘教員および交換留学生

Purdue University

招聘年・月	氏名 Name	職位 Status	専門 Specialty
1996.6	Dr. Ralph Richardson	Professor	Veterinary Internal Medicine
1997.6	Dr. John Van Vleet	Associate Dean and Professor	Veterinary Pathology
1998.6	Dr. James P. Toombs	Professor	Small Animal Orthopedics and Neurosurgery
1999.9	Dr. Alan H. Rebar	Dean	Veterinary Clinical Pathology
2000.6	Dr. Paul Robinson	Professor	Immunopharmacology and Biomedical Engineering
2001.10	Dr. David J. Waters	Professor	Oncology
	(Cancelled due to 9.11 terror)		
2002.11	Dr. David J. Waters	Professor	Oncology
2003.11	Dr. Allan Beck	Professor	Animal Ecology
2004.6	Dr. Harm Hogen Esch	Professor	Head of Department of Veterinary Pathobiology
2005.11	Dr. Sophie A. Lelèvre	Associate Professor	Basic Medical Sciences
2007.10	Dr. Henry W. Green	Associate Professor	Cardiology
2008.11	Dr. Adbelfattah Nour	Professor	Basic Medical Sciences Director of International Program
2009.5	Dr. Willie Reed	Dean and Professor	Veterinary Pathology
2009.10	Dr. Steve Thompson	Associate Professor	Pet Primary Care
2010.7	Dr. Brenda Austin	Assistant Professor	Small Animal Surgery
2011.9	Dr. Sophie A. Lelèvre	Associate Professor	Basic Medical Sciences
2012.10	Dr. Daniel F. Hogan	Associate Professor	Cardiology
	Dr. Nolie K. Parnell	Clinical Associate Professor	Small Animal Internal Medicine

The University of Tennessee

招聘年・月	氏名 Name	職位 Status	専門 Specialty
1995.9	Dr. Michael Shires	Dean and Professor	Veterinary Surgery
1996.11	Dr. Robert Toal	Associate Professor	Veterinary Radiology
1997.11	Dr. Robert C. DeNovo	Associate Professor	Veterinary Internal Medicine
1998.6	Dr. Dan Ward	Associate Professor	Veterinary Ophthalmology
1999.6	Dr. Michael Shires	Dean and Professor	Veterinary Surgery
2000.6	Dr. James Brace	Associate Dean and Professor	Veterinary Internal Medicine
2001.6	Dr. Karen Tobias	Associate Professor	Veterinary Surgery
2003.1	Dr. Frank Andrews	Professor	Large Animal Medicine
2003.4	Dr. Michael J. Blackwell	Dean	Public Health and Epidemiology
	(Cancelled due to Iraq war)		
2003.4	Dr. Michael J. Blackwell	Dean	Public Health and Epidemiology
2009.7	Dr. Michael M. Fry	Associate Professor	Clinical Pathology
2011.10	Dr. Edward C. Ramsay	Professor	Avian and Zoological Medicine

The University of Georgia

招聘年・月	氏名 Name	職位 Status	専門 Specialty
1996.6	Dr. Charles Martin	Professor	Veterinary Ophthalmology
1997.5	Dr. Jean Sander	Associate Professor	Poultry Disease

1999.1	Dr. Corrie Brown	Professor	Head of Department of Pathology
2000.11	Dr. Margarethe Hoeing	Professor	Physiology and Pharmacology
2001.12	Dr. Raghubir Shama	Professor	Physiology and Pharmacology
2003.1	Dr. Duncan Ferguson	Professor	Physiology/Pharmacology and Small Animal Medicine
2004.1	Dr. Thomas F. Murray	Distinguished Professor	Head of Physiology and Pharmacology
2005.1	Dr. Mary Ann Radlinsky	Assistant Professor	General Surgery
2006.6	Dr. Patrick Hensel	Assistant Professor	Dermatology
2006.6	Dr. Ursula Dietrich	Associate Professor	Small Animal Medicine and Surgery
2007.9	Dr. Suzan White	Professor	Large Animal Medicine
2008.9	Dr. Amie Koenig	Associate Professor	General Internal Medicine +CE
2008.11	Dr. Patrick Hensel	Assistant Professor	Dermatology
2009.10	Dr. Simon Platt	Associate Professor	Neurology +CE
2010.2	Mrs. Malorie D. Franks	Student	Class of 2011

+CE: Continuing Education (卒後教育セミナー含む)

## 米国三大学研修参加者および同行教員

年度	Purdue			Tennessee			Georgia		
	Students		Faculty	Students		Faculty	Students		Faculty
	男 M	女 F		男 M	女 F		男 M	女 F	
1995	2	3	I. Hashimoto	5	5	K. Watanabe	3	0	K. Temma
1996	0	6	T. Ogasawara	3	11	Y. Hikasa	0	5	K. Takehara
1997	1	4	To. Oyamada	0	7	Y. Ohnami	3	2	H. Madarame
1998	2	4	S. Ueno	2	6	Nobu. Itoh	2	4	S. Okano
1999	2	5	H. Itoh	1	7	S. Kawamura	3	4	S. Kurusu
2000	1	8	Y. Hara	3	5	M. Uechi	3	4	N. Maehara
2001	7	5	F. Hoshi	4	4	N. Susa	2	5	K. Mutoh
2002	2	8	I. Sakonju	2	2	S. Takai	2	5	K. Orino
2003	3	6	N. Hoshi	2	5	S. Higuchi	1	4	M. Kawaminami
2004	3	5	U. Fukushima	3	4	M. Natsuhori	2	5	H. Ikadai
2005	6	3	K. Taniguchi	4	5	T. Sano	2	5	O. Hashimoto
2006	6	3	K. Watanabe	1	6	C. Baku	3	5	T. Andoh
2007	3	4	M. Oikawa	0	8	T. Kakuda	0	8	M. Okamura
2008	3	4	Nao. Itoh	2	4	Y. Hara	3	3	K. Takehara
2009	4	3	T. Yonezawa	5	3	To. Oyamada	3	5	Y. Ohnami
2010	2	4	Y. Yoshikawa	4	3	T. Kashimoto	0	8	T. Kakizaki
2011	3	4	T. Taoda	3	5	T. Takano	4	4	T. Tanabe
2012	5	3	Y. Shimamoto	5	2	Y. Hori	6	2	K. Yoshioka

Purdue University  
School of Veterinary Medicine  
25 Aug. - 09 Sep. 2012



(後列左から) Shizutaka YAMAMOTO, Ryuji IWATA, Kiho ISHIHARA  
Hiroki IMOTO, Masanori MIYAKE

(前列左から) Hideaki OOMORI, Rira TAKADA, Eiko YAMAMOTO, Dr. Yoshinori SHIMAMOTO

参加者一覧

同行教員：嶋本 良則 Dr. Yoshinori SHIMAMOTO

氏名	Name	所属研究室
石原 希朋	Kiho ISHIHARA	獣医微生物学
井本 博貴	Hiroki IMOTO	獣医放射線学
岩田 竜治	Ryuji IWATA	獣医病理学
大森 英明	Hideaki OOMORI	人獣共通感染症学
高田 璃羅	Rira TAKADA	獣医薬理学
三宅 正徳	Masanori MIYAKE	獣医衛生学
山本 栄子	Eiko YAMAMOTO	獣医解剖学
山本 静孝	Shizutaka YAMAMOTO	小動物第1外科学

## 石原 希朋

アメリカと日本の獣医教育や獣医療の違いを自分の目で直接見て感じたいと思い、米国研修に参加した。実際に研修に行き感じたのはアメリカの学生は私たちに比べ、良く勉強していて、さらに目的意識が高いということだ。これからの学生生活を送っていく上で非常に良い刺激になった。アメリカの獣医教育という点で私が感じたのは、アメリカでは大学の動物病院は **Teaching Hospital** の名前の通りに、純粋に教育の為の病院であるということだ。日本とは違い、投薬や採血はもちろん手術さえ学生が行っている。また、アメリカの大学で良いと思ったのは、朝が早く、夕方終わるのが早いところだ。朝は8時半から **Case Round** といって様々な症例について勉強することから始まる。時にはオーナーの仕事の都合で7時半に患者を預けていくこともある。夕方は病院が5時に終わり、6時には受付以外の全ての鍵が閉まる仕組みになっている。

アメリカでは **Undergraduate** で4年間大学に通い、学士取得後に獣医大に入学でき、4年間獣医学を学ぶ。獣医大のカリキュラムは大学ごとで異なっている。**Purdue** 大学では1～3年次は日本と同様に座学と実習を行い、最終学年である4年次は1年間かけて **Clinical Rotation** を行う。この **Clinical Rotation** では2～3週間ずつ自分の希望する科を回ることが出来る。**Clinical Rotation** の間、学生は先生に見てもらいながら実際に患者を診察し、治療を行う。臨床教育に特化したカリキュラムになっている。

今回の研修では自分達の行きたい科へ行く **Clinical Rotation** と2年生の学生と一緒に **A&I session** という授業に参加した。また、**Fair Oaks** という観光農場の見学もした。

## 【Clinical Rotation】

私は **Small Animal Community Practice**、**Neurology**、**Ophthalmology**、**Behavior** を回った。

〈**Small Animal Community Practice (SACP)**〉

私が一番お世話になった科である。暇があれば **CP** にお邪魔していた。**CP** は1次診療でエキゾチックアニマルが来ることもある科である。日本の一般的な動物病院に近い内容を行っている。違いを挙げるとすれば学生が診察、検査をし、治療方針を決めるという点だろう。最終的な確認はもちろん先生が行うが、一通りのことは学生が行う。先生が指導する際も学生に考えさせるようにして指導していて、学生主体で行っていた。私が **CP** で見たのはほとんどが犬で猫が数匹、インコが2羽、ウサギが1匹といった感じだった。**CP** にやってくるのは皮膚病患者が多く、その他はワクチン接種が多かった。1次診療なので初診で来院するものがほとんどである。

**CP** の朝の **Case Round** は **Dermatology**、**Behavior**、**SACP** の専門医である **Dr.Thompson** による **Round** の3つがある。私は **Dermatology** の **Round** に参加した。**Round** はまず、それぞれの学生が持っている皮膚病患者についての治療方針などの話を行なった後に、皮膚病についての話をするという流れになっていた。私が参加したときのテーマは膿皮症についてだった。前期に勉強した範囲だったので理解できて良かった。

**CP** を見ていて思ったのはアメリカでは大型犬が多く小型犬はあまりいないということ、強く押さえつけるような保定を行わないということだ。保定を強く行わないのはしつけが出来た犬が多いのと、きつく保定をするよりも必要なおもてなしのみを保定する方が犬が暴れずに済むからだと思った。

チーズバーガーが原因でアレルギー性皮膚炎になった子が印象に残った。アメリカらしさを感じた症例だった。オーナーは学生だったが「もうチーズバーガーはあげない」と言っていたのが頭に残った。

#### 〈Neurology〉

内容としてはちょうど前期に左近充先生に教わったものだった。CPでは大型犬の患者が多かった一方で Neurology ではヨークシャーテリアといった小型犬が割と多くみられた。Neurology ではレジデントの Dr.Lee が丁寧に優しく教えてくれた。Dr.Lee は台湾出身の先生だったので、朝の Round で、英単語が分からず説明が理解できなかった私に漢字を書いて説明して下さった。Neurology では CP ほど学生主体で診察を行っているという感じには見受けられなかった。神経学的検査は学生が行っていたが、どちらかというとレジデントの先生が主体となって診察を行っているようだった。

#### 〈Ophthalmology〉

眼科はとても興味深く面白い科だった。眼病であれば、それが犬であろうと馬であろうと鶏であろうと Ophtho が担当する。分野が細分化していることは浅くて狭いようだが非常に広くて深いのだと感じた。

タイミング良く鶏の診察を見ることが出来たのが良かった。左目の角膜が壊死している鶏で、経過観察をしており、再診で来院した。前回の来院時よりは壊死をしている範囲が狭くなり、改善傾向にあるそう。鶏にも犬や猫と同じように光を当てて診察している姿は新鮮だった。

Ophtho でもアメリカらしい思った症例に出会った。右目の水晶体が脱臼している犬で、右目の視力がない症例だ。もし全盲であ

ればオーナーは安楽死を希望するということだった。この犬は左目の視力は問題がなかったので安楽死はしないことになったが、日本ではオーナーから安楽死と言う考えが出ることはまずないので少し驚いた。アメリカでは QOL が重視される。もし QOL が低下するようであれば安楽死を選択することが多いようだ。

#### 〈Behavior〉

木曜日と金曜日のみが Behavior の診察日だった。Behavior にいるのは Dr.Ogata と VT の Mindey の 2 人で、CP の学生が診察に入る仕組みになっていた。行動学は日本ではあまり行われていないので非常に興味がある科であった。Behavior の専門医である Dr.Ogata は日本人だったので、学生がいないときには私たちの疑問に対して日本語で教えてくださったので、理解しやすかった。Behavior は他の科とは異なり、1つ1つの診察にゆっくりと時間をかけて行っていた。間に休憩をはさみながら 3 時間程度の診察を行う。診察はオーナーとの問診と患者の様子を観察することで行われている。その為、診察していく上で、洞察力が非常に重要だと思った。

見学していて感じたのは、オーナーがペットの動作を正しく理解できていないことで生じる問題行動が多いのだということだ。正しい解釈が出来ていない為に問題を悪化させることがあるのだと感じた。もう少し日本でも行動学を勉強する人が増えると良いと思った。

#### 【A&I session】

1 年次と 2 年次に行われる授業で、6 人程度のグループで Case study を行う授業である。各グループには先生が付いているが、先



生は基本的には黙って学生の話し合いを見ていて、学生たちが息詰まると先に進める役割を果たしている。1つの症例に対し4回の授業を行う。私たちが参加したのは2年生の授業だった。

1～3回目では血液検査や病態から考えられることを挙げいき、最終的に病名を考え、4回目は先生が治療法について解説するという流れになっていた。

このA&Iは学生がとにかく話す。話して、話して、話しまくる。とても付いていけなかった。話している内容は私たちが勉強していることなので理解できるが、ペースが速すぎた。あとから聞いた話だが、学生たちは発言することが成績につながる為に発言していたそう。

日本では受動的な授業ばかりなので、こうした能動的な授業は新鮮だった。こうした授業であれば勉強したことが身につくやすいは思った。こういった授業があるのもアメリカの魅力なのかと思った。

### 【Fair Oaks】

牛のディズニーランド、Fair Oaks へ行ってきた。日本の牧場とは全く規模が違った。Fair Oaks では牛の飼育されている様子から、搾乳風景、さらには出産風景まで見ることが出来る。まさしく牛のディズニーランドであった。牛が順番を待ち自発的に搾乳機に入っていく姿はなかなか興味深い映像だった。幸運なことに牛が出産するのをちょうど見ることが出来た。生まれて初めて牛が子供を産む瞬間を生で見ることが出来た。またFair Oaks で食べたアイスクリームは絶品だった。

### 【観光】

休みの日にはアメフトの試合観戦、動物園、

買い物に行った。休みの日以外にも様々な場所に連れて行ってもらった。

### 〈Foot ball game〉

Purdue VS North Kentucky の試合を見に行った。当日は朝から雨で天候が不安だったが、試合が始まる前に雨がやみ、試合中も雨が降ることなく終わった。アメフトの試合を見るのは生まれて初めてだった上にルールもしっかりと分かっていないまま行ったが、楽しむことが出来た。チアや応援の仕方、何もかもが新鮮で面白かった。試合自体はPurdueの圧勝だった。点が入る度に会場が盛り上がり、楽しかった。

### 〈Indianapolis Zoo〉

アメフトを見に行った翌日に動物園に行った。裏側見学をするということで朝7:30に部屋を出発した。

裏側見学ではサイに触ることが出来たり、象の赤ちゃんの水浴びを見ることが出来たり、チーターを間近で見られたり、サメの赤ちゃんを見られたりと普段出来ない貴重な体験が出来た。また、動物園内の病院も見て回り、タツノオトシゴのレントゲン写真やイルカの脳などを見せてもらえた。ただ、残念なことにこの日は大雨で、あまり動物園を見て回ることはできなかった。

### 〈Shopping〉

今年はLabor Dayを挟んでの研修だったため、休みが1日多かったため、Labor's Dayには、モールに買い物に連れて行ってもらった。モールに行く際に、Purdueで鳥類の病理学のレジデントをしている日本人のゆうこさんが車を出してくれた。ゆうこさんに色々案内してもらいながら買い物して楽しかった。

### 〈Home Party〉

Dr.Scott-Moncrieff と Dr.Thompson がお家で私たちの為に Party を開いて下さった。Dr.Scott-Moncrieff には 12 歳の息子さんがいらしてすごく元気の良い息子さんだった。昨年研修で来た北里の先輩が教えた日本語を非常に気に入っていたようで多用していた。ただ、他の言葉を彼に教えてあげる必要があったのではないかと思う。「おい」はきれいな日本語でないと思う。

Dr.Thompson 家でのパーティーには CP の学生である Kat と Na も来ていた。Na の旦那さんも来てくれた。Dr.Thompson の息子さんのサッカーの試合を見たあとにみんなでご飯を食べたり、卓球やサッカーゲーム、Wii で遊んだりと楽しい時間を過ごせた。

### 【総括】

ここに記したのは 2 週間で体験したことのはんの一部だ。文章がまとまりきらないくらいに、たくさんを経験し、吸収できた 2 週間だった。今回の研修に参加して本当に良かったと思う。私が北里大学に入学することを決めた 1 つの理由として、この海外研修があった。こうした研修に参加する機会を与えてくれた大学の先生方や職員の方、また両親に感謝したいと思う。また、研修に同行して下さった嶋本先生には本当にお世話になった。嶋本先生、ありがとうございました。また、Purdue 大では Dr.Tomo と Dr.Scott-Moncrieff に、お礼を言っても言いきれないくらいに本当にお世話になりました。Dr.Tomo、Dr.Scott-Moncrieff、本当にありがとうございました。

### 【謝辞】

I had a great experience in Purdue University that I can't do in Japan. I thank

everybody who I met in Purdue University. Dr.Tomo and Dr.Scott-Moncrieff, I really appreciate your kind hospitality. I can never thank you enough.

I really enjoyed my stay in Purdue University. I'll never forget this summer. I hope to see you again. Thank you again!

Kiho Ishihara

### 井本 博貴

#### Aug.25

本日の日本時刻 5 : 3 0 に成田空港を離陸。これが本来の離陸時間よりも 1 時間遅れての離陸となってしまったためシカゴでの飛行機の乗り換えに間に合わずまさかのシカゴに一泊することになりました。ホテル料金などは全て航空会社が負担してくれたがみんな想定外の事態に自分も含め疲れている様子だった。

#### Aug.26

シカゴから午前中の飛行機に乗り、インディアナの空港に一日遅れで到着。Dr.Tomo と Dr.Scottman が既に迎えにきてくれており挨拶ののちに自分たちが 2 週間住む寮へと向かった。寮に到着し荷物を片付け休憩してから夕飯を食べに行った。アメリカのレストランは当然初めてで全てのものが大きく驚いた。

#### Aug.27

今日から Purdue 大学での実習が開始した。学科長の方に挨拶をし、大学内を見学して、午後から自分は Cardiology の見学に行った。Cardio では基本的には心臓に疾患があると考えられた患者の X-ray、エコー検査な

どが自分が見学している間に主に行われていた内容で、ペースメーカーの手術も見学できそうであったが手術が中止になり見学できなかった。まだ、英語がほとんど聞き取れないながらも先生やVT、シニアの方たちと話し何となくやっていること、やろうとしていることを理解するように努力した。アメリカはもっと日本とは違うような治療や検査を取り入れたりするものと安易に想像していたが、実際の感想としては日本とあまり大きな違いはないように思えた。

#### Aug.28

今日も朝8時から Cardio の見学に行った。午後から北里大学のことや日本とアメリカの獣医大学の違いなどをスライド形式で発表を行った。予想外に日本に興味を持ってくださった学生の方や先生方が多くとても緊張したが無事に終わることができた。この日の午後のローテーションが終わってからは町に買い出しに出て買い物をした。

#### Aug.29

朝食を大学のカフェで食べて午前のローテーションにまわる。この日は ophthalmology を見学しました。眼科ではこの日は最初に馬の眼の手術を見学することができました。角膜潰瘍で以前に眼球の上方の結膜からフラップを形成し、潰瘍部位に縫合したがうまく血液供給ができておらず、再度眼球下方の結膜からフラップを形成し血液の供給路を確保しようと言うものであった。

ローテーションが終わるとそのままドミトリーに戻り近くのコミュニティーセンターへ行った。

#### Aug.30

今日は午前SACP(Small Animal

Communication Practice) のトンプソン先生のセミナーが朝からあったためそれに参加しました。セミナーは基本的に先生がスライドを用いてその内容を話すものですが、途中で生徒に問いかけ、答えたらドーナツをプレゼントするという面白いこともおこなっていました。セミナーの内容は実際に自分たちが獣医師になったとして、どのような問題が待ち受けているか、それに対してあなたはどのように対処し、どのように考えていくかというものであった。その後は 2years の授業に参加した。

授業内容は数人のグループにわかれてある症例に関するデータを与えられて、それに対して話し合い、自分たちで答えを導くというものだった。このような授業は日本ではあまり行われないため、話し合いを聞きながら日本との違いを強く感じた。午後からは AMB(Animal Behavior) を見学させてもらいました。今日の午後の予約は一件だけで、診察の流れは最初の1時間はオーナーから説明を聞きその後 20 分ほどオーナーを除いて別室にて話し合いを行い、治療方針を決めその後の1時間でそれを行うというものでした。今回の犬はオーナーの家で以前から飼育していたが、赤ちゃんが生まれたころから少しずつ行動に変化がでてきて、他の犬に飼い主が触っていると横からはいつかいたり、体当たりをしたり、他の雌犬に対してやたらと追っかけたりするようになったりと他にも様々な行動の変化が起こったとのことでした。治療方針としては SSRI の投与ととりあえずの経過観察をしながら定期的に実際の様子をビデオにして送ってもらい改めて来院してもらおうとのことでした。これらの一連の流れでも質問したり話をまとめるのはシニアの学生で先生は横で見て、アドバイスをしたりと補助的な形サポートしていました。

Aug.31

今日も朝食を大学のカフェでとりその後 Small Animal Medicine へとローテーションに行った。最初にラウンドでその日に来院する予定になっている患者の状況報告や入院している患者の報告を行い、どのように治療していくかを教授、レジデント、シニアの学生たちで話し合いその日の予定を組んでいた。その後、自分は ICU 室を案内してもらいその中の設備などについて説明を受けた。北里大学の動物病院の ICU よりも規模が大きく常に VT が管理していた。午後には内視鏡検査を受けている患者と食道瘻チューブの設置しているところを見せてもらった。

Sep.1

今日は朝 8 時にカフェに朝食を食べにいきそのまま近くのブックストアにて買い物をしました。全くできない英語もアメリカに渡ったときに比べると少しは慣れてきたのかもしれない。買い物も普通にできるようになってきた気がする。

昼食は Under graduate 1year の吉田 健さんと外科のインターンさんのレイチェルさん達と昼食を食べに行ったがいった店が偶然昨日の夕食に行った店で二日とも同じ料理を食べた。昼食後には初めてアメリカンフットボールの試合を見に行った。今日の試合はいわゆるオープン戦のようなものなのだが、大学主催とはとても思えないほどの規模であった。日本の大学ではとても考えられないほどの盛り上がりで町では朝から酒を飲んで騒いだりしている人も多々おり、試合前には大学生以外にも様々な多数の観客が見られた。アメリカではやはりアメリカンフットボールが最も人気のあるスポーツらしくスタジアムの多くの人が「PURDUE」の文字が書かれた服を来て応援していた。自分もここぞとばかりに「PURDUE」に染まって応援した。

夕食はスコットマン・モンクリフ先生が自宅に招いてくださったためごちそうになり、とても楽しい一日を今日も過ごすことができました。

Sep.2

早朝にインディアナ動物園に行き一日中動物園の裏側を見学させて頂いた。実際にはサイに触れたり、チーターの寝床を見せて頂いたり、子供の象を見ることもできた。動物以外にもインディアナ動物園には海水魚などの鑑賞エリアもあり、その裏側も見学することができた。驚いたことは実際にサメやクラゲ、タツノオトシゴなどを水族館ないで繁殖させており、かなり小さい稚魚たちの水槽も見せてもらうことができた。個人的にはこちらの観賞魚コーナーの裏側の方が自分の趣味との一致もありとても面白かった。見学後には動物園を普通に見学し買い物をしてドミトリーに帰った。

Sep.3

時差ぼけは少しずつ治ってはきたが毎日慣れない環境でのハードなスケジュールだったため井上先生が午前中は体を休めるようにとスケジュールをあけてくれた。午後からも少し離れたモールで買い物できるようにと車で連れて行ってくれた。この日に日本人でパデュー大学でレジデントをしているゆうこと会い、みんなで買い物をした。

Sep.4

今日のローテーションでは Small Animal Surgery を見学させてもらいました。最初は Small Animal Medicine のときと同様でラウンドで一日の予定などを決め、その後前十字靭帯断裂の手術を見学させてもらいま

した。手術方法はラテラルスーチャーで北里大学の授業で学んだやり方と同じものでしたが、唯一違う点は糸を結紮する際に、北里大学では普通に外科結紮していたものを今回みた手術では糸の両端を筒状の金属に通しその金属をつぶして糸を挟むことによって止めるという方法であった。レジデントの方に聞いたところ糸を結紮するよりもこのやり方の法が固く結べるからとのことでした。

### Sep.5

本日のローテーションも外科を見に行こうと思っていたのですが、今日は特に予定が入っていなかったことから急遽眼科の見学をすることになりました。

午前中に眼科の手術を見て、午後からは Fair Oaks Farm に行き見学をしました。この施設は自分が想像していたファームとはほど遠く、とてつもなく広大な土地でかつ驚くほどの数のホルスタインを飼育しておりびっくりしました。

ファームでは農場内のバスツアーや実際に巨大な機械で搾乳しているところを見学できたり、実際に出産が間近な牛を専用の施設に入れて、出産する姿を見学することもできるようになっていました。自分たちが行った時にも生まれたばかりの子牛と出産がすぐの母牛がいて運良く出産シーンを見ることができとても貴重な経験をすることができました。

### Sep.6

今日は午前中はローテーションで Diagnostic Imaging に行き、午後には引率の嶋本先生の研究発表のプレゼンテーションを聞きにいった。自分は普段は病院でレントゲン撮影などを行っているためパデュー大学ではどのように行っているかが気になっていた為に見学に行ってみた。ここでも朝は小動

物と大動物に分かれて前日に撮影したレントゲン画像をパソコン上の画面に映し出し、どこに異常があったか、どのような所見が見られるのかなどを複数の画面にラテラル画像や VD 画像を映し出し検討するという仕事から始まった。他の研究室から撮影の依頼があるまでは基本的にこの作業を続けており、依頼があれば撮影やエコー検査などを行っていたが北里大学のように放射線治療や CT を使っ  
てはいなかった。

### Sep.7

本日が海外研修の最終日でローテーションは昨日と同じ Diagnostic Imaging に行きました。普段自分が見ている分野だけに他のところよりも理解することができ、とても学ぶことも多かった気がしました。午後のローテーションが終わると2週間のエクスターンシップの終了式と修了証の授与式がありました。普段の日程をこなしている時はとても忙しくそのときのことを考えることでいっぱいだったため、修了証を受け取ったときに2週間がとてもはやく終わってしまったように感じました。

今回の海外実習では日本とアメリカの獣医大学のシステムの違いやそもそもの獣医師の考え方など二カ国の異なる点を知るとともに普段のローテーションの中で勉強の面においても先生がたやレジデント、学生の方々が親切に対応してくだっただけで多くの知識を得ることができとても貴重な経験をする  
ことができました。

謝辞

Thank you so much for your kindness. I was able to spend precious time in this summer. I was worried about my

English before visit Purdue University. But Dr.Tomo and Dr.Scott-moncrieff and, many other people who I met in Purdue University supported me, so I could learn academic things and difference in veterinary school system between Japan and America and so on.

This externship have got me interested in Cardiology and Diagnostic imaging, Ophthalmology.

I will study this interested area and I hope this area become my specialism.

I appreciate for you, and I am glad to meet Dr.Tomo, Dr.Scott-moncrieff and a lot of professors and students in the Purdue University.

I think this two weeks is special time through my life.

I hope to visit and meet everyone again!!

Hiroki Imoto

## 岩田 竜治

海外研修に参加した動機、アメリカでの大まかな流れを説明した上で、そこで自分が感じたことや得られたことについて説明する。

僕は、以前からアメリカへ留学することに興味があったため、アメリカと日本の獣医学教育の違いなどはアメリカに行く前からある程度知っていた。そのため、今回の海外研修では、

まずは楽しむことを1番に、

1. 獣医療が進んでいるアメリカが実際どのくらいすごいのか
2. アメリカの学生の獣医学への姿勢がどんな感じなのか

3. 獣医学教育が発達していると言われているアメリカの獣医師あるいは獣医学生と比較して、今の自分（日本の獣医学生）がどのくらいのレベルにいるのか

など、今後自分が獣医学の道を歩むために参考にできるようなことを知るためにこの海外研修プログラムに参加した。

### <概要>

日本（成田）からシカゴ経由で Purdue 大学に着いた次の日から、平日の朝 8:00~17:00 は Purdue 大学付属病院の見学をして 17:00 以降はフリー、土日は朝から夜まで観光に行った。

Purdue 大学に着いたその日は、アパートで一休みをしてからご飯を食べに行って帰宅し、次の日からは、朝 8:00~17:00 まで Purdue 大学付属動物病院でクリニカルローテーションに参加をして毎日いろいろな科を見て回った。アメリカでは最終学年である 4 年生が 4 人ずつくらい各科に 3 週間ずつローテーションでいて、4 年生の下に付くような形で朝から夕方までその科に参加した。

僕らがアメリカでどのローテーションに参加するかは、だいたい 6 月末から 7 月頭あたりに日本で予め希望をとってアメリカの先生に提出した上で、Purdue でのクリニカルローテーションに参加するのだが、僕は初日に参加した科があまりに自分に合わず、次の日から毎朝アメリカの先生に変更をお願いしてほぼ予定外のスケジュールをこなした。

それと、北里では病理学研究室に所属しているのですが、クリニカルローテーションには組み込まれていない解剖病理、臨床病理の科にもお願いして回らせてもらった。

僕らの研修期間の 2 週間の中で実際に朝から夕方までがつつり病院におられるのは、

だいたい7～9日くらいで、僕は眼科、腫瘍科、心臓科、解剖病理、臨床病理、大動物の往診、小動物一次診療を回った。

1日の流れとしては、朝病院に着いたら、眼科なら眼科の Bull Pen に行き、そこでその日の診療やオペの予定の確認をし、患者は担当性になっているので、診療が始まると担当になっている4年とVT、時に3年生とともに診療室に入り、4年生がオーナーとやりとりをして診療をしていた。学生が実際に診療をするのは日本との大きな違いだ。診察が終わると、今度は先のメンバーにレジデントあるいはドクターが加わり、もう一度動物と一緒に診療し2回目の診療を終える。そして必要があれば2回目の診療のメンバーに専門医が加わり再度動物の診療を行ってようやく1件の患者の診療が終わる。すべての患者に対して3回診療を行うわけではないが、大学付属病院は teaching hospital と英語でいうように教育のための場であること、学生が診療に加わるとオーナーが負担する医療費が30%offになるという裏事情もあつたりして、オーナーは学生の勉強のために学生が診療することにとても寛容だった。

また、眼科はオペもこなすため診療の合間にオペが入ることがたまにあるが、基本的には上記のような形式の診療が数件入っていて、その診療やオペを見学することで1日のローテーションは終わる。もちろんオペはできないが、見学とは言え動物に触れたり、眼底検査や、眼の反射の検査、触診などいろいろなことをさせてもらえた。日本で僕が抱いていた診療のイメージとは異なり、病院内には最近人気の洋楽が流れ、診察室では患者の病態にもよるが、中には「今何を勉強しているの?」とか「どっから来たの?」とか、学生との会話を気さくに楽しんで話してくれるオーナーも結構いた。診療の途中で質問をし

たりもできて、割とフレキシブルな科も多かった。

そして、様々な科を見て回って「VTの役割」、「各科の体制」、「学生の熱意と先生の姿勢」にとっても驚いた。まず、アメリカではVTは国家資格であり、採血などの簡単な検査から膀胱穿刺など、ある程度の技量や経験が必要な仕事まで様々にこなしていたこと。VTがそれを信頼して任されているからこそ、獣医師は診断や治療に専念することができ、余計な時間を省くことができる。次に各科の体制についてだが、アメリカでは獣医領域における細分化が進んでいることは知っていたのですが、分かれている科それぞれがとてもしっかりとした体制をとっていたことに驚いた。例えば眼科では、眼科専門のVTが3人、ローテーションに参加している4年生が3人、専門医の卵（レジデンシー）が3人、専門医が2～3人いて、ローテーションでくる4年生にとっても質の良い専門的な知識を与え、経験をさせると同時にレジデントを育てていた。

また、どの学生や先生も、ドクターや学生、VTとディスカッションをよくして、疑問やわからないことがあるとわかるまで丁寧に説明してくれました。意見が違う時はとことん話し合う。

当たり前だが、すべての会話が英語なので英語ができるにこしたことはない。英語がわからなくても全然大丈夫と言う人も中にはいるかもしれないが、1日、1日アメリカで生活する中で一緒に行ったメンバーのほとんどが「もっと英語ができればなあ。もっと英語やっておけばよかったなあ。」とっていた。もちろんわからなくてもノリと勢いで楽しめると思う。海外生活の経験がある人でもそう言っていたので、準備は十二分にやって損はないと思った。

今回の研修では、アメリカの方が優れていると感じる点が多く、いろいろ今までの十和田での過ごし方を振り返り、これからどうしていったら1番自分にとっていいのかなど、考えさせられることも多かった。一方で、アメリカの学生と話したり、会話を聞いていたりしても、北里で学んできた知識とアメリカの日々の診療で使われている知識に大差は殆ど無いなと感じた。総じて感じた1番の大きな違いは、僕らはただ知識を詰め込んでいるのに対し、アメリカでは詰め込んだ知識を実際に使える知識にまでしているところだと思った。その違いは教育プログラムが大きく違うためだが、自分たちが日本で学生の間に診療を1人でできないとしても、自分次第で詰め込んだ知識を使える知識にすることくらいはできそうだなと感じた。これからそういったことを意識しながら残りの学生生活を過ごして行こうと思った。

Thank you for everyone we met at Purdue, especially Dr.Tomo and Dr.Scott.

It was the first time for me to visit the United States. So, I was worrying about everything before I went there. But because of you, we could have great time at Purdue Uni with no worrying.

Everything was so different from Japan, so every experience in the United States was really fresh for me. And I was really surprised at too many things to say all.

Though exactly we had rare and special experiences at Purdue Uni, the best thing was to meet you all we met there. It was most important for me.

I'm really appreciating just meeting you all. I want to go there again, someday. Thank you very much.

大森 英明

8月25日(土曜日)

ついにこの日が来たな。そういった気持ちで出発の前に荷物の再確認をし、電車の時刻表を確認する。本当に時がたつのは早いもので、大学1年生のころから行こうと思っていたが、気が付いたらあつという間にその日になってしまった。海外研修のために英語を勉強し続けようと、幾度思い立っては途中で挫折してきたか。結局、何も勉強しないよりはましだったと思うが、何とも頼りない英語力と、獣医学の知識で、本日インディアナ州のパデュー大学へと旅立つことになった。

成田空港へ着くと、予定より飛行機が1時間ほど遅れての出発となるということがわかった。「まあ、たかが1時間か。」と、きっと私を含めた全員がさほど気にかけていなかったに違いない。

飛行機内では特に問題もなく、狭いエコノミークラスの座席でエコノミー症候群にならないように気を使いながら、無事に乗り継ぎ地点であるシカゴ空港へと到着した。しかし無事だったのはここまでで、ここからアメリカというか、ユナイテッドエアラインの洗礼を受けることになった。入国審査で、飛行機の出発が遅れたことで他の飛行機と時間帯が被ったことにより、見渡す限りの長蛇の列。その上、進みもどうしようもなく遅く、結局2時間の足止めを食らってしまった。さあ、荷物を再度預け、ユナイテッドエアラインの職員に「Run immediately!!」とせかさされ、出発ゲートまで見知らぬ広大なシカゴ空港内を走る、走る。完全に息を切らしながらゲートへと到着すると、もう乗れないから次の便で乗ってくれとのことだった。急いで電光掲示板まで行き、次の便を確認する。ん？見当たらない、Information Centerへ行って確



認してみる。

「Tomorrow morning」

・・・そうくるか。

となると、まさか空港で一晩！？なんて怖い想像が頭によぎったが、すぐ宿泊のホテルと、一人当たり 20 ドルの軍資金をもらえた。とりあえず最悪のシナリオにはならず済んだことに一安心し、みんなでバスでホテルへ向かった。ホテルは、想像していたよりもずっと快適なところだった。部屋で取りあへず家族への事情説明をすまし、ホテルの中でシカゴの T シャツを買い、ホテルのレストランで、先ほどの軍資金を使ってアメリカ初の食事を楽しんだ。思わぬハプニングではあったが、意外にも楽しんでいる自分がいる。

8月26日（日曜日）

朝は以外にもすっきりとした目覚めだった。危惧していた時差ボケもさほどでもなさそう。ホテルでチェックアウトすまし、バスで空港へと向かう。朝食を済ませた後、今度は無事に飛行機に乗り、インディアナポリス空港へと到着した。

空港では、Dr.Scott-Moncrieff と、Dr.Tomo が迎えに来てくれていた。Dr.Scott-Moncrieff はとても笑顔が素敵な人で、着くまでの苦労をねぎらってくれた。そして Dr.Tomo、実は私はてっきり、Tomo という名前から、女性だと勘違いをしていた。だが目の前には筋肉隆々でスキンヘッドの大男の Dr.Tomo がいた。その姿に圧倒されつつ、1日空港で放置されていた荷物を回収し、車に乗って PURDUE 大学へと向かった。

車では、私は助手席に座ったのだが、Dr.Scott-Moncrieff は私の至らない英語での会話でも、一生懸命理解してくれようとしてくれた。どうやら、ここインディアナ州は、見渡す限り平坦な大地が広がっており、主な

作物はトウモロコシと大豆だそう。確かに、特にトウモロコシ畑は多く、見渡す限りの畑は壮大に感じた。しかしながら、今年は雨がほとんど降らず、多くのトウモロコシは枯れてしまっている。もっと本当は背丈も高いのだそう。

そして思わぬところで海外進出している日本のメーカーを知った。なんと、Dr.Scott-Moncrieff の息子さんは（ピーターという）、Kumon にかよっているのだという。

算数ができる子は Kumon にかよっているという程だから、日本の教育産業もなかなかのものだと思う。

ドミトリーに到着し、その後ステーキのレストランで歓迎会をしてもらった。やはりアメリカに来たからには食べるべきはステーキ、すごいボリュームだった。味も非常に美味だった。隣の栄子ちゃんは、あまりの大きさのリブを完全に持て余していた。

その後は、Mall に買い物に出かけ、必需品を買いそろえて、ドミトリーへと戻った。

これから2週間、私はリュウジとイモッチとの三人で過ごすことになった。

さあ、明日からいよいよ病院研修開始！

8月27日（月曜日）

朝、起床して初めて PURDUE 獣医大学病院に行った。レンガ造りのなかなか趣がある造りだと感じた。PURDUE の大学病院の中に入り、まずはじめに学科長の Dr. Constable が PURDUE 大学についての紹介のプレゼンをしてもらった。内容は、半分くらいしか理解できなかったが、面白いなと思ったのは、アメリカでは Large Animal と Small Animal だけではなく、その両方をみるミックスのひともいるということだ。確かに、この広大なアメリカの土地では、場所によっては両方を見なければいけないこともあ

りそうだと思う。日本ではなかなか考えられないことだと思う。

その後、保険関係の手続きを済ませ、Dr. Tomo が大学病院内を案内してくれた。まずは MRI の危険性についてのビデオをみて(英語はなかなか聞き取れなかったが、映像でなんとなく意味を把握)、そしてレッドカーペット(少し前までは神経学でレッドカーペットの上を歩かせて異常の有無を確認していた)、教授や生徒が待機するブルペン、安楽死が行われた後に面会場所としてつかわれるグリーンビングルーム、大動物の部屋、薬局(薬剤師は2人いるらしい)、ペットフードの管理室(様々な企業のフードがあり、例えば甲状腺に異常がある犬用など、その種類が多岐にわたっていることに圧倒された)などを見た。見て回っての感想として、当然、面白そうだが、規模が大きいなというワクワクを感じていたのだが、それに加え、「道に迷いそうだ」という不安を覚えた。実に、行きゆく通路がすべて同じ。Dr. Tomo にそんな話をすると、どうやら Dr. Tomo も最初はそうだったらしい。正直な話、方向音痴の私にとっては厄介なことだ。

その後、今日私は Small Animal Surgery に行くこととなった。

まずはじめに9カ月のシーザーの spay (避妊手術)を見せてもらった。手術の執刀から麻酔まですべて学生が行っており、側で先生がみているといった感じだ。部屋にはラジオがかけられていた。執刀している学生が、今何をしているのかを丁寧に説明してくれた。おその後、Declaws という手術を見た。これは、猫の爪を根元から切り取る手術で、飼い主が、猫が家の家具で爪をとぐのを防ぐために行うようだ。アメリカでは一般的な手術ではあるが、若い世代の人より、中高年のひとがこの手術を依頼することが多いらしい。

日本でも、そういった手術は聞いたことがなかったが、後に嶋本先生に聞いてみたところ、日本でも行われているようだ。この手術の間は、テクニシャンの人や、レジデントの人とかが集まって世間話をしていた。内容はおよそ恋話だった。恋話は万国共通の話題であることを改めて実感した。本日は避妊手術と去勢手術が2件ずつと、Declaws の手術だった。

8月28日(火曜日)

今日も Small Animal Surgery を見学した。8時から整形のカンファレンスに参加。

モニターにX線の画像が映し出され、教授が学生、レジデントに対して、この骨折には1期癒合と2期癒合のいずれの方法で治療すべきか、また、そのためにはどんなプレートの設置が好ましいか等を質問し、それについて議論しながら正解を導き出す。そして、プレートの設置意外にもどんな方法があるかなど、実際に整形の手術を行うときに考えることを、こうした流れで考えられる機会があることは非常に勉強になるし、有意義だと感じた。

その後、整形の TPLO の手術を見学した。犬種はセントバーナードで、手術台に乗っている様は、とても「小動物」と呼んでいいのか疑問を感じるくらいの迫力があつた。

プレートの設置方法などは、5年前期の学習したのと同じ手順を踏んでおり、たいへんだった試験勉強が活きた瞬間だった。プレートのベンディングにはなかなか力が必要なようで、執刀していたレジデントの女性が悪戦苦闘していたのが印象的だった。ただ力だけではなく、しっかりと脇をしめるなど、細かなアドバイスを DR が執刀医の女性だけではなく、麻酔や器具だしの人にもしていた。

TPLO の手術後は、「Kitasato Student

Seminar」ということで、私たちが日本でのどのような大学生活を送っているかを発表した。緊張は顔に出ているだろうし、ジョーク等気の利いたセリフも言えなかったけれど、聞きに来てくれた人や、嶋本先生もほめてくれたことがすごくうれしかった。みんなで夜遅くまで考えて作ったかいがあったと思う。その後、前十字靭帯断裂の手術を行っているのを見学。これは少し遠いところからであまりよく見れなかった。

その後、朝のカンファレンスの続きを行い、本日をもって **Small Animal Surgery** 終了。実際の手術風景を見れたことも、エクスターンのレイチェルさんやケイトさんたちと、つたない英会話ながら会話できたのは凄くうれしかった。明日からは **SACP**、頑張ろう！

8月29日（水曜日）

さて、今日から3日間 **SACP**。一体アメリカではどんな動物がどんな飼い主に連れられてやってくるのだろう。そんな期待を胸に抱きつつ、**SACP** や眼科に務める **Dr** やテクニシャン、シニアの学生が待機するブルペンという部屋へ向かった。そこで **Dr. Tomson** にあいさつすると、**Dr. Tomson** は、以前に十和田に来たことがありその時の写真を掲示板に貼っていて、その時の話を色々してくれた。シニアの生徒の **KAT** や **Na** さんについていき、診療室へ入れさせてもらった。診療室には、患者と飼い主、シニアの学生のほかに、3年生の生徒も同行していることがあった。シニアの学生が患畜を診察し、電子カルテにまとめたのを、**Dr. Tomson** らが確認し、最後に飼い主への説明をシニアの学生がする。というのがおおよその流れのようだ。学生が、先生の目が通るにせよ、自分で診察していることにすごく驚きを覚えた。

今日来た患畜はウサギと犬だった。特にウ

サギは面白かったのだが、どうやら避妊手術を受けるために来たようだが、ものすごい肥満体形でグーグーと異常な呼吸音をさせており、皮膚にスポットと結節を形成していた。触診、眼球検査、耳道検査、生化学的検査などのスクリーニングテストを行い、電子カルテに記録している間に、**KAT** に肺に異常があるのかと思って聞いてみたが、どうやら鼻腔の異常だということだった。

患畜を責任もって最後まで診察することを、実際に働く前に経験ができることに羨ましく思う。

8月30日（木曜日）

今日は、朝に **Behavior** のラウンドに参加させてもらった。**Behavior** の先生は **Dr.Ogata** という日本人の先生で、入交先生の先輩なのだという。

ラウンドは、与えられた実際ケースに対して、学生にそれにたいする問題点や原因、治療方針について尋ね、生徒が答えるというスタンスで行われている。昨日も感じたことだが、やっぱりこういったラウンドのように自分たちで問題を考える機会があることは本当にいいことだと思う。きっと記憶の定着もいはずだし、他の人の意見も聞けるし、患畜の問題に対するアプローチの仕方が上達するに違いないと思う。ラウンドでは考えながら英語で何とか自分の意見を言ってみようと思ったので、本当に簡単なことしか言えなかったが、実際に私も参加してみた。実際には的外れな発言だったかもしれないが、きっとまずは意見を言うことが大事なのだと思う。個人的に **Behavior** は興味がある分野なので、来週に **Behavior** の科に行くのがとても楽しみだ。

その後は、猫の外耳道のポリープの摘出手術をみた。麻酔の覚醒の際に猫が暴れて、手

術台から飛び降りて逃げ回り、一時手術室が騒然となったが、再度鎮静をかけて事なきを得た。その後、アレルギーの犬の診察をみた。

5時に **Clinical rotation** が終わり、夕食に **Heisei Japanese** レストランへといった。おいしいと評判のカツカレーをたのんだら、超特盛りサイズでカツの衣も厚く、大食いの私でも身構えてしまった。味は美味しい、しかし明日は胃もたれするかもしれない。

8月31日（金曜日）

今日の朝は **Dr.Tomson** の講義に参加した。意見や質問など発言すると、ドーナッツがもらえるという、ゲーム感覚を取り入れた講義をアメリカではする人が多いらしい。

講義の内容はというと、正直なところ講義中は、分からない専門英単語に気を取られ、あまり理解できなかったのだが、後から、実際病院に勤務した際に遭遇する可能性のある症例や問題について、あなたたちはどうしますか？ということだと知った。この時はいつも以上に英語を聞き取れなかったことを残念に感じた。もし今日の講義が大まかに分かることができれば、どんなに有意義だったかと思うと、ますます残念だし、悔しく思う。

しかし、その時の悔しさよりも何倍も悔しく感じるのが、その後すぐ起こった。

**A & I**セッションという2年生のディスカッション形式の授業に参加した。各テーブルに私たち **Visiting Students** は一人ずつ配置された。内容はあるアライグマ用の猟犬の疾患についての診断を各テーブルごとにみなで考え、答えを導き出すものだ。しかしながら、飛びかう高速の英会話と、専門英単語により、全く話に入って行けない。配られたプリントと壁に書き加えら得ていることにより、話している内容は分かる。しかしみんなが意見を言っているその内容が分からなければ、

ディスカッションには参加できないのだ。そのことを、まざまざと見せつけられ、失意の中で午後を終えた。

5時に **Clinical rotation** が終わった後、みんなで **Wolf Park** へ向かった。狼を遠吠えを聞こうと、みんなでとおぼえのまねをしてみるのだが、奥にいるコヨーテが遠吠えしてくれた。**Dr.Tomo**によると、近くにバッファローもいるらしい。是非いる間に会ってみたいものと思った。

9月1日（土曜日）

今日は楽しみにしていたアメリカンフットボールの日、だが天気は崩れていて少し心配ではあったが、試合時間にはなんとか回復してくれてよかった。スタジアムに行く前に、**Ken** と **Kat**、レイチェルと合流し昼食を食べ、スタジアムへ向かった。すごい大きなスタジアムで、すごい人で、すごい盛り上がりを見せていた。アメフトのルールは何んとなくしかわかっていなかったが、それでも観戦しているものすごく楽しかった。試合も **PURDUE** が勝っており、観戦を楽しんでいたところ、**Dr.Scott-Moncrieff** のお宅へ行く時間になり、試合の途中で抜けることになった。**Ken**、**Kat** 一緒に観戦してくれてありがとう!!

**Dr.Scott-Moncrieff** のお宅は、外観から内装まで、とても素敵な家だった。家での食事は美味しかったし、色々な人から興味深い話をたくさん聞いた、本当に充実した1日だったと思う。

9月2日（日曜日）

今日はインディアナポリス動物園に行つて動物園の裏方を見せてもらえるということでも楽しみにしていた。インディアナポリス動物園に着くと、まずはキリンとサイの裏

の様子をみた。職員の人が2頭いるサイについていろいろと教えてくれた。サイの皮膚を触った感覚は、ごつごつして硬いのだが、ところどころ柔らかいという不思議な感触だった。

次にゾウを見に行っただが、親と子供のゾウが水浴びをしているところだった。子供のゾウが水浴びしながら走り回っている姿をみたときは小さな感動を覚えた。離乳の期間を聞いてみると、大体6か月だということだった。

その後、動物病院を案内してもらった。様々な動物のレントゲン写真は、おもしろくて写真におさめた。その後はイルカのショーや水族館の舞台裏など見た。あいにくの大雨で、あまり動物園自体はあまり見れなかったのは残念だったが、途中で帰路についた。

9月3日（月曜日）

今日も祝日により休日、ということで Mall へお買いもの。レジデントで鳥の研究をしている Yuko も一緒に来てくれた。昼食を食べながら彼女と話をしたが、彼女自身の昔の話を聞いた時は、私にとって衝撃の連続だった。色々機会があれば Yuko の話をまた聞いてみたいものだ。今度のみんなで飲もうと言っていたからその機会があるかもしれない。

ショッピングを楽しみ、途中で男性陣で手羽先をつまみにいたり、、、PURDUE に来て一番ゆったりとしていたかもしれない、そんな一日だった。

9月4日（火曜日）

さあ、今日からまた病院実習がはじまる！今日は CARDIO だ！のだが、今日の心臓の患者は二件だけ。ということで Small Animal Medicine のラウンドに参加。そこ

でこの前から廊下ですれ違うたびに話をしてくれるレジデントのロンに色々な話をした。彼は先週の私たちの行ったセミナーにも来てくれ、良い発表だったとほめてくれていた。彼は前はニューヨークでビジネスマンをしていたらしい。ニューヨークに日本人の友人がいて、すごく尊敬できる人だという話もしていた。アメリカに来たなら今度はニューヨークに来なよと誘ってくれたので、ロンにも日本にも来てほしいと伝えた。

その後、一件ペースメーカーの不具合がないか確認の診察があり、実際に聞いてみるときれいな心臓の拍動がはっきりと聞こえた。異常はないようだ。

昼食後、嶋本先生のプレゼンテーションを聞いた。冒頭の大学の紹介の時に、嶋本先生のジョークを織り交ぜていて、みんなを笑わせていたのは凄いなと思う。嶋本先生本人はそんなにうけるとは思っていなかったそうだが、今後しばらくこのジョークはみんなの記憶に残りそうだ。その後、CARDIO へもどり、僧帽弁閉鎖不全の犬のエコーを見せてもらった。実際に5年生前期に勉強したことが活かしていることをまた実感した。

9月5日（水曜日）

今日は2度目の A & I セッション。今回は昨日事前に今日やるプリントをもらって、しっかりと予習したうえで臨んだ。さあ、今日はある程度聞き取れるんじゃないか！・・・そんな期待は、簡単に裏切られた。やはりそう簡単に自分の意見を言えるような状況は作れない、悔しいが、少しでも聞き取れるように神経を聞きとることに総動員して聞くことだけを心掛けた。

さて、またしても A & I セッションで打ちめされた午後、Fair Oak Farm に向かった。

Fair Oak Farm は Dr.Tomo 曰く、「牛のディズニーランド」だそう。テーマパークのようなものらしい。車を一時間ほど走らせてついた Fair Oak Farm は、たしかにテーマパーク。ミュージアムやシアター、アトラクション、アイスクリームやチーズなどの乳製品の売店などがそろっていた。しかしながら一番の衝撃はツアーバスで農場のガイドをしてもらった時。3000頭の牛が、誰の手を借りるわけでもなく一様に牛舎から搾乳所まで移動し、搾乳の機械へと自ら入り、搾乳が終わるとまた帰っていく。その様に圧倒されて見ていた。圧倒されたといえば、ここのアイスクリーム、美味しかったのだがあまりにも巨大だったようだ。私は友人のをもらったが、2人がかりでも食べきれなかった。

9月6日（木曜日）

今日の朝は病理のラウンドに参加した後、Behavior に行った。今日の1件と明日の3件の、事前に飼い主に書いてもらった問診表を見せてもらった。問診票には細かなシチュエーションを想定した、様々な項目があり、この問診票によりある程度の問題行動の原因を特定できるような作りになっている。さらに、飼い主に問題行動がみられるときのビデオを撮ってもらい、それも重要な手掛かりとなる。今日の一件は白いジャーマンシェパードで、外に出たがらず、不安で、飼い主をも怖がってしまいますということだった。

実際に診察室に犬が来ると、飼い主の隣に犬も座るのだが、リードの伸びる限り飼い主から離れるようにして座っている。テクニシャンが餌を投げても、まったく食べようとしない。ハーネスを外しても固まって全く動かない。この犬が今のようになったのは、飼い主が旅行に出ているときに祖父の家に預けたときからだという。ビデオを見ても外出の

時は尻尾が下がっており、歩きも重い感じだった。このケースでは、飼い主の言ったように預けていた時に何かがあったのかもしれないし、それに加えて、この犬の遺伝的な面も考えなくてはならない。例えば、白いジャーマンシェパードは遺伝的に問題があることが多いようだ。今後の治療方針としては、ジアゼパムの投与、犬にとって安全なスペースとこのを作ってあげる（来客が来たときにそこへいけるよう）、クリッカートレーニングなどを行っていくということだった。

今日は午後に Dr.Tomson の自宅へいった。Na さんや Kat さんも来ていて、みんなと色々な話ができてとても楽しかった。

9月7日（金曜日）

今日はいよいよもって最終日、まず朝に Behavior で1件の症例を途中まで見て、ついに最後の A & I セッションに挑んだ。やはり今回もディスカッションには意見を言えなかったが、最後終わったときに、今回参加してみてどうだった？何か提案でもある？と質問された。果たして私は参加できていたのかな？と少し疑問だったが、本当に参加できてよかったこと、日本でこういった授業はなかったもので、私には素晴らしい経験になったこと、感謝の気持ちを話した。きつとちゃんと伝わったと思う。今まで試行錯誤して英語で話していたが、この時が一番意識せず自分の気持ちをスムーズに伝えられた。

そして午後の Behavior の症例も途中まで顔を出し、その後は Farewell ceremony で、修了証と記念品をもらった。これで終わってしまうのかと思うと本当に寂しくてならなかった。

最後の夜、Yuko が来てくれて嶋本先生も含めて打ち上げ。夜中まで飲み飲んで、心行くまで楽しんだ。

9月8日(土曜日)

寝過ごすのではないかと心配したが、なんとか時間内に空港へ到着、そして Dr.Tomo と Dr.Scott-Moncrieffに見送られ、今回はシカゴで一泊することなく、無事日本へ帰国。

終わりに、この2週間を振り返ってみたい。本当に言葉の通り数えきれない素晴らしい経験をする事ができた。とてもそれをすべて文章にすることはできなかった。この溢れんばかりの経験から自分が感じたことを、これからの生活に少しでも活かしていこうと思う。

そしてこのように思えたのも、Dr.Scott-Moncrieff や Dr.Tomo、それに嶋本先生と一緒にいったメンバー、そして出会えたみんなのおかげであることを強く感謝しながら、この海外研修の報告を修了しようと思う。

Thank you for everything!

Time flies so fast. It was One month ago when I went to Purdue.

To be honest, I was worried about this overseas training go well because I'm not good at speaking English. But, to tell the truth, many people speak slowly and kindly for me.

I had purposes for this training.

- 1, To know the difference of education system between Japan and America.
- 2, Having many experiences which can not experience in Japan.
- 3, To talk many people in English and make many friends!

Now I think all of these purpose were achieved, thanks to many people such as Dr .Scott-Moncrieff, Dr. Tomo , Dr. Ogata and student and staff in Purdue.

Thank can't thank you enough!!

And now I have new goals.

- 1, Speaking English more frequently.
- 2, Studying hard and come back to Purdue.

So I focus my energy on my goals.

Finally, I would like to express gratitude for the people who met during wonderful two week. I appreciate your kindness. Thank you for everything!!

Hideaki Omori

高田 璃羅

<獣医学におけるアメリカと日本の違い>

Purdue 大学での2週間(8/25～9/9)の研修を通して、アメリカの獣医学科と日本の獣医学科における大きな違いを体感することができた。アメリカのシステムはある程度研修前から理解してはいたが、この目で実際に見て、その違いがとても大きいものだということがはっきりした。

まず、アメリカでは学生が診察や処置を行うことができる。日本のように実習用の動物しか触れないのではなく、飼い主のいる患者を獣医師と同等の立場で診ることができていた。もちろん、学生が診察した後はDr.によるチェックがあり、そのため飼い主は安心して学生に自分のペットを預けていた。Purdue 大学では学生による診察の場合、Dr.のみの診察よりも治療費が30%安くなるシステムになっているらしい。アメリカでも獣医療における診療費は高く、少しでも安く診てもらいたい人が多いため、このシステムは

飼い主にとっても学生にとってもプラスに働くようにできていた。

学生たちは、飼い主と1対1で問診を行い、その後Dr.とともに確定診断を行なっていく。治療方針や診断に関しては、Dr.が説明するが、手術の予定を決めたり、治療費の話をしたりするのは学生の役割であった。

違いが目立つ一方で、診察・治療内容は日本とよく似ていた。歩行異常の見られる犬に対して行う神経学的検査の内容は、北里大学の講義で得た知識と同等のものであったし、下痢の犬がくれば、細菌がないかどうかを調べる方法も同じであった。麻酔の導入も、私達が実習で行った方法と同じようにしていた。

やっていることが同じでも、日本になくてアメリカにあるものは、臨床獣医師として社会に出た時の経験の差である。私たちは実際に知識があってもそれを使う手段を知らないのだということがよく分かった。病気を知っているだけではダメであり、その理由を考え、診断し、治療をする。日本のシステムはある意味では頭でっかちのようなものだと感じた。

しかし、アメリカでは臨床の現場に重きが置かれている一方で、研究に関しては軽視されていた。私達が卒業論文のために取り組んでいるような内容は、アメリカでは行われていない。Undergraduateの時にある程度論文を書いてはいるものの、それはあくまでpre-vetのための論文であり、獣医学としての論文ではない。この理由としては、アメリカでも日本と同じように臨床医、とくに小動物臨床を志す者が多く、研究に重きをおく必要性がないからではないかと考えた。日本でも臨床医を目指す人が多いけれど、大学では研究に重きをおいていると伝えると、それはとても変わっているね、と驚かれた。

アメリカの大学病院のシステムはとても合理的になっていた。カルテは全て電子カルテであり、それぞれのユーザー名でログインすれば、病院内のどのPCを使ってもそのカルテを検索することができた。診察を行う際も直接PCにカルテを書き込んでいた。また、時間に対してきっかりとしていて、一般の科（腫瘍科、外科など）は17時になると診察を終え、代わりに救急科が動き始める。日本では救急と通常診療は分けられていないが、アメリカでは救急は救急のDr.がいるため、一人のDr.が寝ずに翌日を迎えるようなことはないシステムになっていた。

日本には法律上、獣医における専門医制度が存在しないのでアメリカのシステムをそのままそっくりと適応することは困難である。各団体が独自に専門医制度を定めたりしているが、その専門医認定も認定手段が様々であり、飼い主がその専門医という言葉を信頼するにはイマイチ説得性に欠けるものがあると感じている。現在、日本でも少しずつ専門医の重要さが考えられ始めており、アメリカのresidencyになり専門的なことを学ぶことを応援するような制度もでき始めてきている。アメリカと日本では、学ぶことには差はなくても専門的なものが得られるかどうかの差が大きい。日本の獣医療が向上していくためには、専門医制度を取り込むのもひとつの手段であるように感じた。日本でも、専門的な知識が問われるような症例が増えてきているため、それに対応するには普通の動物病院ではカバーしきれないと思う。

#### <A&I session>

アメリカでは学生時代にA&I sessionという授業を受けることになっている。これは、実際の患者を例にして、学生たちにまず主訴



と所見、血液学検査結果などが提示される。これをもとに、学生たちは何が問題か、どこに注目するか、そこからどのような病気が考えられるかをディスカッションする。そして、考えられる病気について、次回の授業までに調べ、まとめ、それについて発表する。その発表からさらに診断を進め、最終的に確定診断を行い、その治療方針について考えていく、という授業である。

これはグループディスカッションであり、学生たちは発言することで点数になるため、だれもが積極的に発言していた。この授業に参加して感じたことは、学生たちがすぐにいろんな可能性に気づくことであった。私もその話をじっくり聞いていけば、大学の講義で習ったことを思い出し、たしかにそうだと頷くことはできたが、彼らのような早さで様々な問題点を提示することは困難であると思った。

私たちは、知識を入れる機会はいくらでも出ず機会が極端に少ない。この A&I session は難しい授業であるが、とてもいい経験、勉強の場になることが分かった。今後、日本の大学でもこれに近い授業が積極的に取り入れられれば、私達が社会に出た時に立つスタートラインの位置が変わってくるだろうと思う。実際に受けてみて、英語ではとても難しかったが、興味深く、面白い内容だった。北里大学でも、ぜひともこのような授業をしてほしいと思う。ちょうど、CBT や OSCE のようなものが獣医学科でも取り入れられるという話があるので、その機会に A&I session のような授業もカリキュラムに含まれれば、よりいっそう学生の成長の場になると思う。

次に、私が実際に訪れた科のことについて、報告したいと思う。私はこの 2 週間で、Small Animal Surgery、Anesthesia、Small Animal Community Practice の 3 つ

の科をメインに見てきた。

#### <Small Animal Surgery>

小動物外科は、軟部外科と整形外科の 2 つに分けられていた。アメリカの獣医学科の中でも、このように分かれているところはとても珍しいらしく、普通は小動物外科としてひとくくりにされているものらしい。私は主に整形外科の方を見学させてもらった。

整形外科の朝、夕に行われているラウンドでは、症例の X 線画像を見ながら、どの手術法が最適かを Dr. が学生たちに問いかけていた。症例に対して、プレート法は適切かどうか、不適切な理由はなぜなのかなど、学生たちがわからない部分は丁寧に説明していて、いいシステムだと思った。問われた内容に対して学生たちはすぐに答えていたので、よく勉強していることが分かった。

整形外科では TPLO や Lateral suture の手術が多かったように思う。

軟部外科では、日本では珍しい手術に猫の declaws という、爪を取る手術があった。アメリカではわりと一般的な手術で、猫が引っ掻いても壁や家具に傷がつかないようにするために爪を取ってしまうというものだった。子猫の時期にやるのが最もよく、目的から前足のみ手術を行うことが多いらしい。術後は数時間で歩けるようになるので翌日退院可能だった。

#### <Anesthesia>

麻酔科では、犬の場合、前投与薬としてアセプロマジン、水性モルヒネ、プロポフォールが用いられていた。吸入麻酔薬はイソフルランであり、これは日本と同じであった。また、硬膜外麻酔にはモルヒネが用いられていた。

ウサギの麻酔も見ることができた。前投与

薬としてはブトルファノール、ミダゾラムが用いられていた。また、吸入麻酔薬はセボフルランであった。

アメリカでは大型犬を飼う人が多いので、呼吸バッグを的手法で押し続けるのはとても大変であり、呼吸バッグは機械によって自動調節されていた。多くのものが機械化されたものでコントロールされることで、麻酔担当は患者の様子を見ることに集中できる利点があった。

#### < Small Animal Community Practice >

Small Animal Community Practice では、様々な動物たちに対して、時間をかけて丁寧に診察していた。実際に見ることはできなかったが、ラットやイグアナのようなエキゾチックアニマルの症例も数多く病院に来る。Behavior とともに連携が取られていて、問題行動をとる動物に対する問診に立ち会うこともできた。

また、ちょうどヒルズのセミナーを聞く機会があり、栄養学の観点から新しいペットフードの開発と、その効果について説明があった。実際に Small Animal Community Practice の問診のときにも、ヒルズやロイヤルカナンの名前はよく上がっていた。適切なフードを選ぶことが大事だということ、食事療法はアメリカでも大切にされていた。

Clinical Rotation 以外にも様々なイベントがあったり、セミナーを聞いたり、実際に授業を受けたりする機会があり、そのどれも面白くするためになるものであった。アメリカの講義は日本とは違い、学生たちに考えさせる機会をたくさん作っていたことが興味深かった。

休日には様々な場所に連れて行ってもらったり、ホームパーティーに招いていただいた

りと、私達を楽しませてくれた。そのどれもが新鮮な体験で、休日でのことも含めて Purdue 大学に行けて本当に良かったと思っている。

Thank you for everyone who I met in Purdue University, especially Dr.Tomo and Dr.Scott-Moncrieff. Thanks to all of you, I had great time for these 2 weeks. I had a lot of experience I have never seen.

I am not good at speaking English, but everyone talked to me with kindness. I was very happy to communicate with you. In Farewell party, some students came to see us. I was glad to see many people in these 2 weeks. I want to keep in touch with you!

I have never forgot all things and people I met in these 2 weeks.

Rira Takada

#### 三宅 正徳

##### 事前準備

狂犬病のワクチンを3回受け、海外保険を準備し、たまに英語の勉強をした。病院研修で必要な服や靴も買った。それから、現地でお世話になる方々へのお土産をメンバーで買いにいったが、何がいいかなとあれこれ皆で考えるのは楽しかった。

##### 出発～到着

一行は、成田空港からシカゴ空港経由でインディアナポリス空港に到着する予定だった。しかし、始めから飛行機の出発が1時間遅れた。さらに、シカゴでは、入国審査に時間がかかり、乗り継ぎの便がなくなるという羽目にあった。その日は航空会社の計ら

いでシカゴのホテルに一泊することになった。皆、いきなりの事に皆面食らったけれど、今となっては、シカゴでの一日は良い思い出となった。翌日インディアナポリスでは、Dr.Tomo と Dr.Scott-Moncrieff が出迎えてくれた。この2週間でお二方には言い尽くせないくらいお世話になった。

前年までの研修生は大学から距離のあるホテルに宿泊したそうだが、私たちが過ごしたのは、キャンパスの端にある **Purdue Village** という寮だった。私は二人一部屋で滞在した。リビングとベッドルームにキッチンとバスルームがついていた。家具も完備していて、十分すぎるほど広く、とても快適だった。難点は、コミュニティセンターなどに行かなければ、インターネット設備がないことと、ダウンタウンまでちょっと距離があったことくらいだった。

#### 病院研修

到着二日目から病院研修がはじまった。2週間どこの科を回るかは事前に希望に沿ったスケジュールを組んでもらっていたが、お願いしてどんどんスケジュールを変更した。かなり自由に動かしてもらった。わがままを聞いてくれた先生方にはとても感謝している。余談だが、病院を回ってみて驚いたのが、女子学生の数だ。圧倒的に男子学生よりも多かったのだ。聞くところによると、アメリカでは、医師や獣医師などの仕事は女性の仕事になっているそうだ。現に **Purdue** の女子学生の割合は8割に達するらしい。日本でも女子学生の割合は増えているが、まだまだ逆転しないと思う。

病院で最終的に自分が回ったのは、大動物外科、眼科、小動物コミュニティプラクティス、救急科、行動科、大動物往診などである。

#### 大動物外科

初日の午後は、大動物外科で馬の腸捻転の手術を見学した。手術室ではすでに、馬が麻酔にかかって、大きな台の上に仰臥位に固定されていた。馬が仰向けに寝かされているのを初めて見たので、私には驚きだった。ここでは、麻酔のチームと手術のチームがそれぞれ連携して動いていた。術者は男性のレジデントだった。アメリカの大学病院では、レジデントの3年生になってやっと執刀することが許されるのだそうだ。他にはVTや学生が助手としてついていた。その周りでは、獣医科の学生やVTの学生が見学していたので、私もそこに混じった。

術者が早速、馬を開腹し、腸を取り出すと、かなりの部分が壊死して変色していた。壊死部分の両端は腸鉗子ではさんだ、その内側を大きなホッチキスのようなもので閉じた。鉗子とホッチキスの間を切断し、壊死部分を除去した。除去後、彼は残った腸の両端を側側に重ねて、接触部分近くで両方に穴を開けると、二股に分かれた器具を突っ込んだ。その器具は、腸壁を接着すると同時に間を开通させることができるらしい。見たこともない便利な器具にすごいなと思った。その後、念入りに術創を洗い、閉腹した。切除部分が大きいため、予後の見通しは立たないと伺った。腸の吻合は実習で担当したところだったし、大動物の手術は初見だったので、かなり興味深く見学した。

#### 眼科

結局、一番多くの時間を割いて見学したのが、眼科だった。学生も先生も親切で、とても熱心に説明してくれた。本当に勉強になったし、何よりもとても居心地がよかった。学生たちと廊下ですれちがったときでも、今日はどんな動物がいるとか、どんな手術がある

とか気さくに話しかけてくれた。

この科の面白いところは、小動物と大動物の両方の診療を見られることだ。しかも、動物種も多様だった。私は、イヌ、ネコ、ウマ、ラマの診療や手術を見ることができた。中でも、興味深かったのは、ウマの有茎結膜被弁術の再手術やラマの眼球摘出手術だった。ラマが患者としてくることなんて、北里大学病院ではほとんどないと思う。このときも術者はレジデントの3年生だった。ただ、眼科の手術はかなり高度な技術を要するため、Dr.Townsent が絶えず見守り、途中で交代する場面も何度もあった。手術では、術者の視点を共有できるモニターがあり、様子を逐一観察することができた。ここでも、麻酔では、麻酔科の学生たちが活躍していた。

イヌやネコの診療では、学生が飼い主に挨拶に行くところから同行させてもらった。待合室で飼い主に挨拶をすると、奥に行き、患者の体重を測って、診察室に入った。簡単に身体検査をしながら、問診し、病状を調べた後、学生は奥に待機している先生やレジデントに治療方針を相談する。その後、相談された先生やレジデントは自ら病状を確かめて、もう一度学生と治療方針を確認する。その後、学生は飼い主と話し合っただけで治療方法を決定する。そして、学生は、自分でカルテを作成し、患者が入院する場合はその世話も自らがする。飼い主にとっては回りくどく思えるかもしれないが、学生にとってはこれ以上実践的で勉強になるシステムはないように思えた。カルテは電子化されていて、病院内のすべてのPCで閲覧できるのも、合理的で良いと思った。

#### 救急科

救急科は昼の部と夜の部に分かれて、24時間体制で回っていた。私は、夜の部を見学

させてもらった。患者は生後間もない子猫や、事故で腹部が開いてしまったネコ、目頭から流血しているイヌなどひっきりなしに担ぎ込まれ、かなりバタバタとしていた。簡単な手術であれば、VTと学生が協力して、麻酔をかけて手術をしていた。Dr.Inoue(Dr.Tomo's wife)は全体を把握するため、自分の患者を抱えながらも、見回りをしていた。この日は、瀕死の重傷を負った患者はいなかったけれど、緊迫した現場だった。

来院したなかに、老衰で後肢がたたなくなったイヌがいた。大型犬だったため、老いた飼い主にはこれ以上世話をしていくことができないと、安楽死の申し出があったそうだ。飼い主とイヌは、病院の一室で最後の時を過ごしていた。愛犬の命を絶つ覚悟を決めなければならない飼い主の気持ちを考えながら、私はしばらく宙を見上げていた。私と愛犬の別れは突然だったけれど、自分でその時を決めるのはもっと苦しいのかもしれないと思った。

#### 小動物コミュニティプラクティス

ここでは、あまり見る時間が取れなかった。診療の流れは、眼科の項に記載したのと同じだった。イヌの診療を少し見学した。ここで診察を担当している学生は、次項の行動科のほうにもよく顔を出していた。二つの科はつながっているようだった。

#### 行動科

行動学には前々から興味があり、是非、診療を見てみたいと思っていた。診療は木曜と金曜に、完全予約制で行われている。無理をいって予定より多く見学させてもらった。行動科では、予約とともに、飼い主から資料が送られてくる。まず学生と一緒にラウンドをして、症状の確認や、原因の予測を立てる。

そして、患者と飼い主が来ると Dr. と学生と一緒に問診、診察をする。

最初の患者は、大型のシェパードで、日ごろはおとなしかったのが、突然、他のイヌに吠え掛かったり、訪問者にうなったりするようになったそうだ。広い診察室に入ってきた飼い主は、壁際に患者をつなぐとその傍らに座った。それに向かい合って、部屋の中央に Dr.Ogata と学生が並んですわり、問診が始まった。問診の間、VTが患者にお菓子をあたえたり、クリッカーの条件付けをしていた。私たちはVTの隣で見学した。診察、問診には2時間ほどじっくりとかけた。それから飼い主と患者を残して、Dr. と学生は部屋の外で話し合い、診断を下した。Dr.Ogata は、飼い主に、患者には fear based aggression があることを説明し、投薬の説明とイヌに行動の選択権を与えることを指導した。

診断の基本となることは、私が入交先生の授業で教わったこととほとんど変わらなかった。それを応用して、臨床に使っているという感じだった。ちなみに、Dr.Ogata は入交先生の先輩だった。

## 往診

往診は Dr.Hillton につれられて2度行かせてもらった。Purdue のロゴが入った大きなトラックの荷台には、診療に必要な道具や薬品がきれいに積まれていた。Dr.Hillton とパートナーのVTは二人ともとても気さくで話ずきなので、牧場に向かう車の中でもとても楽しかった。一件目の牧場では、女性オーナーが快く私たちを迎えてくれた。患者の牛は蹄に疾患があり、削蹄を行い、消毒した。付き添いの私たちも手伝わせてもらった。帰りには、トラクターの会社に立ち寄り、日本ではほとんど見ないような、巨大なトラクターに乗せてもらった。二件目の牧場では、

駆虫薬ベルメクチンの撒布とワクチンの接種を手伝った。だいたい30-40頭くらいだったと思う。その後は、餌の糞をサンプリングした。牧場へ向かう道中、トウモロコシ畑と大豆畑と牧場しかないインディアナの風景を堪能した。

## A & I セッション

今回の研修から初めて参加することになった授業である。6人くらいの生徒と一緒に、渡されたプリントの症例について、ディスカッションして病気の診断をするというものだ。今回の病気は IHMA だった。5年前期に勉強した病気だったけれど、最初は何がなんだかわからなかった。会話がとても早口で半分ついていくのがやっとだった。当然、発言する余裕などはなかった。3回授業を受けたので、3回目にはグループのメンバーとも挨拶くらいはできるようになっていたけれど、最初の授業の時は、孤独感が半端ではなかった。アメリカの学生が受けている授業を体験することはできたけれど、ハードルはとても高かった。

## プレゼンテーション

自分たちの街や大学をプレゼンテーションで紹介した。最初は少し面倒だと思っていたけれど、この機会があつて良かった。たくさんの人が見に来てくれたし、プレゼンテーションのおかげで、少しは自分たちのことを知ってもらうことができた。それに、プレゼンテーションがよかったと言ってもらえた時はうれしかった。バタバタと仕上げた部分もあるけれど、上出来だったと思う。

## 休日やイベント

ウルフパークに、動物園、大学のアメリカンフットボールの試合、サッカーの試合、先

生の家のパーティ、レストランなどいろいろとつれていってもらった。私たちのために時間を割いて計画をしてくれた先生や生徒の方々には本当に感謝したい。動物園では、サイに直に触ることができて本当に感動した。日本でも動物園研修に行きたいと思った。アメリカンフットボールではアメリカのエンターテイメントを体感できたし、Dr.Scott-Moncrieff と Dr.Tompson のご自宅では本当に楽しい時間を過ごさせてもらった。また、メンバーや嶋本先生と一緒に繰り出したダウンタウンでの時間も楽しかった。

## 感想

2週間、本当に毎日が濃くて、一日一日つかれきるほど楽しだし、勉強になった。日本では体験できないことをたくさん体験できたと思う。しかし、この時点で、私は北里大学ではまだポリクリもうけていないし、病院に出入りすることもないのでシステム上の違いは聞き及んだ程度のことしかわからない。だから、日本とは違うことを体験できたと感じているだけで、中には変わらないこともあるかもしれない。これから、ポリクリを受けてそれを確かめたいと思う。

ただ、アメリカのシステムは臨床を志す学生にとっては本当に実践的なカリキュラムであると感じた。これは他のメンバーも口々に言っていたので間違っていないと思う。でも、逆に、臨床獣医師を目指す学生ばかりで、研究志望の人数が足らず、研究レベルが下がっているという弊害があるらしい。それならば、大学で研究に力を入れている日本は研究志望のほうが多いのかということ、実際はほとんどが小動物の臨床志望だ。どうやったら、研究志望の人間を増やせるかというのは難しい問題だと思った。

システムの比較はまだわからな位部分が多

いが、やる気を比較すると、アメリカの学生に軍配が上がってしまうように思った。自分が怠惰に過ごしてしまった日々が恥ずかしい。残りの学生生活を精一杯がんばろうという刺激をもらった。

それから、A&Iセッションのこと。授業を復習して、これをやっていたのかとわかるとそれほど大層なことでもなく、会話についていけなかった自分が悔しかった。「ある程度は英語ができる」では、彼らとは全然渡り合えないのだった。もっと広い世界で生きていきたいのであれば、英語をもっと勉強するべきだとわかった。

最後に、アメリカでお世話になったPurdue大学の先生、生徒の方々、一緒に行ったメンバー、同行の嶋本先生、そして、研修へ行くことを援助してくれた両親に感謝します。

## 謝辞

I had great time in Purdue University due to all the people who supported me. I really appreciate to them, especially Dr.Tomo and Dr. Scott-Moncrieff. They always tried to help us. Without their help, we could not spend such a good weeks.

I had already had some experience in U.S, but this time was different. I had extremely dense and short 2 weeks. I could watch, hear, think, and learn a lot of things in and out of the hospital. I was really tired everyday, but enjoyed. Also,I was inspired by teachers and students who had hard works in the hospital. For my feature job, the experiences in Purdue will become my compass needle, if I become a clinician or not. One thing, it is to be regretted that my English had been worse. If I had been

able to prepare for it, I could get better communication. I need to study English more to be a closer friend with you. I hope see you again and keep in touch.

山本 栄子

<訪れた診療科について>

### ① Large Animal Surgery and Medicine

大動物外科に訪れた際、馬の疝痛手術をやっていると聞き、見学に行った。私が駆け付けた時には馬は既に麻酔下にあり、大きな手術台に乗せられた状態でオペが進められていた。今回の症例は病態がかなり進行しているようで、生存率はわずか10%程にしか満たないとのことであった。確かに術野を覗いてみると、見えている範囲の小腸の大部分が紫色に変色し、手術室は組織が腐ったような臭いが立ち込めていた。切除した小腸は18フィートつまり約5.5メートルにも及び、馬の小腸はヒトや犬のそれより遥かに太く長いため、それを取り出している光景は中々迫力があつた。

内科では日本だと滅多にお目に見られない患畜に会うことができた。特に印象的だったのは、アルパカの親子であった。彼らが入られているヤードに行くと、お母さんアルパカは至って健康そうであったが、赤ちゃんアルパカは弱弱しく座り込んでいて大きさもチワワより少し大きいくらいだった。学生に聞くと、その子は早産で生まれたらしく、出生から一日も経っていないとのこと。特に病気にかかっている訳ではないが、虚弱体質である故に赤ちゃんが充分元気になるまで電解質を投与したりして様子を見ていたと言っていた。幸いなことに、その赤ちゃんにミルクを与える手伝いをすることができた。ヤギミル

クを哺乳瓶に入れて与えてみたのだが、ゴムのニップルに不慣れなせいか最初は中々飲んでくれなかった。が、後半は徐々にコツが掴めてきたのかふらふらしている首を何とか安定させて一生懸命に吸おうとしていて、その健気な姿に胸がきゅっとした。私がパレードにいた最終日になってもその子は入院していたためその後どうなったかは分からないが、体調は良くなってきていると聞いていたため、無事退院できたことを願っている。

### ② Small Animal Medicine

私が見学した日は、“Gizmo”という名のチワワが来院していた。歩行のふらつき、何も飲み食いをしていないというのが主な稟告であった。数日前に来院した際は、ステロイド剤を処方されたが、飼い主がトイレに連れて行った時にGizmoが突然倒れ一定時間動けなくなったという。その晩、ERに連れて行つたが、白血球が増加しているが熱はないという情報しか得られず、その時から病態が改善しないとのことだったので今日再び来院したとのことだった。担当していた獣医師は、熱がないことから今のところ感染症の可能性は低く、神経疾患ではないかという見解を示していた。Gizmoは診察時常に興奮状態にあり、皮筋反射を見ようにも暴れてとてもじゃないが正常な結果が得られそうになかったため、その日はケージレストで入院させることになった。特に決定的な診断は下されなかったが、皮筋反射やプロプリオセプションなど授業で学んだことを実際に見ることができとても勉強になった。

### ③ Animal Behavior

数々の科を回った中でも、Animal Behaviorは非常に面白く、また奥の深い分野だと思った。入交先生からこの分野について学んでい

たため、尚更そう感じる。この科は飼い主の話に親身になって耳を傾け、飼い主と獣医師で解決策を決めていくため、診療は比較的長時間にわたりそれ故情報量も多いが、今回見学した一件について詳細を記載していこうと思う。

患者は白いジャーマンシェパードで、飼い主が休暇で1週間ほど旅行に行った後から問題行動を起こすようになったという。飼い主の証言では休暇中、その子は知り合いに預けられ、そこで飼われている他の犬とも仲良くやっていた。しかし、それ以後その子は近所の犬との交流を避けるようになり、散歩中も常に周りを警戒し落ち着きがなく、自分に対しても心を閉ざしてしまった。以前は散歩も好み、近所の犬とも楽しそうにしている健康そのもので元気な子であった。今日ここに来院する以前に、別の動物病院で抗不安薬を処方されており、一時期は問題行動が改善されたと思われたが、途中投薬量が当初の数倍以上になった後、再び問題行動がしばしば見られることになった。今では、外出時に飼い主が強制的に抱きかかえなければならぬ時もある。自宅では比較的落ち着いているが、それでも窓から何かが見えると怯えたようにそこを凝視し続けるために最近はブラインドを閉めている。これらの情報から、担当の獣医師は以下の考察と解決策を提示した。おそらく、その子は預かり先で、特に外出時に何かトラウマになる事が起きて、その結果上記の問題行動を起こしてしまった可能性が考えられる。服用中の抗不安薬は増量したために、副作用として問題行動が強く出ていることもあり得るため、服用量を減らし、代わりにジアゼパム等の薬と併用する。ストレスを最小限にするため、しばらく家周辺の散歩や近所の犬との交流を控える。飼い主の証言で、車で数十分走らせた所にある草原では例外的に

リラックスしてはしゃぐ様子が見られることから、症状が改善するまで散歩はそこで行う。家の中、特に飼い主のオフィス部屋にいと落ち着くようだから、そこにその子のシェルターを作ってあげて、不安を感じた時はいつでもそこに避難できるように部屋のドアを開けておく、等々。獣医師が言っていた通り、問題行動が治るには忍耐と長い年月がかかるが、その子を信じてがんばってほしいと思った。

#### <総括>

アメリカでの研修を2週間終えて感じたことは、アメリカと日本の教育システムは全く異なるということ。驚いたことに、大学病院内で行われている診察や手術はほとんど学生によって行われていた。カルテを記入したり、飼い主に入院している飼い犬や飼い猫の状態について電話やメールをしたりすることも全てこなしているため、本当に凄いなと思った。また、病院内のカルテを始めとする患者の情報は、全てコンピューター内にデータ化されており、キーワードを入れればいつでも欲しいデータを引っ張り出すことができ、全体的に病院のシステムが非常に効率的であると感じた。日本人の教師や生徒は少ないものの、アジア人の生徒が比較的に見られたため、パーデュー大学は **international students** に対して友好的で、コスモポリタンな印象が残った。平日は基本 **clinical rotation** の日々を送る一方で、休日は教授が家に招待して下さって皆で **BBQ** をしたり、動物園に行くと特別にチーターや白サイを間近で見せてもらったり、**Wolf Park** で生のオオカミと会ったり、大学のフットボールゲームを観たりと、本当に有意義で楽しい研修期間を過ごすことができた。何かあれば親身になって教えてくれて、且つ色々な所に連れて行って下さった



Dr. Scott-Moncrieff と Dr. Tomo、私たちパーデューメンバーをいつも見守りまとめてくれた嶋本先生、共にアメリカのキャンパス生活を満喫した7人のメンバー、そしてお世話になった方々に感謝の思いで一杯です。

<謝辞>

Our two-week stay in Purdue was wonderful, and through this externship I learned and experienced many things that I can't in Japan. I was so impressed about how kind everyone in the hospital was! Not only I enjoyed having clinical rotation in weekdays, but all the events I had in weekend such as seeing a Football game, visiting Indianapolis Zoo, going shopping, and etc. I'm really indebted to Dr. Scott-Moncrieff, and Dr. Tomo for being very nice to us and helping me get used to clinical rotation. Even though we had some difficulties to catch up with fast-speaking English, A&I was a great chance to know how the classes in Purdue University are like. I love Purdue people from the bottom of my heart, and hope we could see each other again in future.

山本 静孝

2012.8.27

Purdue 大学への初登校日。

大学で朝食をとり、向こうの先生による Purdue 大学の説明を受けた。

説明をうけた後、大学病院内を見学した。病院内にはペットを失った飼い主の精神的な苦痛を和らげるための部屋があり、それが印象に残った。

大学での昼食後、心臓科の実習に参加した。この日、心臓科にはブルテリア（1件目）とプードル（2件目）が診察に来た。

一件目のブルテリアは聴診器で雑音が聴取できるが、エコー上に問題はなかった。二件目のプードルは VSD を発症していたが、中隔欠損部位に膜が生じたことで問題のない状態になっていた。

獣医にとっては珍しいケースだが、心臓科医にとっては時々あるケースだという。

17.00 ちょっと前に終了。

アパートに帰ってから夕食の買い物。サブウェイに行って夕食を買った。

それから 01.00 位までプレゼンの打ち合わせを行った。

2012.8.28

この日も心臓科の実習に参加した。

一件目は第三房室ブロックの患畜だった。

治療方針としてペースメーカーを外科的に動物の体内に設置する予定であったが、患者が高齢であることと、ペースメーカー自体が飼い主にとって高価であるため、手術は見送られた。

二件目はペースメーカーをすでに設置している患畜だった。

ペースメーカーから心臓腔内に伸びているリードが外れた可能性があるため来院。

しかし X 線撮影からずれていないことが判明したため、手術を行う必要はなくなった。

アパートに帰ってきてからは前日と同じようにプレゼンの打ち合わせをした。

2012.8.29

今日心臓科には診察の予定がないと言われたので、急きょ麻酔科を見学した。

一件目の患畜は咽頭麻痺の犬。

静注へのプロポフォールのみでの投与による

麻酔下で咽頭の働きを診断する場に立ち入った。

いくつかの種類を混合して使うと咽頭の働きまで麻酔がかかってしまうと聞いていた。

麻酔をかけた後、喉頭蓋を綿棒で刺激していた。実際に右側喉頭蓋は刺激によって少し動いていたが左側喉頭蓋は全く働いていなかった。

両側が全く動かなくなると誤飲性肺炎の危険性を含むようになり食事が全く取れなくなるという。

昼は北里大学のプレゼン発表。発表後、多くの人が賞賛してくれた。

午後はラマの眼球摘出。

麻酔導入でとても長い喉頭鏡ブレードを使っていたのが印象に残った。

術中のバギングは大きなベンチレータによって行われていた。

ドクターに聞いてみると、実際に大人のラマを徒手的にバギングさせようと思ったら30lの呼吸バッグが必要で、徒手的なバギングは厳しいという。さらにここの呼吸バックは穴が空いてるといって笑っていた。

輸液はプラズマ A。とても大きな (4.5l) 輸液袋に入っていた。

導入はブトルファノールとキシラジン、維持はプロポフォールとドブタミン。プロポフォールのみでの麻酔では体温が下がるから、状況に応じてドブタミンの麻酔に切り替えるという。二つの麻酔のバランスが重要らしい。

### 2012.8.30

この日は心臓科を見学した。午前中には二件の診察があった。

一件目の患者（犬）の心臓はリズムが少々不規則であったが、すぐさま処置が必要なものではなく、問題はないとドクターが説明し

てくれた。

二件目のねこは HCM を発症していた。

午後には心臓に mass がある犬の診察があった。

外側に大きな mass があり、弁にも mass が転移しているように見えたので、mass はたくさん転移しているのかどうかドクターに質問したところ、全部一つの mass だと説明してくれた。

血栓と mass が混同しているが、心臓内部にもあるため手術の予定はなし。

むしろその犬は走らせても問題ないという。

### 2012.8.31

午前中は A&I の授業を受けた。

動物の稟告から何が原因かを考え、どんな検査をするか、検査結果から何をみるか、解決できない疑問点は何かを学生でピックアップし議論するという授業だった。

午後は ICU を見学した。あんまり可愛くないチワワが検査を受けていた。

眼の検査から始まり、神経学的検査、心音聴取など全身の検査を ICU のドクターが行っていた。

稟告は突然の背中痛み、白血球の増加だった。検査の結果、そのチワワは IVDP (椎間板ヘルニア) を患っていた。

授業後はウルフパークに連れて行ってもらった。始めてみるオオカミは思ったより大きくて、ヒトの管理下に置かれているためか飼育員に人懐っこく可愛かった。

### 2012.9.1

大学内のカフェで朝ごはん食べた。

今日はフットボールの試合観戦があるためか、大学内の街は朝からお祭りムードだった。みんなコスプレした格好で町を歩いていて、

見ているだけで楽しかった。

いよいよフットボールの観戦。

大学とは思えないほどのスタジアムの設備、応援。ブラスバンドやチアリーダーが試合を大きく盛り上げていた。

夜はスコットモンクリフ先生の家でホームパーティ。

アメリカに来て始めてお酒飲んだ。家は綺麗で大きくてまるで映画に出てくるようなところだった。

料理もお酒もすごく美味しかった。

## 2012.9.2

午前中は動物園に行った。

サイ、チーター、ゾウ、ゾウの赤ちゃんをみた。ゾウの赤ちゃんは水浴びしていてとてもかわいかった。

動物園付属の病院も見学させてもらった。麻酔銃をさわらせてくれたし、様々な動物のレントゲン写真をみた。

午後は水族館にいった。イルカのショーが印象的だった。

水族館の人が水槽の裏にいれさせてくれて、そこで様々な説明を受けた。

サメやタツノオトシゴが可愛かった。

## 2012.9.3

この日はショッピングモールでショッピングした。

朝食、昼食はモール内で済ませ、スポンサーズやらなんやらでたくさん買い物をした。夕方にはフーターズにも行った。

夜はサブウェイでフットロング食べた。

## 20.12.9.4

午前中は外科を見学した。

前十字靭帯断裂の手術を行っていて、術式はラテラルスーチャーだった。

内側の縫合糸は縫合せずに、金属の円筒を通してから筒を潰して固定していたのが印象的だった。

午後は嶋本先生のプレゼンを聞いたあと、ブックストアに行ってお土産を買った。かなりお金を使った。

パンダエクスプレスで夕ご飯を食べた後、コミュニティセンターで勉強した。

## 感想

病院見学は非常に楽しく、心臓科に興味を持つことができた。

大学の先生や周りの人もとても親切で、たどたどしい英語で質問しても丁寧に教えてくれた。

様々な人とよりたくさんコミュニケーションを取るためには、話すことよりもむしろリスニングのほうが重要であることを痛感した海外実習だった。

## パデュー大学夏期研修に参加して

### 動物病院 嶋本良則

シカゴ空港での乗り継ぎ以外トラブルもなく無事に研修を終える事ができ、パデュー大学の Dr. Scott-Moncrieff と Dr. Inoue、そして本学国際交流委員会の先生方に心より感謝したいと思います。自分を含め学生達もパデュー大学での臨床研修で貴重な経験をさせて頂きました。ここでは Purdue 大学 Veterinary Teaching Hospital での研修で特に印象に残ったことを報告したいと思います。

## 実践を重視した獣医学教育

学生による診察、避妊・去勢手術

最初に驚かされた事として、学生が診察を

していたことです。Small Animal Medicineのラウンドで、症例を担当している学生がインターン、レジデントそして専門医に病状、検査結果をプレゼンテーションし、彼らからその症例に関するコメントやサジェスションをもらい、その後彼らと一緒にその症例を診察し、得られた所見から必要と思われる検査を追加オーダーしていました。

また、学生は外科手術で避妊・去勢手術を行うことが出来るそうです。学生が診察や避妊・去勢手術を行うことに対して法律的問題が無いのかを病院長 Dr. Arighi と Dr. Inoue に伺ったところ、各診療科の責任者のライセンスの下で行われているため、何かトラブルがあった場合は、その責任者が行ったものとなるので法律的問題はく、むしろ在学中にこれらを行うことは教育上重要であるとの考えでした。学生がどこまでやれるかは各責任者の判断に任せているとのこと。学生による診察は、この段階に至るまでに以下に記す A & I Session やセミナー等による臨床的な思考トレーニングを受け、基礎ができた上で実施されることが必須ではないかと思われました。

#### A & I Session

このセッションは、日本の獣医4年生に相当する学年を対象に行われていました。症例に対して診断治療をどのようにすすめていくかのロジック習得を目的としたトレーニングでした。出題された症例に対しプロブレムリストを作成し、考えられうる疾患とそのメカニズム、類症鑑別から確定診断に至るまでに必要な検査項目、さらにその後の治療方法をグループ毎のブレインストーミングを通して導き出すものです。必要に応じて画像データなどの検査結果はネットにアクセスし参照できるようになっていました。各グループに

は、獣医師がチューターとして割り当てられていました。

#### セミナー

Dr. Thompson (Small Animal Community Practice) の Morning seminar では、獣医師としての対応についてのセミナーでした。経験のある獣医師が不在という状況で、飼主から飼育している犬が破水したという電話があった場合、飼主に対しどのような質問をして、どう指導するか。また、経験の少ない骨折の整復手術を行ったが飼主から治療行為に不信感をもたれている。どう対応するか。といった内容でした。獣医学的知識を用いた対応術のトレーニングでした。

#### 動物看護師の役割

パデュー大学には動物看護師の学校が併設されていました。パデュー大学では各診療科専門の動物看護師は、日本の看護師とほぼ同程度の医療行為を動物に行えるようです。実際、ICUにおいて動物看護師が採血あるいは膀胱穿刺で採尿していました。一方、症例を担当している学生に治療に関するアドバイスもしていました。日本では、まず見かけることのない風景です。これは、2年あるいは4年の動物看護師の教育を受け、獣医学的知識や技術が認められたライセンス取得者がいるから可能なことだと思いました。

#### その他

##### 乗り継ぎに関して

シカゴ空港での乗り継ぎに関して、渡米中研究打ち合わせを行った Dr. Maeda (Cincinnati Children's Hospital Medical Center) からシカゴの入国審査は厳しく、2時間以上は覚悟しておいた方がいいとアドバイスをもらいました。我々がシカゴでの入

国審査に2時間強かかったことは、今回に限ったことではないことから、乗り継ぎに関して今後検討する必要があるかもしれません。Dr. Inoue から教えられたことですが、シカゴ空港からインディアナポリスまでバスを使うという経路もあるそうです。

### 最後に

今回パデュー大学の研修で臨床教育プログラムならびに附属動物病院の運営システムが整備されているのを見る事が出来ました。臨床教育や病院運営に関する良いヒントが得られた気がします。

多くのアクティビティを計画し、スケジュール調整して頂いた Purdue 大学の Dr. Scott-Moncrieff と Dr. Inoue に感謝します。またパデュー大学におられる日本人の Dr. Ogata と Dr. Shimonohara には貴重なご意見やコメントを頂き、そして Dr. Sato にはお忙しい中、学生と美味しい手羽先を食べに連れて行ってくださりありがとうございました。

最後に、研修に行かれた8人のみなさん、お疲れ様でした。2週間の短い期間でしたがみなさんの素晴らしい Presentation、Clinical Rotation や Seminar 等への積極的な参加を見させて頂きました。日本では経験出来ない多くのことを学ばれたことと思います。この経験がみなさんの今後の進路に大きく影響を与えてくれるのではないのでしょうか。期待しています。

Dear Staff of Purdue University

Please accept my sincerest thanks for everything you all did for us during our stay at Purdue University. I would like to

take the opportunity to thank Dr. Scott-Moncrieff and Dr. Inoue for arranging our schedules and planning many activities. It was certainly a pleasure to meet the members, especially, Dr. Reed, Dr. Arighi, Dr. Salisbury and Dr. Constable. We had a wonderful time at Purdue University, and learned so very much from all of you. For your hospitality, generosity and kindness, I cannot thank you enough.

With Best Regards,

Yoshinori SHIMAMOTO, DVM, PhD.















**The University of Tennessee  
School of Veterinary Medicine  
25 Aug. - 09 Sep. 2012**



Dr. James P. THOMPSON, Dr. Yasutomo HORI, Naoko IWATSUKA, Sato MINAMI  
Takaaki MARUIWA, Naoki MORIBAYASHI, Hiroshi HAMAGUCHI,  
Yuya SAKANO, Tomoki SAKATSUME, Dr. James J. Brace

参加者一覧

同行教員：堀 泰智 Dr. Yasutomo HORI

氏名	Name	所属研究室
丸岩 伯章	Takaaki MARUIWA	小動物臨床第一外科
坂爪 友輝	Tomoki SAKATSUME	獣医薬理学
濱口 洋	Hiroshi HAMAGUCHI	獣医放射線学
盛林 直規	Naoki MORIBAYASHI	獣医薬理学
坂野 友哉	Yuya SAKANO	獣医放射線学
岩塚 尚子	Naoko IWATSUKA	獣医解剖学
佐藤 美奈未	Minami SATO	獣医微生物学

丸岩 伯章

### 【1日目 8/25：出発 Go to TENNESSEE】

前日は千葉に実家がある友輝の家に男子メンバー5人でお泊まり & 前夜祭!!

各研究室や仲良くなった人にお土産を渡すと喜ばれるとの情報を聞いていたので、みんなでダイソーにお買い物をしに行った! 温泉の素や扇子、掛け軸、日本のお菓子(おつまみ、せんべいなど)からたわしまで、それぞれ色々な物を choice した。ちなみに後ほど人気だったのはやはりお菓子だったように思う。その場で食べてくれたり、お土産を渡すことで相手の対応が良くなったところもあったみたい^^

当日の朝は友輝が電車や行き方を調べてくれたのでそれに従って空港へ。

飛行機は体格の良いアメリカ人が多いから機内がとても寒く、毛布の短かったりするので、着脱出来るパーカーなどがあった方が良いと思う。あと、長い時間のフライトで映画をたくさん見れるが、機内の物だと耳が痛くなるので自分の物を用意しておいた方が良かった ><



到着すると、今回の Exchange program の担当をしてくれる獣医学部副学部長の James J. Brace (以下: Jim) とその娘さんが迎えに来てくれた。良い人だというのが全身からにじみ出てるような人で、大学でも生徒の相談にのる役職にもついているらしく、

まさに適任だなと感じた。

宿はとても綺麗でプールやバスケットゴール、BBQ スペースもあり、朝食と夜食付き(ビール飲み放題)、しかも1人あたり6万ちょいくらいだったので、とても格安だなと思った。

先輩達が残して行ってくれた道具(調理道具やハンガーなどたくさんの日用品があっけかなり助かった)が入った BOX を預かり、部屋に荷物を置いてから食事へ!!

一番近くのイタリア料理屋(確か Olive Garden) に朝ご飯?(日本時間では朝4時、時差が13時間なのでテネシーでは夕方3時頃)を食べにいったが、とてもつもなく量が多く無理して食べた俺はその夜ダウンた...(どうやらアメリカでは持ち帰っても全然いらしく、ほとんどのお店で持ち帰る用のタッパみたいな物をくれるよ)

ご飯の後はみんなで近くの Wal Mart へ!! 歩いて5分くらいで行けて地図でみるよりは近かったが、個人的にはちょっと面倒くさいくらいの距離だった(^^)

初日はこんな感じで過ぎ去り、夜は男子メンバーで酒を飲んで就寝。

ベットと枕が柔らかすぎて個人的には眠りにくかったかも ><

### 【2日目 8/26：探検 Research in TENNESSEE】

2日目はお昼頃から Jim がテネシー大学を案内してくれた。診察室が全部で15くらいあったり、細かく分けられた科、100人を超えて学生よりも多い先生達(ちなみにこの年の学生は83人意外に多い!!)、トラ用の気管チューブ、水中トレッドミルなどのリハビリ道具など、何もかもが桁違いで規模の違いを様々に見せつけられた。こんなにも充実した施設で学べる環境はとても羨ましいなと感じた。

ちなみに科はしっている限りで

- Surgery(Orthopedic、Soft tissue、Neurology)
- Internal Medicine
- Cardiology
- Anesthesia
- Physical&Therapy
- Avian&Exotic
- Oncology
- Ophthalmology
- Anatomy
- Pathology
- Pharmacology
- Equine(Surgery&Medicine)
- Farm animal
- Food animal
- Communication practice

などがあった！他にも生理学など様々な研究室があるはず！

夜は Jim が Home Party を開いてくれるとのことでそれまでの間プールへ！！妙にしょっぱかったが天気がとても良いので気持ちよく、また水鉄砲を買ってたりしてとても楽しかった！！ BOX の中に入れておいたので来年以降の人達はぜひ使って下さい(\*^^\*)



Jim の家では外にバスケットゴールや BBQ 出来るセットなどあり、奥さんの Connie が手料理を振る舞ってくれた！！今

まではお店で脂っこいものばかりだったが、Jim の焼いてくれたお肉はとても美味しかった♪ Jim 夫妻へのお土産もこの場で渡し、スカイツリー羊羹や掛け軸、ハッピー、他には芯のいらぬホッチキスや消えるボールペンなどジャパンテクノロジーを見せつけるお土産などを渡した ^^

最後に明日からの rotation の予定表を貰いよいよ実習が始まるなと身が引き締まった。

### 【3日目 8/27：初日 Anesthesia】



今日から実習開始！初日は麻酔科だったのだが、実習はほとんど1人1つの科にポイツとされるので孤独感がハンパない！！また、この日は学生も rotation の初日だったこともあり、午前中は麻酔科のやることの説明、今までに授業や実習をしているのだろうが麻酔記録の書き方、麻酔機のリークチェックのやり方などを説明していたため、終始孤独感は否めなかった。

説明が終わると早速業務へ！

この日は避妊を見ることになったのだが、麻酔科の学生は

- 麻酔プロトコルの作成
- 導入準備
- 挿管
- 麻酔維持
- 覚醒

まで全て1人 or2 人で行っていた。

プロトコールは先生のチェックが、他の導入～挿管、維持に関してはVTさんがアドバイスを出していたが、ここまで学生がやるとは思っていなかったもので、自分との差をとつもなく感じた。また他に印象的だったのは研究室を回していくうえで、VTさんがとても力を持っているということ。生体情報から薬のchoice、麻酔深度（ちなみにテネシー大ではほとんど自発呼吸）の調節までVTさんも指示だししてきてまるでDr.かのように感じた。

ただ、輸液チューブに空気が入ったままだったり、気管チューブの太さは感覚で決めたり、太かったら違うのに変えるなど雑な面も多々あった。また輸液は1分間あたりの落下滴数で決めたり、バイトブロックは使わず、包帯で首に巻き付けるのみなど、日本の方がしっかりしていると多々感じる場所があった。

避妊は学生が行っていて、オペの難易度に合わせて学生やレジデントにも結構やらせているようだ。その際、先生がマンツーマンでオペを見てくれて直接アドバイスしてくれるので、実力も知識も付けるには最高だなと感じた。

#### 【4日目 8/28：教育 Education】

今日は朝から整形のオペ用の麻酔導入を見た後、学生について行ってMRI使用にあたっての諸注意を受けた。

アメリカはプレゼンが上手で、学生もどんどん発言するイメージがあったがまさにその通りであった!!プレゼンはDr.の先生がやっていたのだがスライドも写真やアニメーション、フラッシュなども多用して見ているだけでも楽しかったし、どの先生もだがユーモアがあって学生を良く笑わせていた。アメ

リカ人の沸点が低い（イヌがうんちしただけで爆笑してた!!）のもあるだろうが、みんなして他人を笑わせられるのは凄いコミュニケーション能力だなと思った!!!!

諸注意を受けたあとは実際にMRIルームに行き、MRIは強い磁石を使っているのので、入る時に金属製のものを持ち込まないことを注意していた。そして、どれくらい磁石が強いのかを証明するためにヒモをくくりつけた金属製のボールをMRIに向かって投げさせてくれた!!磁石が強いのは知っていたが、ヒモがピンツとなってボールが宙に浮いたのには驚いた!!これは確かに金属を持ち込んだらはがれなくなりそうだ...

午後は膝蓋骨内方脱臼の大腿骨骨切り&頸骨粗面転移術を見た。

プロフェッサーとレジデント、それに学生がオペに入っていてプロフェッサーが説明、レジデントが実演、学生は最後の皮膚縫合を行っていた。

ほとんどのことをレジデントや学生にやらせるし、生徒も臆せず質問し、それに対しレジデントやプロフェッサーが丁寧に教えてくれる。お互いにとってとても勉強になるし、この勉強の仕方はとても参考になるなと感じた。

この麻酔科ではDianaという、女性にしては上にも横にも体格の良い学生について回ったが、自分はジェネラリストになりたいんだといってとても勉強しているあたり学生の意識の高さを、そして自分のネームプレートに「Don't feed」と書くなどアメリカらしいユーモアさを感じた。

#### 【5日目 8/29：期待 Orthopedic surgery】

今日は待ちに待った整形外科!!

自分の研究室でもあり、一番楽しみだった科である ^^

外科は整形と軟部に分かれていて、月水が整形の診察日、火木が軟部の診察日、空いている日がオペ日と、診察日とオペ日が交互になっていた。

今日は診察日で、朝から昼までびっちり診察の予定が入っていた。基本的にアポイントメントがメインでそれ以外は救急が来たら対応する形を取っているようだ。診察は学生が基本的に行っていた。アポイントメントがあるからか、整形の診察では学生が history の聴取・確認、研究室に戻って身体チェックを済ませたあと、レジデントにチェックを貰い、最終的にプロフェッサーが判断して飼い主にまた説明しに行っていた。時間もお金も症例数のあるからか、贅沢なシステムである。

身体チェックでは「CRT, 心雑音, 耳の中, 関節のチェック, リンパの触診」を行っていて、自分もこれらは最低限やっていこうと思った。

この日は跛行診断、肩関節、離断性骨軟骨症、バンテージ交換、前十字靭帯団裂など。様々な症例が来て見ていてとても楽しかった。

ここの病院では前十字靭帯団裂が一番多く、処置としては TPLO が最も多いようだ。次いで FCP、Fx、Pattela など大型犬が多いからか関節系の疾患が多いように感じた。

またこの日は離断性骨軟骨症に対し『Shock Wave Treatment』を施していた。

これは BMP-2 (骨形成因子) の放出促進、骨形成促する働きがあるらしくオペはせずにリハビリで治療していた。

なかなか使う機会がないのか Physical Therapy の Dr. がやり方を説明して学生にやらせていた。ジェルありなしだと強さ全然違うとのことで、両方体験したのだが、ジェル付けて打たれたときは声を上げるほど驚いた!!

午後は診察がなくみんなデスクワークを始めたので病院内探索へ!

内科のアンドリューが快く案内してくれて、黄疸のネコ (目はもちろん口も凄く黄色だった)、気道を開放している馬、ドンキーなどを見せてくれた。

振り分けられた研究室を抜けるのはあまり良いことではないと思うが、主体的に色んな見識を求めることも大事だと思った。

### 【6 日目 8/30 : 興奮 Orthopedic surgery】

今日は1日中オペ日!!!!

北里では見る事がなかった TPLO や関節鏡、よく見るラテラルスーチャー、大腿骨頭切除、Hemilaminectomy など色々なオペを見ることができた。

特に TPLO は授業でも習ったし、関連した論文も読んでいたのでとても興奮した。道具はやはりシンセスだったが、slocum TPLO プレートや TPLO 専用のソーなどは初めて見たのでとても楽しかった。そして、オペが終わって次のオペを待っていたら教授の Dr.millis が『次のオペ行くよ!』と誘ってくれたのはとても嬉しかった ^^

次は大腿骨頭の切除! オペはレジデントの Dr.cole が行ったのだが、Dr.mollis は隣でずっと見ていてくれるし、間違えそうになったり手技が甘かったときには丁寧に教えてくれてとても良い環境だなと改めて感じた。また、学生もその場で見れるし、最後の皮膚縫合は学生がやるので臨床の技術を学びにアメリカに行く必要はないと感じたが、技術を習得出来る早さはアメリカの方が良いなと思った。

一日の最後は IVDP!! IVDP は神経科なので整形ではないのだが、北里では左近允先生がどちらもやるのでお願いしてみせてもらうことにした! 帰りの時間もあったので最後ま



では見れなかったが方法は全く同じで、ただ滅菌の仕方が異なっていた。またこの時は Dr. が音楽を流しながらオペをしていて、一緒に音楽の話をできてとても嬉しかった ^^

### 【7日目 8/31 : Physical therapy】

今日は男子の中で話題の Physical therapy!!

ブラジルから来た留学生 (Rafaela) がとても可愛いとぐっちが言っていたのでとても楽しみだった科である。

PH では他の科でオペした子や神経学的に異常がある子、肥満の子などがいた。

やっている項目としては

UWTM(Under Water Treadmill)

LTM(Load Treadmill)

Balance bowl/board

Stand

Swimming

etc....

などをやっていた。



自分はこの中で肥満の子に UWTM や LTM、Swimming などさせた。基本的に保定が多かったが、近くで色々な処置が見れたのは良かったと思うし、保定の間会話できるチャンスが多いのもこの科の特徴だと思う。

ところで、このリハビリ中、Rafaela 含め他の人も Good Boy!! You're so cute!! などとにかく褒めまくっていたのが印象的で、向こうでは Fight など励ますことはなく、そういった褒める文化というのが向こうの教育の良さにも出ているのかな? と思った。でもこの『Good boy!!』、うちらの中でとても流行り、何かある度に Good boy!! とはやし立てていた w

### 【7日目 9/1 : Shopping】

今日は1週間ぶりの休日!! 今日にはブレイスが近くで一番大きい west mall に連れて行ってくれるとのこと、アメリカで服を買い込む予定だったのでとても楽しみだった♪

west mall に着くと集合時間だけ決めてそれぞれの買い物へ! 俺はぐっちとゆうやと一緒に服屋を中心に回ったのだが、ここでアメリカ版プリクラを発見!!!!

ここは攻めるでしょ! ということでアメリカ版プリクラに挑戦★中はとても狭く、3人でギリギリだったし、選べる模様は少ないし派手。また、落書きもないので撮るだけなのに、急に3・2・1 とこちらのどんな顔する!?! などという会話はお構いなしに進むあたりアメリカらしいと感じた。しかも、外ではモニターに撮影の間の俺等の顔が映されていて、どうする? どうする? などと話している風景も一般公開されていて少し恥ずかしかった w

服はアバクロや Beams、Adidas、UNDER ARMOUR、Nike、THE NORTH FACE など有名ブランドが数多くあったし、女の子はビクトリアシークレットがあったりかなり物は充実していた。しかしその分時間が全然足りなく、2時間弱の買い物では全然満足はいく買い物は出来なかった。

宿に戻ってからは時間があつたのでみんな

でプール!! 同時に飛び込んだ写真を撮ったり、水上バレーしたり充実した休みを過ごした ^^



### 【8日目 9/2 : 爆発 Booms Day】

今日は南部アメリカ最大の花火大会 Booms Day!!!!

Booms Day は年間 32 万人がアメリカ各地から集まるほど大きい花火大会らしい!

迎えるは午後に来るとのことだったので午前中はお買い物! 次の日にやる予定の Rafting でサンダルがダメとのことだったので、それ用の靴を買いに wall mart へ (ちゃんと洗って BOX 入れといたから良かったら使ってね)。靴を買ってる途中でみんなの思いつきでせっかくのお祭りだしテネシーカラーの服を着ようということで、それぞれ違ったオレンジ色の服を購入!! 準備万端でいざ Booms Day へ!!

午後 2 時頃に Booms Day が行われる場所に着いたのだが、花火の開始時間は 8 時からだったので少し down town を散策することに。途中スコールに降られつつも適当に回って美味しそうなレストランへ一旦休憩。するとこのお店は歴史の古いお店でビールの醸造所だったらしく、店内にそれに用いられていたであろうものが置いてあった。ビールはあまり美味しいとは思わなかったが、つまみのポテトやデザートはホントに美味しかった。

その後はお祭りに戻り花火開始までビアガーデン組とお祭り回る組に分かれることに。俺はお祭りを回ったのだが、巨大なぬいぐるみが手に入るフリースローや、face paint、ライブ観戦、レベルの低いプロレス、お店巡りなど色んなものがあって結構楽しめた。



ビアガーデンですっかりできあがった 3 人を連れてブレイスお勧めの watching spot へ。そこは駐車場でなかなか場所が確保出来なかったが、良い場所に落ち着いた♪

開始時間になり花火があがるとその規模の大きさにビックリ!! 数はもちろん、大きさが馬鹿でかかった!!!! 上だけでなく陸橋から下に向かって噴射するタイプの花火もあったのでそっちも見れるポイントで見る方がオススメ★種類もたくさんあった凄く満足だったのだが途中から猛烈なスコールが! こちらの規模も凄まじく、服はびしょ濡れでせっかく来た観客が帰るほどの大雨が。。でもそれでも中止しないのがアメリカだった。スコールなどお構いなしに打ち上げまくって最後は風に流されながらもちゃんと finish!! 見てるこっちも「行けー!!」と体ふるわせながら無駄に声をあげて騒いでとても楽しかった、(\*^^\*)ノ

最後はブレイスに電話してお迎えに来てもらったが、全員びしょ濡れで席に着いたので、もし車にシミ残ってたならこのときのものです

w



### 【9日目 9/3 : 入水 Rafting】

今日は待ちにまった Rafting の日!! アメリカに行く前からテネシーは Rafting が楽しみの1つだと聞いていたので凄く楽しみだった。

朝一で迎えに来てもらおうと、オリンピックでも使われたことのある Ocoee という川に到着★

時間が来るまでブレイスが持って来てくれたランチを食べたり、無駄に脚の長いクモみたり、、、Rafting の説明がスタートがするまで結構長かった。

説明では、もし川に落ちてしまったときは頭を上流にし、脚を下流に。また、脚を広くと股間に岩ゴッチンするから脚閉じてね♡とお茶目な説明。ライフジャケットとヘルメット、オールを持ってスタート地点までバスで移動した!!

道中『これって落ちるぐらいが楽しいんじゃない?』と若干落ちることを期待しているとスタート地点に到着。

俺等は全部で9人(ブレイスもやったので)だったので4人5人に分かれて乗船。ボートは6人乗りだったので、うちらは4人(俺、ゆうや、ともき、みなみ)だったため老夫婦

と一緒に6人でボートに乗ることになった。ボートにはそれぞれ1人ずつインストラクターが付き、彼らが指示を出してボートをコントロールしてくれるのだが、「ごめん、みんなに謝らなきゃいけないことがある...残り3つで終わりなんだ。。でも、この3つが一番 dangerous で俺のお気に入りだ」とめっちゃめっちゃテンションあげてくれるインストラクターでとても面白かった!! 川の流れが入り乱れ、軽く落ちるところに留まって水びたしになったり、濁流に突っ込んで波かぶったり、何もない落ち着いたところでは川に飛び込んでいいよとのことでプカプカ浮かばせてもらったりして、とても楽しかった♪



老夫婦の夫が元インストラクターが何からしく、インストラクターの人と交換しようかなどと話をしていたのだが、すると、落ちるところで漕ぐのが1つ遅れて予定よりボートが斜めに!!!! 後ろにみなみが座っていて、あれっみなみ落ちちゃうんじゃない? と思ってたら落ちてたのは俺だった!! ホントに何も抵抗できないままに川に落ちてしまい、状況把握するので俺の頭は精一杯!! 「えっ、頭下流に向いてるしヤバいっしょ!」とか思ってる時、ゆうやはあえて助けてくれなかった笑

でもなんとかみんなにつり上げてもらって無事ボートに復帰できた! 初めは落ちるぐらいが楽しいっしょと思っていたが、いざ落ちてみると1回でもうお腹いっぱい。その後は

安全に正しくボートをこがせて貰いました  
m(\_ )m

#### 【10日目 9/4：大動物 Farm animal】

今日からは主に大動物の実習!! 今日はず前中に動物園に連れて行ってくれるとのこと  
で、去年北里に来てくれたこともあるラム  
ジー先生に付いて行って近くの動物園へ。

ラムジー先生はとてもおおらかで豪快! ア  
メリカ版及川先生というのが俺らの中での印  
象だった。

動物園ではどの動物もラムジー先生が来る  
と近づいてきて強化ガラスをたたいたり突進  
したり、動物と心通じることって出来るんだ  
とちょっと感動した。



自由時間を少しもらい、自由に回って来て  
いいよとのことだったが、ここでゆうやがプ  
リクラを発見!!!! west mall でやったプリク  
ラの動物園 ver. でここはモチロン攻めるで  
しょ!! ということでしっかり制覇してから  
お土産を買いにいった。

動物園の後はそれぞれの科に戻ったのだ  
が、Farm animal だけはテネシー大学と川  
を挟んで反対側にあるので俺1人ラムジー先  
生が送ってくれることに。

話をしながら向かっていると「君が今日行  
くのは Farm animal と Food animal のどっ  
ち?」と聞かれたので Farm animal と答え  
たが嫌な予感が。というのもホントはブレ

スが送ってくれるはずだったのに、突然ラム  
ジー先生が送ってくれるとのことだったので  
こっちの予定を知らないんじゃないかと不安  
に。

案の定向かう途中「うーんここで合っ  
てるのかな?」「まあ違っても同じ大動物だし、  
いっか! はっはっはっ(￣▽￣)ゞ」って言っ  
て知らない研究室に置いて行かれました。。  
後日確認したら合ってたので良かったけどマ  
ジであの時は不安だった orz

Farm animal ではちょうど前期に習った  
ばかりの蹄底潰瘍の治療や、外傷処置などを  
やっていて、学生は実際にバンテージを巻い  
たり、先生が処置する手伝いをしていたりし  
た。蹄底潰瘍はすり鉢状に潰瘍部分を削るの  
と、患蹄浮揚法を併用していたが、処置自体  
は授業で習った通りで分かりやすかった。大  
動物の患者はクライアントの牧場から送られ  
てくるみたいで、wildlife はいないそうだ。

3時頃になると患者がいなくなったみたい  
で、みんなお昼ご飯へ。その後症例検討会が  
始まったのだが、ただでさえ見たことない大  
動物の治療な上に、英語で discussion して  
いるのだからますます分からない。ちょく  
ちょく話しかけてくれたのだが全然英語がわ  
からなくこの時ほど英語が出来るようになり  
たいと思ったことはなかった。

#### 【11日目 9/5：虎 Avian&Exotic】

今日は午前中にトラが来るということで病  
院中噂になっていた。

俺らも初めはそれぞれの科に行ったが、ト  
ラを見るためにエキゾチックの研究室に集  
合。するとしばらくしてトラックに運ばれた  
トラが到着!! 動物園などで見たことはあつ  
たがこんなに身近で見たことはなかったの  
でその迫力に驚いた!!

このトラは Tiger Heaven という施設のト

ラで、水晶体の脱臼と白内障を併発していたために眼球摘出することになった。

まず鎮静するのだが、薬の量がまず多い!! 体重はモチロン少ない量で投与するためか濃度が濃かった。薬はMMKでトラの後肢にIMされた。鎮静がかかるとトラを処置台の上へ!! 生で触るトラはとて大きくその全てに感動だった!!



心臓に聴診器をあてて心拍数を測ったり、留置をとるために駆血したり、やることは普段のネコと変わらないので出来る限りでお手伝いさせてもらった。

脱臼した水晶体や濁った眼球も見せてもらい、挿管してからオペ室へ!!

今まで普通に小動物のオペをしていた部屋にトラがいるのは不思議な感じがしたし、そういう大型のネコ?? が来ても対応できるようになっているあたりさすが規模が違うなど感じた。

その後はラムジーが昼飯に連れて行ってくれるとのことでchineseのお店へ!! 春巻きなど意外に中華の味をしていてなかなか美味しかった。

その後は動物園に往診に行ったのだが、普段はzoo/aquariumに所属している学生が行くのだが、その子が今日は水族館に行っているのでExoticの人達を連れて行くことになったそうで、前にゆうややなおこりんは行けなかったのとてラッキーだった。

動物園では脳炎のアヒルの採血。捕獲して翼の静脈から採血していたのだが、今流行りのウエストナイル熱疑いらしく、それを検査機関に送るそうだ。

#### 【12日目 9/6: 理解 Avian&Exotic】

今日はExoticの通常業務! 朝は入院患者(リスとカメ)の世話をし、その後は診療に!

今日はカメ3件、鳥2件(コウゴウインコなど)、フェレット、とカメが多い日だった。その中で交通事故にあったカメがいたが、この子は下顎が粉々になっていて、治療不可能ということで安楽死することになった。鎮静剤を十分量投与した後、首の横から心臓に針を刺して薬物を投与していた。実習以外に安楽死を見るのは初めてだったのでなんとも言えない辛い気持ちになったが、wildlifeで治らない子を無理に延命するよりも苦しめないようにしてあげるのも立派な方法の1つだと感じた。



また脚を骨折した鳥の治療の再診があったのだが、鳥の脚はとて細くキャストなどでは固定出来ないそうだ。そこで、先生がオススメと言っていたのが、ハイラテックスのようなテープで骨折部を上下から挟み込み、それをいくつにも重ねて鉗子で強く挟むやり方

だ。インコなどの小さな鳥には3層、大きい鳥には5層に重ねるのが良いそうで、それ以上は重すぎてよくないそう！

今までは質問しても100%理解できたことがなかったがこの時は先生が言っていることが完璧に理解出来てとても嬉しかった!!話すことはボディランゲージやら書いたりでなんとか伝えることが出来るが聞くことがホントに難しいので、リスニングと単語の勉強はして行った方がいいように思う。

### 【13日目 9/7：最終日 Equine Medicine】

今日は実習最終日！なんだかんだあつという間に過ぎてしまったがついに最終日を迎えた。今日はなおきと一緒にだったので、今日は色々質問してもなおきがいるから安心だと思ってた!!が、、聞いてみると今日Medicineは0件らしく、Surgeryも2件しか処置がなかった。また今日はお昼前に市長に会いに行き、お昼はブレイスと一緒に食べることになっていたの、その時間まで今いる患者について色々質問することにした。



お昼前になり、ブレイスといつもの場所で待ち合わせするともう今日で会うことは最後になるシフーシェリントン疑惑のキツネの絵についてぐっちと最後の討論。

ぐ「ねえガンガン。なんでこいつこういう姿勢なんだと思う？」

ガ「え一分かんない」

ぐ「あのハリガネがポイントなんだよ。あれに引っかかって、感染起こして立てないんだよ」

ガ「なるほど！でもぐっちなんでこの絵丸いか知ってる？」

ぐ「え一分かんない」

ガ「コレ実は狙撃者がスコープから覗いてる絵なんだよ。だからあいつは後肢撃たれて立てないんだよ」

ぐ「なるほどね!w」

これを毎日1回もネタかぶることなくやって来たのに最後になるととても寂しかった。

さて、ブレイスと合流すると市長に会いに向かった。市長からは今回の Externship の修了書を頂いた。

その後は Booms day でビアガーデンが開かれていた場所にあるステーキハウスでお昼ご飯!! アメリカのステーキの大会で優勝したこともあるお店でホテルの近くのテキサスよりも美味しかった♪また、ここでブレイスから大学が発行する修了書を一人一人渡して頂いた。



午後はまた Equine に戻ると外傷処置をやっていたのでそれを見学することに!! 外傷処置は牛の時も思ったが小動物と基本は変わらないというのを今回学ぶことができた。

その後は少し早めに研究室を抜けて、お世話になった人達に挨拶に向かった。

整形の Andrew や Adam、神経科の先生、

麻酔科の Diana、Exotic の人達、Physical therapy の Rafaela、ドイツから来てた留学生の Annika、みんなとても良い人達でとてもお世話になりました!! 最後の挨拶はとても寂しく、もっと交流できたら良かったのにと淋しくなった。

テネシー最後の夜は Jim の家で home party!!

北里に来たこともあるラムジー先生やその家族、日本に来たこともある中国人の徐永宏、日本人とアメリカ人のハーフの Erika と日本にゆかりのある人達も招待してくれて、日本の話やアメリカの話、中国の話など色々な話ができた。俺とゆうやはラムジーの子供 10 歳くらいを相手にバスケットでワザを見せつけては「This is Japanese technology!!」とはやし立ててた。

時間も良い頃になるとこの日のために用意してたサプライズプレゼントを渡すことに! まず T シャツにブレイスとコニーの似顔絵を書いたものと、この旅で自分たちが経験させてもらったことをまとめた DVD をプレゼントした♪



(この間にコッソリ作成した写真立てをブレイスの家に set しておいた)

最後の夜はとても楽しく、今まで色々あったけれど、本当にあつという間だった。勉強になったこともたくさんあったし、英語が出来なくて悔しく感じたこともあった、なかなか上手いかず辛いときもあったけれど、と

とても良い経験が出来た 2 週間だったと思う。

#### 【14 日目 9/8 : Good bye】

最終日は朝 4 時代に集合! それまでに荷物まとめたり、お金の精算をしていたがホテル側の不手際で値段に関してはごたごたした。

Jim と Connie は空港の中まで見送りに来てくれて、最後の挨拶をしている時には泣きそうであった。ここで、Jim にこっそりプレゼントを隠しておいたことを教えた。後日来たメールでは無事発見出来たようだ♪

帰りの飛行機はシカゴ経由にしたのでトランジットの間色々買い物をした。シカゴ空港はかなり大きく、とても綺麗な地下通路、恐竜の骨格標本などあったがお店自体はあまり良くなかったので期待はしない方がいいと思う。

帰りの飛行機はなんだかんだあつという間に着き、東京駅でみんなとも Bye bye。

この 2 週間はとても楽しく大満足なアメリカ研修だった。テネシーは遊びも勉強も両方経験できる場所だと思うのでぜひともみんな行ってみてね!!



#### 坂爪 友輝

##### 1 日目

出発当日の朝、研修前最後の日本食となるおにぎりと豚汁をほおぼり電車で成田に向

かった。時間に余裕を持って行動することが大切だ。集合時間 30 分前に集合場所に到着した。ここからはなんら変わったことはない。チェックインを済まし、荷物を預け、手荷物検査、搭乗。トランジットのためダラスへ向かった。いよいよアメリカへ。ダラスに到着後、入国検査を受ける必要があるが、なんのことはない。笑顔と簡単な英語さえあれば楽勝だ。なぜか予定されていた時間より早く最終目的地の Knoxville 行きの便が出発することになり、多少焦ったが問題なく搭乗することができた。Knoxville 空港に着くと、すでにブレイス先生とその娘さんのジェニファーが私たちの到着を待っていてくれた。到着したのは午後 2 時半ぐらいだったので、その日はホテルへとまっすぐ向かい、荷物を置いた後、ホテルの目の前のイタリアンレストランへ遅めの昼食をとり、ことになった。アメリカンサイズの Pasta との格闘の末、一人の体調不良者を出すことになった。調子に乗って注文のし過ぎをしないように。その日は、その後、WALMART（超巨大なショッピングモール）で簡単な買い物を済まし（歩いていける距離にレストラン、ショッピングモールなんでもありだ）、ホテルのプールでまるで少年に戻ったようにはしゃいだ後に、眠りについた。

## 2 日目

今日は日曜日ということもあって、病院は休みである。そのため、昼からブレイス先生が大学構内を案内してくれた。たった 2 週間という研修期間を無駄にしないように朝早くから起床し、朝食のバイキングを食べた。メニューは主にパン、シリアル、スクランブルエッグなど日本のビジネスホテルの朝食を大差はない。その後、昨日は歩き回れなかったところまで足を伸ばしてみた。インテリア

ショップ、ペットショップ、オーガニックショップ、映画館までホテルの近くに何でもそろっている。ここでサングラス、水鉄砲を購入。昼食はピザ！でかい、ただただでかい。昨日の失敗を生かして 4 人前を 8 人で食べる作戦は大成功だった。これで丁度いいぐらいだ。昼になるとブレイス先生がホテルまで迎えに来てくれた。大学まで 20 分ほど車を走らせ、いよいよ大学とのご対面。想像通りでかい（笑）。病院は大動物用と小動物用が同じ建物内にある。小動物は診察室が 17 部屋あり、それぞれの科の部屋がいくつもあってまるで迷路のような構造である。特に印象に残ったのは大動物用の設備である。整備され糞の匂いすらしない馬舎、巨大な酸素カプセル、日本とは規模がちがう。またエキゾチック専門の施設も備えていて、トラやゾウが来ることもあるそうだ。それぞれはきちんと隔離されていて、感染症の対策もなされていた。ブレイス先生が説明しながら病院を回った。急ぎ足の解説で進んだもののその規模の大きさゆえ、1 時間以上の見学になった。その後、ブレイス先生のはからいでアジアンマーケットに買い物に行き、すでに日本の味が恋しくなっていた私たちは味噌やめんつゆなどを購入した。ありがたい。夕食はブレイス先生のご自宅にお邪魔して BBQ をした。なんておいしい料理なんだろうか。ステーキにサラダ、ポテトにビール。これぞアメリカ、最高の時間を過ごした。今夜も気持ちよく眠れそうだ。

## 3 日目・4 日目 Internal Medicine

私たちの朝は AM6:00 から始まる。5 人で一部屋を共有して使っているが、バスルームが二つ、キングサイズのベットが一つ、ベットが 2 つ、大きめのソファが一つあるので、みんなで順番に寝ることにした。ソファは少々きついがベットの寝心地やホテルのサー



ビスにはとても満足している。朝シャワーを浴びたり、ひげを剃ったりして朝食へ。朝食はバイキング式のアメリカンブレイクファースト。コーヒーも飲み放題。ありがたい。7:20にブレイス先生が毎朝迎えに来てくれるのでそれまでにロビーに集合だ。初日は何かと緊張した。何度も持ち物を確認、といっても持っていくものといえば、白衣、筆記用具、数ドル最低限これさえあれば問題はなかった。他に電子辞書や単語帳、あるいは何かの教科書があってもいいかも知れない。病院に着くと、一人ひとり各研究室に連れて行かれ放り出される。”Nice to meet you“、から始まり弾丸のような英語が飛んでくる。こちらの学生はどうやら北里大学からの研修のこと自体知らないらしい。ありがたいのかありがたいのかわからないが、ちゃんとした研修生として扱ってくれる。英語も当然のように飛んでくるし、自分から質問する姿勢を求められる。とはいえ、実際に専門英語を含んだ英語の文章をこっちのペースで話されるとかなり大変だ。わからないことを示せばいくらでも親切に話してくれるのがうれしい。みんな優しかった。内科の部屋には学生が5人いて、それぞれの学生に一人ずつ担当のドクターがついている。一日の流れは、朝7:45までにICUの動物の世話を済ませ、9:00までにその日予約されている患者のカルテに目を通したり調べたりする。9:00からは病院業務が始まる。予約自体は基本的に午前中に終わるようになっていて、午後はカルテの整理やその日自分が担当した症例を紹介するミーティングを行う。私は診察室に同行したり、処置を見学させてもらった。専門用語が嵐のように飛び交うが、アメリカでも日本でも犬は犬、猫は猫だ。大体は何の話をしているのか見当がつく。ミーティングでは学生とドクターが真剣に討論を交わす。日本で

はなかなか見られない光景かもしれない。

## 5日目・6日目 Oncology

腫瘍科では、腫瘍に関する診察・処置・治療を行う。外科的な処置が必要なものに関しては軟部外科に依頼し、主に化学療法を中心として行っているようである。腫瘍科のトップのドクターは専門医の資格を持っていて、特に化学療法に用いる薬剤に関しては作用機序からその副作用までまるで辞書のような知識を持っている。午前中は学生と一緒に診察室に入ったり、簡単な処置、たとえばFNAやFNB、留置をとってCRIで化学療法を行う。午後はその日の症例のミーティングをしたり、ドクターによる化学療法に用いる薬剤の講義がある。私が今回驚いたことのひとつは学生のレベルの高さである。先生の質問に対し、どの学生も自分の考えあるいは求められているものをきちんと答えるのだ。それはきっと誰もが感じるであろう。仮にわからなかった場合でもドクターの先生たちはきちんと答えてくれることに感銘を受けた。この光景はどこの科でも見られた。特にミーティング中は先生側からの投げかけに対してどの学生も、自分の意見、質問をしっかりと伝える。ちゃんとしたミーティングになっているのだ。これには本当に感動したし、もっと自分の頑張らなければ、本当にそう思った。腫瘍科では患者さんが来るのが少ないことがある。そんな時は、学生はカルテの整理をしたり、自分の勉強の時間に当てているようである。私たちは時間をもてあましてしまうかもしれない。その場合、他の科の見学に行くことをお勧めする。どこの科に入っても快く対応してくれるはずだ。もちろん、自分の科で話を聞いたりするのもいいだろう。

## 7日目 Orthopedics

整形外科では、もちろん手術を中心に行っている。交通事故、咬傷を初めとしてさまざまな患者が運ばれてくる。救急から一般の患者までさまざま。今回私が見学したのは交通事故による脛骨の螺旋骨折に対するプレートニングと腸骨骨折に対するスクリュー固定である。私が行った日は、手術は一件しか予定がなかった。動物は麻酔科で麻酔をかけられ、消毒、剃毛など必要な処置を済ませ手術室に運ばれる。手術終了後、すぐに放射線科に運んでレントゲン写真を撮影して確認する。自分は北里で臨床系の研究室に所属していなかったのが恥ずかしながら自分の大学との比較ができなかった。自分の大学のことぐらいは調べておいたほうが良いと思う。細かく言えば、日本で使っている消毒剤まで質問されたので、できるだけ詳細まで知っておいたほうが良い。今日も時間が空いたときは、他の科に顔を出しにいき見学させてもらった。この日も5時にいつもの集合場所に集合してブレイス先生にホテルまで送ってもらった。今日も充実したいい日だった。

## 8日目

今日はブレイス先生にショッピングモールに連れて行ってもらう。朝10時、いざWEST TOWN MALLへ。約30分でモールに到着すると、ブレイス先生は13時にまた迎えに来てもらうとのことで一旦仕事に戻った。なんとなく流れで13時までだったが、買い物して昼食をとってると結構時間がなくなる。もちろんブレイス先生に迷惑のかからないことが一番重要だが、自分たちのしたいことはしっかりと伝えることが大事だ。これはこっちにいる間にいつも感じた。それを受け入れてくれるだけの広大さがアメリカにはある。人も土地も。ひょっとすると

それがアメリカのスタンダードなのかも知れない。モールからホテルに帰って、その後プールではしゃいだせいかぐっすり寝てしまった。

## 9日目

今日は待ちに待った **Booms Day!!** テネシー川で **Festival** が開かれ南アメリカ最大の花火が打ち上げられる。午後2時にブレイス先生がホテルに迎えに来てくれた。この日は午前中に **Wal Mart** にいって簡単な土産や買い物を済ませ、ブレイス先生を待った。**Wal Mart** は24時間開いていて基本は何でもそろっている。しかし、必要な買い物はなるべく早めに済ませておくといいだろう。歩いていける距離だが、何度も行くとなると意外にしんどい。先を見越して行動しよう。**Festival** は三沢のアメリカンデーをでっかくしたようなものだった。参加者は40万人近くにもなり、あんなに広がった道も人いっぱいになった。ブレイス先生に教えてもらったポイントで花火を見ている最中に強烈な雨が降ってきたが、そんなことはお構いなし。最高の夜だった。

## 10日目

今日は **Labor Day** で病院が休み。昨日に引き続き今日は待ちに待った **Rafting!!** けど朝から雨が、、、。ブレイス先生が迎えに来てくれラフティングポイントへ。途中から雨も止みなんだか晴れてきた！先生の用意してくれたランチをいただきいざ出陣。各ボートにはガイドさんが一人ずつ付き、二つのボートに分かれてスタート！この面白さは文章に書ききれないので是非自分で体験してほしい。この日はラフティングでクタクタになってホテルに帰ってきた後、ゆっくり休んでまた明日からの病院に備えた。

## 1 1 日目 Equine Medicine

また今日から病院。今週は大動物 WEEK なのでさっそく馬の内科へ。アメリカでは馬がペットとして飼われているのでここも日本とは違う面白いところだ。学生の部屋が Equine Surgery と同じ部屋で学生のやり取りも結構ある。内科で暇を持て余すと外科の方を見ておいでと行って気を遣ってくれた。小動物同様に、飼い主さんが馬を連れてくる。学生が問診を行いドクターに相談した後、今度はドクターも含めて飼い主さんに対して説明をする。質問して聞いたところ、柵に足を引っ掛けて外傷を負った馬、関節炎、代謝病、骨折などが多いようだ。入院中の馬は1時間ごとにチェックしてチェックシートに印をつけて管理していた。ほとんどはバンテージの交換や術後のペインコントロールとしてレーザーを当てるなどの作業を行っていて、一日にいくつもの予約があるイメージは受けなかった。私が見た症例は蹄葉炎、糖尿病、外傷、腱拘縮などであったがそれらに対する学生の知識の豊富さ、意識の高さに驚いた。どの学生に質問してもしっかりとした回答が返ってきた。自分で動物を治療しているという認識が学生の時からあるのでとにかくモチベーションが高かったように感じる。この日は昼に大学近くの動物園にラムジー先生（エキゾチック専門）と一緒にいけることになっていた。先生の解説付きで1時間半ぐらい園内を回ることができたのは私にとって貴重な体験となった。観光客としてではなく、一人の獣医学生として対応してくれたことに感謝したい。午後また病院にもどってきてしばらくしたら5時。この日もとても充実した一日になった。

## 1 2 日目・1 3 日目 Physical Therapy

大動物 WEEK であるはずだが先生のはか

らいなのか、小動物のリハビリ科に見学にいけることになった。獣医界ではあまり耳にしたことはなかったのでとても楽しみにしていた。ここでは主に術後の動物のリハビリを行っている。水中犬を歩かせる Under Water Treadmill、バランスボールやバランスボードを使ったりリハビリ、マッサージ、温熱・寒冷療法、レーザー治療、電気治療などなど。どれも人のリハビリで行っているようなものだ。椎間板ヘルニアで歩けない動物、原因不明だがおそらく神経系に異常がある動物、骨折治療の術後の動物、TPLO 術後の動物、それぞれの動物に対して最適のリハビリメニューが組まれている。ペインコントロールとしてレーザーを使うのがよく見られたのでその効果についてドクターに質問してみた。すると当然動物によって様々ではあるであろうが、レーザーを当て、足を冷やす前と後では動物の患趾への負重のかけ方が明らかに違って見えた。アメリカではレーザーをこのように使うのが当たり前らしい。またこの日、ラムジー先生からエキゾチックにトラが来るとの情報をいただいたので見学に行った。人生で一度きりの経験になるかもしれない。この日は夕食にブレイス夫婦を招待して親子丼をごちそうした。買い物や準備は大変だったけど、二人ともすごく喜んでくれたようでとてもよかった。

## 1 4 日目 Equine Surgery

今日は最終日。最後は馬の外科。と言っても手術は見学できなかった。前回同様内科の学生にもお世話になりながら問診や入院動物の世話を見学。昼にノックスビルの市庁に行き、市長に会う予定が入っていたが市長には直接あることはできなかった。しかし、ちょっとした広場での表彰式。まさか表彰されるとはおもってもみなかったのでちょっと緊張。

こんな体験二度とないだろう。この日のランチはブレイス先生が BBQ の店へ連れて行ってくれた。なんでも BBQ の大会で優勝経験を持つ店らしい。また病院に戻って午後の診療に参加。骨折治療後の確認として超音波やレントゲン撮影をしたり、皮膚移植を見学した。この日もあっという間に終わってしまった。最終日なので今までお世話になった学生やドクターに挨拶に行った。もう会えないかもしれないと思うととてもさみしい。彼らに負けないように頑張りたいと心から思う。またそう思わせてくれた彼らに心から感謝したい。夜はブレイス先生のホームパーティー!! 最後の夜、そう思うだけでなんだか悲しくなった。本当に楽しい夜だった。

<謝辞>

Thank you everyone!! I had a great experience in UT. Everything I saw, heard, and felt was interesting. I thought there are a lot of differences between our university, Kitasato university, and UT. Both of them have good points and bad points. So it is very important to know about not only own university but also the others through experiences like this.

Through this program, I could think about my position. I mean, what I really want to do and what I want to be. I think the best important thing is what we will do from now. And it depends on us.

I'll never forget this experience. Thank you from the bottom of my heart.

Tomoki Sakatsume

濱口 洋

○8月25日

男子全員は前日から坂爪家に泊まった。みんなでお酒を少し飲みながら前夜祭を行った。出発の日、僕は目覚ましをセットすることなく、坂爪に起こしてもらい無事に起床。成田空港へのアクセスは自分で調べることなく、坂爪に任せ難く到着。集合場所はわかっていなかったが、坂爪についていき滞りなく到着。集合時間を知らなかったが、どうやら早く着きすぎたらしい。なんだ坂爪、もう少し寝れたじゃないか。ということでここまで僕は容易に辿りついた。

機内では、やはり行きということで疲れもあり寝てばかりだった。前日の深夜に香川真司の移籍後初のマンチェスターユナイテッドの試合を見たのがでかかった。

ダラス到着後、ノックスビルに向かう便が予定より早まっていたので焦った。フライトの時間は遅れることがあり、また早まることもあるのが世界基準だと学んだ。

ノックスビルに無事到着すると、ブレイス先生とその娘さんとその娘さんの息子に歓迎してもらった。みんな明るくて、やさしいオーラが全身から溢れんばかり、いやもはや溢れ出ていた。その後彼らにホテルへ送ってもらった。時差や移動による疲労により食欲は俄然なかったが、まずはアメリカということでイタリア料理を食べに行った。味の濃さ、量に驚き早くもアメリカ(少々イタリアもか)の洗礼を受けた。

その後、近くのスーパーで水などを買った後、ホテルへ戻り、備え付けのプールで泳いだ。これからのアメリカでの研修に緊張と期待を抱きつつ1日目はここで終わる。

○ 8月 26 日

朝 7 時に坂爪に起こされ起床。朝食はホテルのビュッフェへ行った。ホテル近くのお店をいろいろ散策し昼飯はピザを食べた。相変わらず量が規格外だった。

午後はブレイス先生がホテルに迎えに来てくれて、テネシー大学へ行き、大学案内をしてくれた。ものすごく大学が大きくて全貌は把握しきれなかった。獣医学部の建物内も案内してもらい、施設やそれぞれの研究室の説明をきいた。リハビリ、エキゾチック、眼科、皮膚科、循環器科、神経科、麻酔科、放射線科、整形外科など研究室が細かく分かれていたのに驚いた。獣医師の先生や VT さんの数が日本に比べ圧倒的に多く、ゆえにこういったやりかたができるのだろうなと思った。

その後、一回ホテルに帰ってきてプールに入った。

夜はブレイス先生のお家へホームパーティーに招待してもらった。ブレイス先生の奥さんコニーがつくった料理はとてもおいしかった。ローテーションスケジュールを渡され自分がまわる科がわかった。

ホテルに帰ってきて明日の準備をした。ベッドに入り、いよいよ明日からスタートだと思うと不安と緊張が押し寄せてきたが、残念ながら僕の睡魔には勝てない。すぐに眠りに就いた。

○ 8月 27 日 Physical Therapy & Rehabilitation

朝 6 時に坂爪に起こしてもらいビュッフェで朝食をとった後、ブレイス先生が迎えに来てくれて、大学へ向かった。

ブレイス先生がみんなをそれぞれ違う科に連れていき、僕は一番最後に Physical Therapy & Rehabilitation へ。ドキドキしつつ研究室へ入り、とりあえずびびったら負けだと自分の中で信念があり、とりあえず大

きい声であいさつした。対し向こうの先生は冷静な返答だったが、そこは置いて、みんないい人で快く迎えてくれた。また学生はこの獣医学生のローラとブラジルからの visiting student であるラファエラがおり、ラファエラは英語をゆっくりしゃべるのでとても助かった。

先生に一通りこの科が行っていることを説明してもらえた。アンダーウォーターレッドミル (UWTM) やランドレッドミル (LTM)、ショックウェーブ、ウルトラサウンド、エレクトリックスティムレイト、レーザー、ストレッチなどを行っている。UWTM や LTM は IVDP や骨折の子の治癒促進、太りすぎの子のダイエットなどを目的として行うそうで、何例も実際に見ることができた。引切り無しに患者がくるので需要があるのだなと思った。ショックウェーブはで骨折部位に当てることで、骨増成促進、組織の再構成促進とかを期待できるらしい。レーザーは僕もやらせてもらうことができた。どの治療も日本では人でしか見たことがないようなものだったので新鮮だった。また初日からかなり手伝わしてもらえたのでとても面白かった。

5 時 30 分に実習が終わり、みんなと合流した。いろいろ情報交換し、今日あったことなどを報告しあった。ホテルに戻り、夕食を食べた後はすごく眠くなった。やっぱり緊張して疲れたのだなと思った。しかしとてもよくしてもらえたので明日も楽しみだ。

○ 8月 28 日 Physical Therapy & Rehabilitation

朝 6 時に坂爪に起こしてもらった。今日は昨日に引き続き Physical Therapy & Rehabilitation に行った。2 日目ということもあってあまり緊張せずにいけた。また少し余裕も出てきてまわりの状況が見れるように

なった。Physical Therapy & Rehabilitationではその日のスケジュールがホワイトボードに書き出されており、今日もかなり埋まっていた。きくところによると月火は割と混むことが多いらしい。基本的な流れとしては、飼い主がペットを連れてやってきて預けた後、リハビリを行い、終わるとまたすぐ連れて帰る。このパターンが多い。だが2、3匹入院患者もいた。

UWTM や LTM などを行う患者は今日も多くみられた。初めてみたものとして針治療があった。動物に対して針治療も行うとは驚きだった。途中 UWTM を一人で任されたときには緊張したが、実際に体験できたのはいい経験だった。また PROM といって動物をラテラルにし、患肢を自転車をこぐような感じでゆっくり動かし、あたかも歩いているかのように関節や筋肉を動かすリハビリを教えてもらった。この科では多くの作業を教えてもらうだけでなく、実際に自分でやることのできたので学んでいて楽しかった。あつという間にホテルに戻る時間が来たので最後に2日間お世話になった先生とローラ、ラファエラに感謝の意を伝え帰った。一つの科に2日間は少し短く感じ、もっと長くいたいと思った。

夜はみんなで集まり夏だけ鍋を食べた。日本食はやっぱり最高だった。

#### ○ 8月29日 Neurology

朝は例のごとく坂爪に起こしてもらった。今日からまた新しい科で、僕は Neurology に配属された。挨拶後、アンナという学生について回った。アンナは何か質問があったらなんでも聞いてと言ってくれてとってもいい人だった。午前中から忙しく、オペをしたバセットハウンドのペインコントロールの処置を行い、さらにその子のオーナーさんとの面

会もした。

次に、もともと発作持ちでさらに日曜から四肢が伸び歩けなくなった患者がやってきた。脳か脊髄に異常があると思われ、歩けなくなった原因として発作も関係あるかもしれないし、他にパルボなどの感染症や脊髄腫瘍が疑われた。

診察の手順は日本と異なり、まずは診察室でオーナーさんと学生のみで話をし、ヒストリーなどを主に尋ねる。その後動物をお預かりし、その情報を持ちかえって先生に伝える。動物の身体検査などを踏まえ、学生は症例に対する自分の考えを述べ、さらにそれに対し先生はなぜそう考えるか理由をきき、またアドバイスする。診察室に戻り、先生、学生、オーナーさんで話をし、診療方針などを話し合う。そして一通り終わると学生はパソコンにヒストリー、診断、処方、治療、薬の情報などを打ち込む。こういった流れだ。アメリカでは学生が普通に処置を行い、オーナーさんと面会、診察もする。実践的に学生のときからこういった経験ができる環境は素晴らしいなと思った。

3時くらいまで座る暇もなく忙しかったが、そこからは一気に暇になった。アンナは、私はペーパーワークをやるので何しててもいいよと言うが、何していいのかわからず困った。結局病院内をしばらく徘徊し時間が来たので今日はここで終了した。

夜はヌードルショップで夕食した。味はまあまあといった印象だった。

#### ○ 8月30日 Neurology

今日も坂爪に起こしてもらい起床。大学に行くのにも大分慣れてきて緊張もしなくなってきた。おそらく向こうの学生も日本人の学生がやってきているということが浸透してきているのではないだろうか。最初に比べうま

いこと僕たち日本人に應對してくれている気がした。

今日もまたアンナにくっついていろいろすることになった。朝から忙しく、まず入院患者の世話を昨日に引き続き行った。9時から診察が始まり発作持ちのポストンテリアがきた。検査などを行った結果、特に顕著な問題点は見つからなかった。さらに原因を追及したいならMRIなどを行う必要があったが、オーナーの希望でステロイドの処方のみで終わった。

その後はオペの見学をした。IVDPのオペだったが、北里では整形外科がするのに対し、テネシー大学では神経科がすることを知った。ベントラルスロットを初めて見る事ができた。授業でベントラルスロットは出血しやすいのでなかなか難しいときいていたが、ほとんどそれは見られなかった。

その後はペーパーワークがほとんどでまたしても4時くらいから暇になった。アンナによると神経科は大変だしかなりつらい科らしい。診療が朝からずっと続き、昼飯が遅れるしペーパーワーク作業が多すぎると言っていた。

時間がきたのでアンナに別れを告げ、ホテルへ戻った。夕飯を食べた後、僕は部屋へ戻り少し寝た。その間に出かけていた組がムーンシャインというすごい強いお酒を買って帰ってきたのでみんなでそれを少し飲んだ。やばいという感想が一番似合うお酒だった。

### ○8月31日 Radiology

朝はいつも通り坂爪に起こしてもらった。今日は放射線科に行くことになっており、楽しみだった。着いて早速クライアントという学生としゃべった。向こうが気を使って質問をどんどんしてくれるのですごい助かった。

9時になると先生がやってきて、学生たち

との症例検討会みたいなものが始まった。金曜は肺の読影だった。学生それぞれにX線のフィルムを渡し、それを読影させ何がわかるか尋ねる形式だった。

その後は診療が始まった。放射線科では学生が撮影する人は撮影のみを一日中行い、読影する人は読影のみを一日中行い、それによってローテーションするとのことだった。それぞれのところに先生あるいはVTさんがいてマンツーマンに近い形で学生に教えており、教育の仕方がすごくいいなと思った。このやり方は正直うらやましかった。

アメリカでは撮影時には動物に麻酔をして沈静させるのが一般的で、プロポフォルなどを少量投与して心音を気にしつつ撮影をしていた。

様々な科から動物がきており、犬猫以外に、鳥とウサギの撮影を見ることができた。またトカゲとフェレットの画像をみせてもらった。ウサギは多少犬猫に似ている部分もあったが、トカゲの読影はなんじゃこりやといった感想。

午後も撮影のお手伝いさせてもらったり、読影をしたりした。3時くらいから超音波の説明があり、一通りの臓器を見せてもらった。超音波がちょうど終わったところに5時になったので終了。

今日は帰ってから外に出てステーキを食べに行った。本場のステーキはまさに肉の味で美味しかった。またアメフトの開幕戦がありテネシー対ノースカロライナが放送されていた。店内はすごく盛り上がっていい雰囲気だったし、点が入るたびに客がみんなギャーギャー叫ぶのですごく楽しかった。結局テネシーが勝ったので何より。

### ○9月1日

今日は土曜日なので休みだ。朝は比較的

ゆっくりできたが8時過ぎには坂爪に起こされ起きた。

昼前くらいからブレイス先生にショッピングモールに連れて行ってもらった。そこでお買い物をいろいろした。

さらにその後テネシー大学のアメフトの競技場内に今日オープンしたばかりのお店があるとのことでそこにも行き、お買い物をした。帰りにマックへ行き食事をした。さすがマックは安定した味だった。ただ飲み物のサイズは大きかった。

ホテルに戻りプールへ行き、夕方6時頃まではしゃいだ。焼けたが楽しかった。

夕飯はウォルマートで買った巨大なピザと堀先生特製のサラダを食べた。ピザもおいしかったが、サラダが本当に旨かった。

#### ○9月2日 BOOMS DAY

朝にウォルマートへおみやげを買いに行ったりした。昼飯は部屋でそばを食べた。やはり日本食はおいしい。

2時前にブレイス先生にダウンタウンへ連れて行ってもらった。今日はBOOMS DAYというお祭りの日で、どうも南アメリカ最大の花火が川沿いで見られるらしい。会場近くはすでに店などが見られ、スピーカーから音楽が流れていた。

花火大会は夜9:30からでまだまだ時間があったので会場から少し離れたダウンタウンの中心の方へ行き、バーみたいなところに入った。その店の内の雰囲気がすごくよくて感動した。かなり古くからあるお店らしい。

その後もいろいろなことをして時間をつぶし、時間が近づいてきたのでブレイス先生おすすめの花火を見るスポットへ移動した。花火の大きさ、ドーンという音がさすがアメリカレベルだった。途中雨が降ってきて、最終的には豪雨となった。激しく雨に打たれつつ

それでも花火をみた。最後は連続でこれでもかかってくらい打ち上げられすごい盛り上がった。終わった後もしばらく土砂降りだったので誰のものかわからないテントに雨宿りし、しばらくお世話になった。

ブレイス先生と連絡を取って迎えにきてもらいホテルに帰った。雨にぬれ、ものすごい体が冷えたのでラーメンを食べた。すごい暖まった。

#### ○9月3日

今日は月曜だがアメリカの労働者の日だったので大学は休みだった。

ということで10時頃、ラフティングへブレイス先生に連れて行ってもらった。天気は曇りで何とか大丈夫。昼ご飯はブレイス先生が持ってきてくれたチキンやにんじんをみんなで食べた。森の近くの外で食べたので蚊がいっぱいいた。ウエストナイル熱が流行っているとのことでみんな刺されないように注意していた。ところが食事も済んだ頃、盛林が蚊に刺されないですんだ、と発言しているまさにその時、蜂に刺されるというサプライズを起こしてくれた。

人生初のラフティングはものすごい興奮した。びしょびしょになったがとても面白かった。

途中丸岩がゴムボートから落ちた。本日2個目のサプライズ。疲れたけどすごくいい経験ができた。

その後ホテルに戻り、夜は女子達がつくってくれたうどんを食べた。鶏肉いりでおいしかった。

#### ○9月4日 Avian & Exotics

大学研修2週目がスタート。今日もまた坂爪に起こしてもらい一日が始まる。今日はAvian & Exoticsに配属された。



その後すぐ、ラムジー先生にみんなで動物園に連れていってもらった。ラムジー先生にその動物の病歴などを説明してもらいながら動物をみた。今まで動物園で動物を見ても、特にけがや病気を気にすることはなかったが、今回話をきいて意外とそういった問題も多く、日常茶飯事ということを知った。

1時過ぎにまた大学へ帰ってきた。フクロウやオポッサム、リス、インコ、カメなどの処置を見ることができた。リスは多くがペットではなく野生動物で連れてこられていた。野生動物を診察するお金はどこから出ているのか尋ねると、大学病院側から出ていると返答された。やはりできる治療はある程度限られているらしく、CTやMRIといったお金のかかることはしないとも言っていた。

ウサギの歯を削っている作業をみている途中で時間が来たのでホテルへ。今日はホテルで夕食を食べた。

#### ○ 9月5日 Farm animal

今日はFarm animalに配属されることになっていたが、朝、Exoticでトラがくることになっていたのでブレイス先生にわがままを言い、それを見学してから行くことになった。トラはものすごく大きかった。麻酔はトラの入っている檻の外からうまくタイミングを見計らって注射していた。最初は白内障などを主訴に病院に運ばれてきたらしいが、実際は水晶体の脱臼だった。先生とオーナーさん（保護団体の人）とで話し合った結果、結局眼摘をした。

昼くらいからファームアニマルへ行くと、ちょうどラマの去勢をやっていた。ラマはアメリカではペットだったり、毛の利用を目的で飼われたりするらしい。術式は牛とほぼ変わらなかった。その後は寄生虫感染したラマへの輸血をみた。

ファームアニマルではアルパカやラマ、鹿などかなりエキゾチックに近いものまで診ることを知った。午後からだったのであまり多くの症例は見れなかったが、5時になり今日はこれで終わり。

帰ってからは明日の夜ブレイス先生と奥さんを招待し、パーティーすることになっていた。なのでそのための食材を買いにいったり、金曜日ラストの日にブレイス夫妻に渡すプレゼントを準備したりした。いよいよ終わりも近付いてきたと思うと少し寂しかった。

#### ○ 9月6日 Farm animal

今日もまたFarm animalだった。今日は忙しいと行ったときに言われた。牛の削蹄が特に多かった気がする。ここでは、削蹄鎌はほとんど用いず、基本的には機械を使って削っていた。

牛の体表に腫瘍ができており、その部位を切って排膿させる作業も見た。これはアルカノバクテリウムが原因だった。同様にアルカノバクテリウムが原因で敗血症になった動物もきた。

子宮膿腫の患者は排液がものすごく臭く、全部排出させた後、子宮洗浄を行った。

最後の方になると削蹄の作業を手伝わせてもらえたので楽しかった。5時過ぎになりホテルへ戻った。

みんなで準備を急いでして、ブレイス夫妻を招いてパーティーをした。親子丼、豚汁、ほうれん草のお浸しを出したらとても喜んでもらえたのでよかった。

明日で大学研修も最後だ。ここまで本当にあつという間だった。あと2カ月ぐらいはいたいと思う今日この頃。

#### ○ 9月7日 Anesthesia

今日も坂爪に起こしてもらった。今回の研

修中、今まで一度たりとも目覚ましをかけることなく、それに対し微塵の不安も感じることなくここまで来たことに、僕の坂爪への絶大な信頼を感じていただけるだろうか。

それはさておき今日は麻酔科へ行った。麻酔科では麻酔科の学生が他の科のオペにつき、導入から覚醒までずっと一緒に同行するのが基本である。学生は犬の体動、眼瞼反射、顎の緩み、心電図などを見て、酸素量やイソを随時調節していた。こちらでは自発呼吸は残した状態を維持するようにしている。ときにはプロポを追加投与することもあった。

10時からノックスビルの市長さんと会うことになっていたので途中で抜けた。市長さんはいなかったが代理の人から賞状をいただいた。

その後また研究室に戻り、13時から今度はブレイス先生と一緒にランチを食べに行く予定が入っていたのでまともや研究室を抜けた。

川辺のお店で川を見渡せる良い位置で食事した。そこはお肉のリブがコンテストで優勝したことがあるほど美味しいというお店で、実際リブを食べたが本当においしかった。

ブレイス先生から今度は大学からの賞状をいただいた。いよいよ研修も最終日なんだな、もう明日の今頃はお別れしているのだなと思うと何だか泣きそうだった。泣かないけど。

また3時くらいに研究室に戻り乳腺腫瘍のオペを見学した。全摘出をしていた。

5時過ぎになりとうとう最後のお別れへ。これで大学にくるのも最後かと思うとまとも泣きそうだった。泣かないけど。

夜はブレイス夫妻の家へホームパーティーに招かれた。ブレイス夫妻だけでなくラムジー先生とそのお子さんなどがいてまさにホームパーティーという感じだった。

ある程度食事も落ち着きそのタイミングで

プレゼントを渡した。お世話になったのはこっちなのにさらに奥さんからお土産をいただいた。本当にありがとうございます。

パーティーも終わりホテルに戻り、次の日は朝6時のフライトなので4時出発ということを知った。帰る支度をし、さらに真夜中のウォルマートへびびりながら出かけた。

○9月8日

ウォルマートから帰ってきたら2時40分とかだったので坂野と僕はもう寝なかった。3時40分くらいにチェックアウトし4時にいざ出発。荷物があるのでブレイス先生だけでなくコニー奥さんもきてくれた。ゲートの手前で夫妻に最後の挨拶をした。本当に本当に本当にありがとう。ゲートインしたあとも向こう側に夫妻がいたので手を降るとふりかえしてくれた。さあ、これで本当にお別れ。いつの日かまた来たいテネシーノックスビルそしてテネシー大学。そう思わせてくれる良い場所、人のいる所だった。

さてここからは移動。まずはノックスビルからシカゴへ。シカゴでの待ちの時間がものすごくあったのでみんなで外に出てシカゴの風を感じた。フライト時間までは空港内をぶらぶらした。そしてシカゴから成田へ。機内では寝まくりだった。あっという間に日本に着いた。

ここで今回の研修はおわり。お疲れ様。そうそうこれに当たる言葉が英語にはないんだよね。

○まとめ

今回のアメリカ研修は本当に充実しており、有意義な時間を過ごすことができました。向こうの学生のモチベーションの高さや教員との関係のよさ、学生自身による診療など様々なところで刺激を受けました。アメリカ

カの獣医療を見て、日本の方が優れているなと思う点もちろんあり、そういった部分を再認識させられることもありました。今回の経験が少なからず今後の自分に影響すると思います。最後にですがブレイス夫妻やお世話になった方々、引率の堀先生、そして一緒に研修にいった仲間たち。関わったすべての方に感謝致します。どうもありがとうございました。

#### ○謝辞

I thank everybody who I met in Tennessee University, especially Dr. James J. BRACE. I appreciate your many kindnesses to me. I had good time in these two weeks and I can't express how grateful I am.

In the hospital, I felt the difference between Tennessee University and Kitazato University. Motivation of UT students is always high. They ask a lot of questions, and Doctors teach them very kindly. I think it's a good example for us to follow.

I also experienced American culture, way of thinking and so on. Thanks to American big food, I put on fat.

Finally, I will never forget these two weeks. I hope to visit and see you again sometime. Thank you very much

Hiroshi Hamaguchi

#### 盛林 直規

##### 1日目

出発の前日に男子メンバーは坂爪家に集合した。前夜祭でお酒を軽く飲むだけのつもりが、テレビでサッカーの試合もやっていたこ

ともあり寝るのが遅くなってしまった。朝起きると睡眠不足とお酒がまだ体に残っていて、まさかの体調不良…。でも坂爪のお母さんが美味しい豚汁とおにぎりを朝ごはんに用意してくれたので元気が出た！ご飯のあとは荷物をまとめ、いざ成田空港へ！飛行機内では各座席に映画やドラマ、音楽を自分で選んで聴けるようになっていた。ずっと映画を観ていて、10時間ぐらいあったが思っていたよりも早く着いた気がした。ダラスでの乗り継ぎの税関では友哉だけが違う方向を指示されて、なぜか違う方向に歩いて行った…。飛行機の出発が一時間以上早まっていたのもあり、みんなで心配しているところに友哉が現れた！なぜ違う方に行ったのか理由を聞くと、機内で出されたオレンジジュースを手荷物に入れたままにしたことが荷物検査にひっかかった原因だったらしい（笑）まあ何事もなくよかった。テネシーに着くとブレイス先生と先生の娘さん、お孫さんが迎えに来てくれてホテルまで送ってもらった。その後先生は帰ったので、みんなでアメリカでの最初のご飯にイタリアンの店に入ったが、味がしょっぱいのと量が多くていきなり衝撃を受けた。体調不良だったのもあり、あれはきつかった…。その後は必要なもの（水や食べ物など）を買いに行き、ホテルで休んだ。

##### 2日目

朝7時に起きて、みんなでホテルの軽いバイキングで朝食を食べた。その後は近くにある Walmart というでかくて安く、何でも売っている店で買い物をした。サングラスを買い全員サングラスというなかなか怪しい集団で昼食を食べた。ピザ4人前と書いてあるのを注文したが、8人でも十分なぐらいの量だった。さすがはアメリカンサイズ！ホテルに帰り1時からブレイス先生が迎えに来

てくれて大学の案内をしてくれた。先輩から広いとは聞いていたものの、実際に行ってみるとかなりでかく感じられた。地理感のない自分は案の定案内されている途中から自分がどの辺りにいるのか全くわからなくなった。まさか英語や獣医の知識、コミュニケーション以外にも心配ごとが増えることになるとは…。帰りに Asian market で日本食の材料を買い、帰った後はみんなでホテルのプールで遊んだ。その後ブレイス先生の家を招いてもらい Welcome party を開いてもらった。出てきた料理がめっちゃ美味しくてびっくりした！食事の時にブレイス先生から誰がいつどの研究室に配属されるかを教えてもらい、party の後はホテルに帰り次の日の準備をして眠った。

### 3、4 日目 (orthopedics)

とうとうアメリカ研修が始まった！朝起きて大学へ行く準備をしている段階から期待と不安が少しずつ出てきて、大学へ向かう車内では変な緊張に襲われた…。大学に着くとブレイス先生がそれぞれの学生が行く研究室まで送り届けてくれた。1人また1人といなくなるにつれ緊張してきて、ついに自分の番に…。ブレイス先生も一緒に部屋に入ってきて「研修生を宜しく!!」と軽く挨拶をしてくれた。とりあえずブレイス先生が話した人達に自己紹介をと思い、テンパりながらも話をしていると、突然目の前の学生が自分の後ろの方を指差した!!「なんだろう??」と思っていると「今日つく整形外科の学生がどっか行っちゃうから追っかけて!」と言われた…。すぐにその学生を追っかけて何とか見失わずに済んだが、何がどうなっているのかわからなかった。あとで聞いたら最初に話したのは、関係のない整形外科と同じ部屋の軟部外科の学生だったらしい(笑)。

整形外科の主な流れとしては、基本的に月水が診察日で火木が手術、金曜が診察や手術の残りをやる。土日は休みで、入院患者や緊急患者が来たときだけ行くらしい。毎日まず9時までに担当している動物の世話や健康チェックなどを行い、診察日は10時から診察を行う。基本的にはまず学生が一人で診察室に入り飼い主さんと話をやる。その後ペットを整形外科の部屋に連れて行き、一通りの検査を学生だけでやる。次に Dr に検査結果などを説明した後、Dr がもう一度検査を行う。最終的に professor と確認をしたあと、診察室に戻り飼い主さんに治療方針などを伝えるという流れだった。今回ついていた学生がみた症例としては股異形成や膝の亜脱臼、骨折などがあつた。手術日は朝から薬など手術の準備をして、時間になったら患者を麻酔にかけ手術をするという流れだった。挿管や導入、麻酔などは麻酔科の人がすべてやるので、整形外科の人は手術に専念していた。手術は麻酔者1人、術者1人(professor)、助手2人(Drと学生1人ずつ)、ほかの学生は見学をしていて、質問などをしながら手術をすすめていた。

### 5、6 日目 (avian/exotics)

エキゾチックの基本的な流れは、まず水曜が手術メインの日で、それ以外の平日は診察とちょっとした手術を行う。1日の流れとしては9時までに大学に入院している動物の餌やりや健康チェックなどを行い、9時からラウンド(学生が担当している患者の状況を他の学生や Dr に説明する)を行っている。その後は予約や手術があれば、学生がメインで担当してやる。Dr は学生が診察を行っているときにそばで一緒に見て確認する形で、質問などをしながら進めていた。自分がいた日には、kinkajou の去勢や伸びすぎた兎の

歯の治療、親のいないリスやモモンガの餌やり、怪我をしたカメのリハビリ、フェレットのインスリノーマ、トカゲや鳥（オウム、ハト、鷹、鶏）の治療などを行っていた。診察や手術以外の時はそれぞれの患者の情報を紙やパソコンに打ち込むペーパーワークをしていた。Avian/exotic ではペット以外でも野生動物で保護されて来院することも多いため、いろんな種類の動物、治療を見ることができて楽しかった。

### 7日目 (anesthesia)

まず朝学校に7時40分ぐらいに着いた時には、すでにカンファレンスが始まっていた。基本的に手術などで用いる麻酔薬の効果や組み合わせ、どのような時に用いるのがいいのかなど、先生が学生に質問をしながら話を進めていた。カンファレンスが終わると、手術があれば準備室で担当の学生が麻酔の導入や挿管、麻酔の維持などを行っていた。X線やCTが必要な患者は準備室からそれぞれの場所に連れて行き、必要なら別の検査室にも移動した。眼科や皮膚科、腫瘍科、神経科、放射線科、整形外科、軟部外科、内科、耳鼻科など分野ごとに分かれているため、担当の患者に複数の異常があればさまざまところに行き、専門の先生に確認してもらっていたのが印象的だった。自分がいた日には、尿失禁が主訴でその手術を目的に来院したが乳腺腫瘍も見つかったので、まず病理検査をして癌ではないことを確認していた。その後乳腺腫瘍の摘出と膀胱頸のまわりにプラスチックの薄いチューブのようなものを巻きつけて固定し、後からその中に水を入れることで膀胱頸の内腔が狭まり、失禁を減らせるという手術が行われた。尿失禁の原因は、避妊手術後のホルモンバランスの異常によるものだったらしい。麻酔の管理は学生が付きっきりで

チェックをしていて、内容自体は日本とほぼ同じ形だった。

### 8日目

今日は朝10時にブレイス先生に West Town Mall というショッピングモールへ連れて行ってもらった。このモールには、有名なブランドからビレバンのような店、フードコートなどいろいろな店があった。いろいろな物が売られていたので、見ているだけでもすぐに時間がたってしまった。その中でヒーローものやディズニーのグッズをメインで売っている店があったのだが、その店の試着室の外観がディズニーで出てくる城のようになっていて面白かった。店の中にいる子供たちもすごく嬉しそうな顔をしていて幸せそうだったのが印象的だった。お昼はモール内のフードコートでタコスが売っていたのでそれを買って食べた。買い物後はブレイス先生に学校のグッズショップに連れて行ってもらった。football が有名なだけあっていろいろなグッズがあった。ホテルに帰ってからはみんなプールで騒いだ。夕飯は Walmart で大きな冷凍ピザや野菜を買い、堀先生特製サラダを作ってもらった！ピザは安いのに量が多く、味も十和田のピザよりおいしかった気がする(笑)。堀先生のサラダもおいしかった！

### 9日目

今日は8時に起きて、9時に朝食10時から買い物に出かけた。テネシーのお土産はいろんな場所で売られていて、テネシー愛が感じられた。昼ご飯は前に Asian market で買ったそばをみんなで作って食べた。久々に日本食を食べたからか、やさしい味でかなり美味しく感じられ胃も喜んでいた気がする(笑)。2時前からブレイス先生が迎えに来てくれて BOOMSDAY という祭りに出発した。

BOOMSDAY とはアメリカ南部最大の花火の祭りで、毎年約数十万人も集まるらしい。祭りはテネシー川沿いで行われ、メインイベントは花火だが、それまでもプロレスや country music の演奏などもあってアメリカの雰囲気味わえた。花火は一つ一つが大きくてカラフルで、かなり連続して打ち上げられていたのもありすごい迫力があつた。花火が始まってちょっと経ってから小雨が降り出して、まさかなあと思っていると、急にシャワー並みの雨に変わった…。雨宿りすると花火の迫力がなくなる気がして、みんなで大雨の中絶叫しながら花火を楽しんだ（笑）。後にも先にもこんなに強い雨の中で花火を見ることはないだろう…。ある意味強烈な体験が出来てよかった！

#### 10 日目 ラフティング

今日は朝 10 に出発して、ブレイス先生と一緒にみんなでラフティングをした。ホテルから車で 1 時間半ぐらいの場所にあり、ラフティングの前にはピクニックをして、ブレイス先生が用意してくれた昼ご飯を食べた。ラフティングをするのは初めてで、説明を聞いている時は死ぬ可能性もあるので気をつけるようにと言われて不安になったけど、実際にやってみると周りの景色はキレイで、スリルもあってめっちゃ楽しかった！穏やかな流れのところになると、インストラクターの人が川に入ってもいいよ！と言ってくれたので、川に飛び込んだが、自分が自然に流されるスピードよりもボートが流される速さの方が速くて、ボートに追いつくために必死に泳いだ（笑）。その最中に足がつりかけるというトラブルもあったけどすごく楽しかった！

#### 11 日目 (Equine surgery)

今日は朝 9 時 45 分から 13 時ぐらいまで

エキゾチックの Dr ラムジーとテネシーの動物園に行った。動物園内の治療を行う場所を見せてもらったり、動物の説明をしてもらいながらいろんな動物を見て回った。診療室ではこの日に治療を行う予定の表がホワイトボードに書いてあつたが、結構な数がいて予想外だった。何気なく見ていた動物の中にも、先生の説明で実はこの子は足が悪いんだよと教えてくれたので、普段見ている動物の中にも異常がありながらも展示されていることを知った。

Equine surgery では、この日は全然予約がなく、すでに治療済みの馬のバンデージを交換したり、レーザー治療で腫れを抑えたり痛みを弱めるといったことをしていただけた。他にはウォーキングをさせたり、ペーパーワークをしていた。暇な時間は隣の Equine medicine にも行っていた。ここでは食欲がないという理由で来院した馬がいて、エサを与えてちゃんと飲み込むかのテストを行ったり、身体検査をしていた。この馬の舌の奥の部分は黒くなっていて、口腔内にも潰瘍があつた。おそらく、飼われているところに生えているある植物が原因ではないかと疑っていた。他には腹水の溜まった馬にエコーで見たり、検査をしていた。

#### 12、13 日目 (Farm animal)

Farm animal の初日の朝に急遽エキゾチックのところトラが来院すると聞き、みんなでその治療を見学しに行った。トラの異常としては水晶体が前方に外れているのと、前房蓄膿があつた。初めて檻の中で動いているトラを治療するのを間近で見られたので、いい体験ができた。鎮静させてから身体検査をするときに心音を聞かせてもらったり、足も持ち上げるのを手伝ったりできた。治療では眼摘するのを手術室の外から見られるはず

が、カメラの異常などで映像が映らず結局見られなかったのが少し残念だった。

**Farm animal** は通常とは少し離れた場所にあった。ここに来院する動物としては、牛、馬、羊、山羊、豚以外にもアルパカやリヤマ、ラクダなどがいるらしい。今回はリヤマの去勢や、貧血をおこしているリヤマに供血リヤマから採った血を輸血したり、牛の削蹄、膿瘍をドレーンしたり、蹄底潰瘍の牛にサンダルをはかせたりしていた。牛の治療を行うところでは柵で作られた迷路のようになっていて、上手く柵のドアを開閉させることで目的の場所に連れて行けるようになっていた。そこには牛を立った状態から横に倒して治療するための機械もあって、見ていて面白かった。

#### 14 日目 (Equine medicine)

この日は予約がたまたまなくて、あまりすることがなかったので **Equine surgery** と行き来していた。主に入院している馬の世話をし、患者が来るとその診察と治療をする形だった。蹄葉炎の馬やインスリン抵抗性の疑いがある馬に検査をしたり、バンテージの交換やレーザー治療、Dr が学生に皮膚移植をさせていた。皮膚移植では、正常な皮膚を直径 2,3mm に切り取り、ケガをして新しくできた肉芽組織の表面に貼り付けていた。貼り付ける時に少しメスで傷をつけてから行うのだが、出血によりすぐにはがれてしまうのでかなり難しそうだった。

今日は最終日だったので、ブレイス先生がホームパーティーを開いてくれた。他にもラムジー先生や日本とアメリカのハーフの学生、日本語を話せる中国の方なども参加してくれた。今までお世話になったブレイス先生にみんなで用意したプレゼントを渡すとすごく喜んでくれてうれしかった。

#### 帰国の日

朝 4 時にホテルを出発だったので、ほぼ寝ずに帰る支度や最後の買い物などに行った。二週間は本当にあっという間に過ぎてしまった。最初は不安もあったけど、徐々に慣れてきてやっと落ち着いたと思ったときにはもう帰る日になっていた。もっとテネシーに残っていたかった…。今までお世話になったブレイス先生や大学の人にもう会えなくなると思うとやっぱり寂しくなった。朝ブレイス先生と奥さんが迎えに来てくれてとうとう空港へ。ブレイス先生たちは本当に優しく、いろいろしてもらったので別れるのがつらかった。ブレイス先生は毎日仕事が忙しいのにもかかわらず、自分たちのために時間を作って送り迎えをしてくれたり、遊びに連れて行ってくれたり、本当に感謝しっぱなしの 2 週間だった。

帰りの飛行機ではあまり寝ていなかったせいか爆睡してしまい、ほとんど起きずに成田空港に着いた。空港では周りの人が日本人ばかりで、帰ってきたんだなあと安心したのとまだアメリカにいたかったという気持ちが両方あった。これからはまた普通の生活に戻ってしまうけど、アメリカで経験したことを活かせるように頑張りたい。

Dear everyone in Tennessee University

Thank you so much for your kindness during the programs. Everyone talk to me very kindly so I didn't feel anxiety so much. This two weeks was very precious time for me to learn many things, such as the difference between Japan. For example, I was very surprised how the students take the history and do examination by themselves. I can't do the same things like them right now, so I want to study more. I

will never forget the special experience in UT. Thank you very much.

Naoki Moribayashi

## 坂野 友哉

### 1 日目

成田空港を出発しダラスを経由して、ノックスビルに移動しました。

ダラスの入国審査はとても緊張したが、審査官がとても優しく、ジョークをかましてきた。しかし、自分には対応する能力がなく、気まずい間が・・・ジョークを *pardon me?* で返すありさま・・・どうにか通過したが、乗換の手荷物検査では飛行機内でもらってきたオレンジジュースがなぜかひっかかり一人別室に・・・アメリカは僕を入国させたくないらしいです。

どうにかホテルに到着し、みんなでイタリアンを食べることになり近くの店へ。ガンガンは調子にのってたくさん食べました。体調崩しました。早速一人離脱しました。さよなら。

イタリアンレストランやスーパーではアメリカを肌で感じました。ひとまず全てでかい。

初日は時差ボケも考慮し、早く就寝。

今日のビールは格別だった。**Samuel Adams** はやはりうまい。

### 2 日目

今日は午前から活発にスーパーマーケットへ。男はサングラスを買い、外国かぶれ丸出し。午後からはグレース先生の車で大学の見学へ。日曜日だったので、生徒はほとんどいなかったが、ついにきたな！と気持ちが高ぶった。診察室は 16 部屋あり、内科、外科、整形外科、眼科、皮膚科、神経科など細部に

分かれており、日本との違いを感じた。小動物と大動物の病院が併設されており、驚いたことに大動物の病院でも大動物の匂いはなく、清潔であった。その後、アジアンショップに連れて行ってもらい、早くも日本食が恋しくなったので米や醤油を買った。夕方からはジム家のホームパーティーに招かれた。まさにアメリカのイメージ通り、海外ドラマでみたような家のバルコニーでビールを飲みながらの **BBQ** は最高だった。コニーの手料理もそこらの店よりもおいしく、おかわりが止まらなかった。ジムへのおみやげで針なしホチキスをプレゼントした。すごく喜んでくれた。次の日からいよいよ実習が始まる。緊張で眠れないと思いきや、カラダは正直であった。

今日のビールは黒糖のような癖があった。苦手であった。

### 3 日目、4 日目 radiology

実習初日は **radiology**。朝行くや早々にオリエンテーションが始まり、約 40 分ほどの間ほとんど聞き取れず、とても焦った。ジムがいつも話す速度の 2 倍以上でまったくと言っていいほど理解できずオリエンテーションは終了。その後少し時間が空いたがテネシー大の学生と軽く会話をした。簡単な言葉を使ってもらったにも関わらず聞き取れなくてとても申し訳なかった。アメリカでは撮影のときアセプロマジンやブトルファノールなどで必ず鎮静をかける。理由を聞いたところ、アメリカは大型犬が多く、鎮静をかけないと獣医師が危ないそう。実際にマスティフが来たり、自分よりも重い犬が来たりした。

日本では小型犬や中型犬が多く、鎮静はほとんど使わない。動物へのストレスを考えると鎮静剤は有効であると思うが、飼い主への金銭的な面では負担になるのは事実である。



Radiology は教員に対してほぼマンツーマンで撮影、読影、エコーを学んでいた。撮影では、ポジショニングの位置はかなり似たようなものを感じた。しかし、撮影条件は小型犬、中型犬、大型犬の3種類で、必要におうじて少しずつ変化させる。鎮静をかけるところから教員とマンツーマンであった。読影も一日中読影専門の教員に一人の生徒が張り付き指導を受ける。この環境なら必ず知識や技術は伸びるしアメリカの教育がうらやましく思った。

今日のビールは軽いかんじで、深味はなかったがこれはこれでよい。

#### 5日目、6日目 Internal medicine

この2日間はとても濃かった。内科は内科1と内科2に分かれており、交互に診察日かわる。基本的な流れは、外来の患者に対して生徒が1匹ないし2匹担当を決めてその患者について、問診、検査のプラン、治療のプラン、カルテへのデータ入力を行う。問診は飼い主を診察室に呼ぶところから始まる。先生なしで生徒と飼い主が1対1で問診が行われ、history や TPR、視診、触診などを行う。自分が付いていた ANDREW や KATY は飼い主の前では堂々としており、自分の考えを飼い主に説明出来ていた。日本の学生とはかなり違うと感心した。その後ドクターに問診で得たことと自分なりの治療プランを発表、討論する。その後、ドクターと共に患者の元へ再び行き、ドクターと飼い主の話し合いに立ち会う。やはり、症状から確定診断、治療プランを常に意識しながら毎日を過ごすことで着実に力がついていると感じた。自分が担当になった患者はその日一日かけて、X線撮影や、血検、他の科での検査を行い、結果から患者の状態を判断、ドクターと今後について議論を行う。ドクターとの議論で印象的

だったのは生徒の質問に対して嫌な顔一つせず、むしろ尊重するような振る舞いで対応していたことである。すばらしい環境であると感じた。病院にくる動物は、緊急以外は予約の患者であり、大体が14時までには終わる。

その後、その日の患者について内科のすべてのドクター、学生でカンファレンスを行う。正直、何を言っているか詳しくわからなかったが、日本でいう会議とは違い、疑問に思うことをドクター、学生関係なく発言し議論し合っていた。本当の議論、議論の本質を初めて見たような気分になった。ANDREW や KATY、JACLINE などみんな優しく、ヒトの温かさや高いレベルでの討論を体験できたことが何よりの収穫であった。

アメリカはビールが安いのでつつい飲んでしまう。

#### 7日目 AVIAN/EXOTIC

この日のエキゾはヒマであった。予約の外来は1件しかなく、その他は入院患者の治療がその日のスケジュールであった。しかし、急患で野生動物が運ばれて来たりした。交通事故の鷹、鹿は状態からすぐに安楽死が選択された。

午後は時間だけがたっぷりあったので、みなみと共に様々な研究室を訪問してみた。血液検査室、細菌学、寄生虫学、解剖学などに突撃訪問したのだが、どの研究室の先生もとても親切に案内してくれたり、研究室でやっていることを詳しく説明してくれた。内容的には北里でやっていることと同様であったと感じた。この日はエキゾチックについての勉強よりも知らない場所や初対面の人に積極的にコミュニケーションをとれる度胸がついた一日となった。

アメリカのビールは軽いものが多い。自分

はもっと重いほうが好みである。

#### 8日目 ショッピング プール

今日は土曜日！ジムがショッピングモールやテネシー大学のオフィシャルグッズのショップへ連れて行ってくれた。ショッピングモールは日本でいうイオンみたいな雰囲気も多くのお店が入っていた。バッシュを買おうとしたがサイズがなく断念。日本より断然安かったので残念であった。ショッピングモールでは2時間半ほど時間をもらったがあつという間にすぎた。海外版プリクラを見つける度にぐっちとガンガンとプリクラを撮った。色合いやオプションが日本よりもエキゾチックで面白かった。撮影中の中途半端な空気や変顔が外の画面に映し出されるサービスがあり、我々の変顔が通行人にさらされた。もはや笑うしかなかった。来年研修に来る人はここでおみやげを買うことをおすすめします。種類も多いし他よりも安いものが多いです。

次に、アメフトのスタジアムにあるUTグッズのショップへ連れて行ってもらった。オフィシャルということもあり少々値が張る。ここでしか買えないものも多いがこだわらないならスーパーのほうが断然安い。

ホテルに帰ったあとは、みんなでプールで遊んだ。天気も良く最高に気持ちよかった。

連日の暴飲により口内炎が出来た。今日は2本だけにとどめておいた。

#### 9日目 ダウンタウン boomsday

今日は日曜日！午後からダウンタウンへ行き、夜はBoomsdayという花火大会へ行った。

ダウンタウンでは休憩がてら入った店が歴史あるビールの醸造場だったらしくオリジナルの地ビールを堪能した。予想以上においしく3人でほとんどの種類を制覇した。

日曜日ということもあり多くの店が閉まっ

ていた。ダウンタウンで買い物しようと思っていたので残念だった。

花火大会の会場に着き、花火が上がるまでかなりの時間があった。堀先生、坂爪、自分はビアガーデンへ。3リットルくらい入ったタルみたいなビールを渡された。3人で飲んだのだがなかなか減らない！途中、ビアガーデンで同じようなタルを持っている男3人組と写真を撮ろうということになり、話しかけたら仲良くなり、そこからタルが空くまで6人でハイテンションな飲み会が始まった。アメリカ人の一人がテネシーの有名なウイスキーであるジャックダニエルでショットしようぜ！と言ってきたので「乾杯」のコールでショット!!完全にいい気分になって6人だけかなり浮いていた。別れるとき「また飲もうぜ！」ってかんにで電話番号を教えてくれたが、ホテルから遠かったので結局連絡することはなかった。

みんなと合流し花火が始まるまでゆっくり。とはいかず自分と坂爪は隣のテントの若者と絡みに行った。飲みにケーションは全世界共通だと感じた。花火が始まると同時に激しいスコール。仲良くなった若者のテントに逃げ込みどうにか雨をしのいだ。1つのテントに外人がひしめきあってる中に自分いるのが不思議だった。花火はほとんど見ずに、多くの人と交流していた。花火もすごかったらしいけど、いろんな人とワイワイしながら話せたのはすごくいい思い出になった。地ビール最高!!

#### 10日目 ラフティング

この日は祝日！ジムがラフティングに連れて行ってくれた。天気は曇り時々雨で微妙だったが、最高に楽しかった。日本では体験できないクラス4の溪流を1時間半かけて下っていくのはスリル満天！ガンガンはネタ

ではなく本気でボートから落ちた。スローモーションで落ちていったガンガンの顔はいつものイケメンからは想像できないような顔であった。自分はガンガンの隣だったので、すぐに助けなければいけなかったが、少し放置してみた。しかし、ガイドが早く助けてやれ！といった感じだったのでしょうがなく助けてあげた。笑

テネシーへ研修にきたらこのラフティングは絶対経験したほうが良いと思う！

いろんな銘柄のビールを買ったけど、Samuel Adamsが一番うまい。

#### 11日目 PHYSICAL THERAPY

この日はPHYSICAL THERAPYだったが午前から昼過ぎにかけてエキゾチックのドクターがノックスビル動物園に全員を連れて行ってくれた。小規模な動物園であったが動物園の獣医の解説付きで園内を廻ることができ貴重な体験をした。動物園の診察室といっても特別な機器があったわけではなく、珍しい動物の診察でも似たような動物を参考にして診療を進めるそうだ。動物園内の動物は意外と投薬や治療を受けているものが多く、犬や猫と同じように糖尿病や関節炎になる。今まで自分が動物園をまわるときは、異常がある動物に気付けなかったし、治療を受けている動物は別の場所にいると思いついでいた。これから新しい視点で動物園を楽しめる気がする。

14時くらいにPHYSICAL THERAPYに戻り、ラファエラというブラジル人の学生と共にトレッドミルやバランスボール、電気治療を手伝った。PHYSICAL THERAPYでは術後の回復をスムーズにすることが目的の一つである。日本には専門医がいるほどこの分野は発展していないと思うので、とても勉強になったし興味深かった。この日は予約が

いっぱいいろいろな療法を知ることができ、充実した一日となった。

研修後のビールは実にうまい。

#### 12日目 13日目 Equine Medicine

この日は馬の内科だったが、前日にエキゾチックのドクターが午前にトラが来るから見に来ていいよ！と言ってくれたので、トラの診察に参加させてもらった。トラは左目のレンズが脱臼しており、眼球摘出の手術を受けることになった。来院したトラは、トラの保護施設からきており、そこまで狂暴という印象はなかった。とにかく獣臭がすごかった。麻酔で使用する薬剤はメデトミジン、ミダゾラム、ケタミンなどよく目にする薬剤を使っていた。麻酔がかかってからは自分たちも聴診や触診をさせてもらうことができた。トラの体の細部まで触れたのは貴重な体験だった。手術はモニターがつながらず、遠くで眺めることしか出来なかった。それにしてもトラを扱えるドクターや施設があるのはさすがアメリカだなあと思った。この日はトラをメインで見えていたので馬の内科にはほとんど行けなかった。

次の日、馬の内科に行くと朝からゼミの発表があり、学生のプレゼンを聞いた。リヤマの繁殖や子供についての発表だったが、突然の睡魔に襲われ眠気との戦いであった。プレゼンのとき一人一品性で料理を作ってきていた。みんなでそれを食べながらプレゼンを聞くスタイルにアメリカを感じた。ゼミの後は、馬の外科が去勢をしていたので近くで見学させてもらった。大動物の実習でやった方法と同じだったので理解しながら見学できた。ウマの手術も学生が執刀しており、ドクターが隣で指示を出すというスタイルであった。小動物も大動物も学生がメスを握れる点が日本と大きく違う点である。

午後は、白い馬の診察に立ち会った。この馬は慢性的に発咳があり、それを理由に来院した。アメリカでは馬はペットとして飼われることが普通である。そのため、学生は馬の扱いに慣れていたし、表情や行動から多くの情報を得ていた。自分たちは馬に触れる機会が少ないので病状のサインをあまり理解出来なかった。問診、視診、触診、レントゲン、内視鏡などの診察の流れを理解、体験することができ、ためになった。しかし、確定診断がつく前に帰る時間になってしまったのが心残りである。診断と処置まで見たかった。

この日の夜、ジムとコニーを招いてホームパーティーをした。2人とも親子丼と豚汁をおいしいと言ってくれて嬉しかった。

坂爪は痛風の心配をしている。それでも今日もビールはうまい。

#### 14日目 Farm Animal

ファームアニマルは動物病院から離れた場所にあり、みんなと会えないので少し心細かった。自分と岩塚の二人でファームアニマルの研修をしている間、みんなはジムに連れられ市長と優雅にランチをしていたそう。自分たちはフィールドサービスといって牧場に出向いて処置を行う研修に参加したため市長に会えなかった。

ファームアニマルの学生は全員女性でしかもみんなパワフル！そして英語のなまりなのかとても聞き取りにくく、とても苦労した。しかし、聞き取れないのは今に始まったことではないので、積極的に話しかけた。質問してみるとこっちが理解するまで親切に説明してくれた。実はいい人ばかりでした。午前には主に削蹄や、卵巣のエコーを研修した。そして、昼からフィールドサービスへ。一台の車にみんな乗り込み出発。車の中ではパワフルな学生たちがワイワイ、ガヤガヤ話していて

自分たちが会話に入る隙がなかった。それでもたまに話しかけてくれたりして、おみやげ渡したり、沈黙は避けてよかった。牧場に行く前にみんなでランチタイム。一つひとつメニューの説明してくれたり、朝から比べたらだいぶ打ち解けることができた。

牧場に着くと着替えを持っていなかった自分たちに学生とドクターが服と靴を貸してくれた。感謝です。初めに難産の牛の処置を行った。難産の処置を実際にみるのは初めてだった。残念ながら死産であったがよい経験をした。その後、蹄葉炎や蹄底潰瘍などの蹄の疾患を持った牛6頭に木製の靴のようなものを履かせたり、投薬、削蹄などを学生が一人一頭受け持つ形で処置を行った。だんだん処置の流れがわかってくると自分も簡単な作業を手伝った。さらに学生と仲良くなれた。一頭ごとにドクターが病状を解説してくれて、とても勉強になった。帰りにスタバに寄ってまたワイワイ、ガヤガヤした雰囲気の中で大学に到着。朝は不安でいっぱいだったが充実した楽しい一日となった。

夜はジムの家でさよならパーティー！ザックリーという10歳の少年とその妹とバスケして仲良くなった。一緒にご飯食べたり、写真撮ったり楽しかった。ジムとコニーへのプレゼントもかなり喜んでくれてこっちが幸せだった。

#### まとめ

今回の研修での何よりの収穫は、獣医学の知識はもちろんだが、それ以上に自分の目指したい将来像がより具体的になったことである。アメリカで経験したすべてのことがこれからのモチベーションとなると思う。また、同じ年代の獣医学生のレベルの高さに驚いたし、自分も負けてられないと思った。

言葉が十分に通じない環境での生活で、不

自由な面も多々あったが、そのような環境だったからこそ今まで見えなかった自分もみえたとし、人間的にも成長できたと思う。

この機会を与えてくれたテネシー大学のドクターや学生、北里大学の先生方、一緒に研修に行ったメンバー、両親に感謝したいと思う。

Dear UT Drs. and students

Thank you very much for everything, especially Dr. Brace. I had beneficial time and this precious opportunity motivated me more. I had meaningful time at every section, especially radiology and internal medicine. I never forget all of you and UT life. Thank you.

YUYA SAKANO

岩塚 尚子

8月25日(土)出発日

みなみちゃんと成田駅付近に前泊していたので、当日はホテルからのシャトルバスで空港に行きみんなと合流。長時間のフライトを経てダラス空港に到着し、緊張の入国審査をなんとか乗り越えて再び3時間ほどのフライト。ノックスビルに着くと、ブレイス先生と娘さんと、めちゃくちゃ可愛いお孫さんが迎えてくれた。車でホテルまで送ってもらった後、ホテル付近のイタリア料理店に入り、味の濃さに苦しんでから(笑)、スーパーで水などを買ってホテルにチェックイン。女子の部屋はダブルベッドが二つあって快適だった。

8月26日(日)大学見学

8時に起床。ホテルのバイキングで朝食を

とり(自分でワッフルが焼ける!しかし野菜がない)、近くのスーパーやホームセンターに行き買い物。1時にブレイス先生が迎えに来てくれて大学見学に行った。テネシー大学はとても広くて、中に入ると小動物の診察室が15部屋もあつたり、Exoticsでは鳥類用、爬虫類用、齧歯類用で入院室が分かっていたり、Rehabilitation roomではトレッドミルやプールがあるなど、設備がとても整っている印象だった。Equine Medicine and Surgeryでは、ストールの数が多くて床も清潔に保たれているようだった。

大学内を一通り見学した後はAsian Marketで味噌やうどん、蕎麦、醤油などを買って、これからの生活に備えた。夕方はホテルのプールで遊んでから、夜はブレイス先生の家で歓迎会を開いてもらった。ブレイス先生の家はとても素敵な家で、奥さんのコンニの手料理はレストランみたいに美味しかった。

8月27日(月)Avian/Exotics

前日、シャワーも浴びずにコテツと寝てしまったため、4時半に飛び起きてシャワーを浴びた。バイキングの朝食をとって、7時20分について出発。胃が飛び出るほど緊張しながらAvian/Exoticsの部屋へ。3人の学生が配属されていて、3人とも初めてのローテーションだったため先生が設備や仕事について説明していた(速すぎて、何を言っているかさっぱり分からなかった...)。それから学生それぞれが担当する患畜を決めて、世話をしたり、担当の先生と一緒に治療法を考えたりしていた。最初の患畜はトカゲで、小さいので心拍数を測るのに苦労していた。巡回運動をしているため神経的な異常があるらしい。ネコに襲われたウサギやリスの外傷の手当てと鎮痛剤・抗菌剤投与、皮膚に炎症と潰

瘍のあるリスへの抗生剤投与とヨード剤での洗浄なども見せてもらった。死んだ鳥を使って先生が翼のバンテージ法を教える場面もあった。午後にはフェレット、インコ、ウサギ、モルモットなどが次々と運ばれてきて、インコやナマズのレントゲン撮影をしていた。ナマズはレントゲンで胃にキャップのような異物が見つかり、浸漬麻酔で不動化した後に鉗子で引っ張り出そうと試みていたが失敗し、この後外科手術をするか安楽死させるか決めかねているようだった。

#### 8月28日(火) Avian/Exotics

昨日もいつの間にか寝てしまったので今日も4時半起床。緊張で吐き気を催しつつ大学へ到着。すでに学生はそれぞれの担当する患畜の餌やりなどを始めていた。私もリスの赤ちゃんに餌やりをさせてもらって、かなり癒やされた。今日もウサギやリスがたくさん来た。ネコに襲われた咬傷が一番多く、縫合して鎮痛薬を投与しながら治療するか安楽死させる場合が多いようだった。動物園から、腎不全になった絶滅危惧種のエリマキキツネザルも来て、食餌療法によって改善されてきたらしく今日は経過観察をするようだった。インコの骨折した趾は、バンテージで固定していた(四角く切ったバンテージテープ二枚を趾の裏表から貼り付けるだけだった)。

夜ご飯はみんなで鍋をした。謎のジャガイモ的な野菜が、切ってみたら赤カブだったため赤い鍋になったが美味しかった。

#### 8月29日(水) Physical Therapy/Rehabilitation

部屋に入ると、二人の学生が入院患畜の脚を動かしたり、麻痺した後肢を吊り上げながら散歩させたりしていた。入院しているゴールデンレトリバー(クーパー)は、椎間板ヘルニアで後肢が麻痺し、自分で排便で

きないため肛門に綿棒を入れて排便させたり、一日2回の四肢のマッサージをしていた。午前中には数件のUWTM(Under Water Treadmill)と、LTM(Land Treadmill)とSwimmingが行われていた。UWTMは、椎間板ヘルニアのように後肢が麻痺した動物の筋肉の衰えを防いだり、肥満犬の運動量を増やしたりするために行う。犬一頭が十分入るサイズの水槽の床がトレッドミルになっていて、動物の肩の高さまで水を入れると浮力によって運動が容易になるらしい。クーパーも、後肢が全く動かないのだと思っていたら、UWTMを行うと僅かに後肢が動いて自力で歩いていたので驚いた。UWTMは猫に使うこともあるらしい。Swimmingはダイエットがメインのようで、LTMは後肢が完全に麻痺している場合に、麻痺した脚を人の手で介助しながら行っていた。トレッドミルがメインのようだったが、他にも関節炎や術後の患部にレーザーなどの機械を当てて治癒を促すことも行っていた。ブラジル人留学生のラファエラがとても親切にしてくれたので今日はあまり緊張しないで過ごせた。

#### 8月30日(木) Physical Therapy/Rehabilitation

今日も5時に飛び起きた。今日もクーパーのマッサージから始まり、数件のUWTMやレーザー、バランスボード(これも脚の筋肉強化)をやっていた。毎日来院するというダルメシアンのだオタは、椎間板ヘルニアで後肢が麻痺しているが、LTMで歩かせてもらうのが大好きなようで可愛かった。今日は患畜が少なくて暇だった。

ホテルの夜ご飯はバイキングでビールも飲み放題なので、今日は慣れないビールを少し飲んでみた。

### 8月31日(金) Ophthalmology

眼科では学生が一人で診察することに驚いた。まず待合室まで学生が患者さんを呼びに行き、経過や状態や今まで使っていた薬について問診し、眼検査をしてから奥にいる先生に自分の意見を言って、先生がそれについてどう思うか話し、それから先生と一緒に診察室に入って今度は先生が眼検査を行って診断する。それが終わると学生がパソコンに電子カルテのようなものを作成し、先生がそれを確認し、印刷して薬と一緒にオーナーに渡す。今日は予約が7件ほど入っていたのでとても忙しそうだったが、その合間にジェニファーが色々教えてくれてとても親切だった。白内障と角膜潰瘍のミニチュアピンシャーは、潰瘍を細胞診してバクテリアが見つかった。他には白内障の術後検査、角膜炎の経過観察がほとんどだった。

夜ご飯はステーキを食べに行った。エルヴィスプレスリーの真似をした謎のおじさんと一緒に写真を撮ってもらったらCDをくれた(笑)。

### 9月1日(土) Shopping

ブレイス先生がショッピングモールに連れて行ってくれた。Victoria's Secret と Body Shop でボディクリームなどを買って、GODIVA で大量のチョコとチョコがけ苺を買い食いし、アバクロで洋服を買った。買い物後はマックに行って、日本にはないメニューにテンションが上がり、私はラップチキンとスムージーを買った。ホテルに帰ったらプールで遊んでから、夜ご飯には男子が食材とピザを買ってきてくれて、みなみちゃんがカプレーゼを作って、堀先生と私でサラダを作った。なんだか豪華な夜ご飯になった。

### 9月2日(日) Boomsday Festival

午前中は12時まで爆睡し、午後は大学近くで行われるお祭りに行った。怪しいかき氷を食べながらダウンタウンまで歩いて、バーに入ってチキンやピザを食べた。デザートに注文したアップルパイが劇的に美味しくて感動した。バーでのんびりしてからお祭りに戻って、フェイスペイントをやったり写真を撮ったりした。夜になると大規模な花火が打ち上げられてすごく綺麗だった。しかし途中から突然土砂降りになり、ぐしょ濡れになりながら花火を見た(笑) 寒かった...。帰ってからみなみちゃんと私だけで、サトウのご飯とインスタント味噌汁を食べてホッとした。

### 9月3日(月) Rafting

雨が降っていたのでラフティングできないかもと思っていたが、会場へ向かう途中から晴れた！着いたら、駐車場から少し奥に入ったところの林の中で、ブレイス先生が用意してくれたランチを木のテーブルで食べた。さわやかな風が吹いていて気持ちよかった。ランチが終わるといざラフティングへ！着替えて説明を聞いてから、ライフジャケットを着てバスに乗って川まで移動した。ラフティング、楽しかった！曇っていたから寒かったし、こんなに首まで水に浸かるほど濡れるとは予想してなかったけど(笑)、もう一回やりたいな。

夜ご飯にはうどんと蕎麦。和食を食べると安心する。

### 9月4日(火) Equine Surgery

今日は直規君と一緒に。説明してくれた学生が早口で全然聞き取れなかったが、直規君の通訳によると一頭は両前肢が筋拘縮で屈曲しているためキャストイングをしてあり、二頭

目も片方の前肢が同じ状態だった。他には外傷のためバンテージをしてある馬などがいて、朝の仕事はバンテージの交換。

今日は野生動物科のラマジー先生がみんなを動物園に連れて行ってくれた。ノックスビル動物園は小さめの動物園で、歩きながらラマジー先生がそれぞれの動物の生態について教えてくれて、動物園内の診療所も見せてくれた。バーベキューのお店でラマジー先生がお昼ご飯をおごってくれたが、すごい量だった。

Equine Surgery に戻ると、前肢がスパッと切れている馬が来ていた。すぐに縫合するとテンションがかかりすぎるため、今日は生食で洗ってバンテージをするだけだった。Equine Medicine に来た馬に食欲がないため、餌を食べさせるテストをして食道に異物がないか調べたあと、開口器を使って口腔内を見たら舌が真っ黒になっていた。これは潰瘍で、餌以外の何かを食べたせいではないかと言っていた。

夜はみなみちゃんの友達の Erika が家族に会わせてくれた。Erika のお母さんが日本人だったので、お父さんとの会話を通訳してくれて助かった。日本から来ていたお祖父さんとお祖母さんもいて、素敵な家族で楽しかった。

### 9月5日(水) Radiology

放射線科は、他の科から回ってきた動物の撮影と読影が仕事なので、朝はやることがなかった。そのまま野生動物科に行ってトラの診察を見た。トラは白内障と前房蓄膿がみられ、昨日から目に痛みがあるため鎮痛薬を投与してあったらしい。メデトミジンで鎮静してからケタミンで麻酔導入し、イソフルランで麻酔維持していた。眼科の先生が診察して水晶体脱臼が見つかり、眼球摘出することに

なった。

午後は放射線科に戻って、読影するところを見せてもらった。発咳がみられる犬では左心不全で右心が拡大し、肝腫大と食道狭窄がみられた。

### 9月6日(木) Radiology

2時半くらいにお腹の痛さで目が覚めて、トイレに30分こもった。昨日大学内の水飲み場で水を飲んだのがいけなかった。

リンパ節炎で喉が腫れて餌を飲み込めない犬での、食道瘻チューブのポジショニングのためのレントゲン撮影や、頭蓋の骨折像や、腫瘍の転移の有無、胸水、気胸などの症例を見た。腹腔にガスが漏れている犬では、胃からのリークが考えられるため緊急手術をするらしい。放射線科と馬科が隣接していて、馬用のレントゲン撮影室で馬の撮影もしていた。機材のサイズは小動物用と同じなので馬体の部分ごとに小さく撮影していて、どうやって読影するのか気になった。

夜はブレイス夫妻をホテルに招いて親子丼と豚汁を振る舞った。

### 9月7日(金) Farm Animal Medicine and Surgery

今日は友哉と一緒に。一頭目の牛は子宮蓄膿症で、生食で還流して抗生物質を投与するらしい。右後肢の外蹄が腫れて反り返っている牛をキシラジンで鎮静し、特殊な保定器で横臥させて蹄葉にリドカインを投与して削蹄していたら木片が出てきた。バンテージでしっかり固定してから歩かせてみて、血液がバンテージから漏れてしまっていたので巻き直したりしていた。今日は農家さんに訪問する日で、最初に難産救助をした。3頭ほどの削蹄と、蹄底潰瘍の削蹄をした。

夜はブレイス先生の家でパーティーを開いてくれて、ラマジー先生や、日本語を話せる



中国人一家や Erika も招かれていた。やはりコニーの手料理は本当に美味しかった。私達から夫妻へのプレゼントを渡し、夫妻から私達にもプレゼントをくれて、とても楽しいひとときだった。明日アメリカを離れると思うと寂しかった。

9月8日(土)帰国

一睡もせず、夜中にお土産を買いに行ったり荷物をスーツケースに詰めたりして、朝の4時にホテルを出た。空港でブレイス夫妻と別れるのがすごく寂しかった。乗り換えのシカゴが激寒だった。成田に着いたら解散して、夜行バスで爆睡しながら十和田に帰った。

Dear Dr. Brace,

Thank you for taking us to the university every day, and to the festival and rafting!

At first I was very nervous and couldn't speak well, but after 2weeks, I became to speak a little more and be able to enjoy the days.

The days in the Univ. of Tennessee were very stimulating for me. The students were kind and very professional. They raised my awareness of veterinarian student. So I got special experience in the university.

Thank you for giving us a hearty welcome. Please tell thank you to Connie, too.

Yours sincerely,  
Naoko Iwatsuka

佐藤 美奈未

8月25日(土)

この日の集合時間が午前中だったので、前日は空港近くのホテルに宿泊しました。

そして、成田からはまずはダラスへ... 約12時間の飛行で、ダラスへ到着しました。ダラス国際空港から再び飛行機を乗り継いでノックスビルへ行きました。そこで、なぜかノックスビル行きの飛行機の出発時間が早まっていて、急いで搭乗しました。ノックスビルについたら、ブレイス先生が待っていてくれました。そこで、一緒に迎えに来てくれていたブレイス先生の孫のハドソンくんが、とてもかわいかったです。その後、ホテルまで送ってくれて、次の日の予定を聞き解散しました。とりあえずお腹がすいたので、みんなでイタリアンレストランのお店へ... アメリカに着いて初のご飯、テンション上げて食べたものの... 味が濃すぎて、口に合わず、正直日本に帰って日本食が食べたいと思いました。

8月26日(日)

この日はまず、ブレイス先生がホテルまで迎えに来てくれて、テネシー大学に行き案内してもらいました。広すぎてどこをどう歩いているのか全くわかりませんでした。リハビリ用のプールや、馬や牛が丸ごと1匹入れる酸素カプセルがあり、アメリカの規模の大きさに衝撃を受けました。その後、アジアンマーケットに行き、そして、ウォルマートに連れて行ってもらいました。初日にアメリカの食べ物が合わなくて2週間不安だったので、アジアンマーケットで日本食が買えたときには安心しました。その後、ブレイス先生の家で夕飯をごちそうになりました。とっても美味しく、ここでアメリカの食事もいい

かも！と思いました。

## ☆大学研修 1 週目

8/27(月)～28(火)

大学研修 1 日目・2 日目 眼科

### 眼科 1 日目

アメリカ研修が本格的にスタートしました。大学に行くとき、とても緊張しました。大学について、何よりもまず驚いたことはアメリカの学生はとって早く学校に来ていました。7時半には登校して、患畜の世話をし、そして、なんと1限は8時から始まると聞きました。

1 日目の眼科は、初めは綿球落下試験、眼底検査など、生徒の飼っている犬を使い簡単な検査の方法を学び、その後実際に診察室へ。

まず初めの患畜は、ドライアイのブルドック、次は SARDS のチャイニーズクレステッドドッグ、午前中の最後は、まつ毛乱生のジャーマンシェパードがきました。すべて授業中の授業プリントでしか見たことがなかったので、実際の症例を目にできて、さらに治療法も聞けて授業で聞くだけよりもっと印象に残りました。

### 眼科 2 日目

この日は眼科のオペの日でした。この日のオペで見ることができたのは、白内障の手術です。手術では、白目と黒目の間を2か所11時と2時の方向に2～3ミリ切開し、水晶体の中の白い部分を細かく切り刻んで、機械で吸い取って、最後に替わりとなるレンズを入れていました。このように書くと簡単そうですが、実際は細かい作業なので、結構時間がかかっていました。眼科の手術で驚いたことは、ミラーボールを回しながらオペをし

ていたことです。周りの学生も時々踊っていて、アメリカンな手術を味わえました。

8/29(水)～30(木)

大学研修 3 日目・4 日目 麻酔科

3 日目から麻酔科でした。

始め麻酔科に案内された時、誰もいなくて、みんなミーティングにしているようだったので、ミーティングに参加させてもらいました。デキサメサゾン、プロポフォール、ケタミン...など、それぞれの位の比率で投与するのか、などが話し合われていました。

その後、なんと、ラクダの大腿骨滑車の形成手術に付き合わせてもらえました。ラクダを触ったのは初めてで、ましてや麻酔するところ、手術台に乗せられる所、全てが新鮮でした。ここで聞いたのは、ラクダは上顎に歯がなく、メスの歯はオスの歯より短かくなっているとのことでした。

また、口の中をしっかりと見てみると、奥の方が第一胃のようにヒダができていて、すこし...気持ち悪かったです。

その後、お昼休み明けに、硬膜外麻酔の練習を死んだイヌでやらせてもらえました。

歯科手術の時の歯の麻酔や、神経ブロックもやらせてもらいました。しかし、専門英語がかなり多く聞き取るのに苦労しました。

### 4 日目

麻酔科 2 日目

眼科のオペの麻酔でした。使ってる麻酔薬は日本と変わりありませんでした。それより、眼科の眼球摘出手術が興味深かったです。今回行った眼球摘出は、私が眼科にいた時に診察した緑内障の12歳のシーズーで、左目を同じ緑内障で以前摘出したイヌでした。今回の手術前に測った眼圧はなんと48もあり、正常の二倍以上ありました。眼球摘出は、そ

んなに難しいことはしていませんでした。瞼を結紮し、瞼の上下を切開し、眼球を摘出した後に瞼を切り取り再び連続皮内縫合と単純結紮で縫合し終えていました。

次に私が向かったのは、お昼休み開けに、フィジカルセラピーに向かいました。ここでは、色々な理由で歩行ができなくなったイヌの歩行訓練をしていました。

次はエキゾチックを覗くと、リスの子供が五匹もいて、なんと、抱っこさせてもらえませた。

その後、再び麻酔科に戻ると、CTをとるミニチュアダックスフンドがいたので、一緒に連れて行ってもらいました。CTを取ると、このイヌは椎間板ヘルニアだったので、そのまま覚醒させず、ヘミレクトミーの手術をすることになりました。ここで私は、一緒に付き合わせてもらい、始めてヘミレクトミーの手術をみました。しかし、帰る時間がきて、随核が摘出できた所までしか見られなかったので、すこし残念でした。

## 8/31(金)

大学研修 5 日目 エキゾチック科

エキゾチックでは、まず朝に全体でミーティングをして、どの個体にどんな餌を与えているか、薬は何を投与しているかの報告をしていました。この日の入院している動物は、カメ 3 匹、リスの子供 2 匹、タカ 1 匹、ハト 2 匹、ウサギ 1 匹、フェレット 1 匹、オウム 1 匹でした。

そして、なんと、金曜日の予約件数はウサギ 1 匹…とても暇な日のようでした。このウサギは、歯を切る手術をしていました。これは毎日やってるよ、と学生が言っていました。

その後、急患が運ばれてくるのを待ち、この日の急患では、タカとシカがやってきまし

た。が、どちらも手遅れで安楽死させていました。タカもシカも交通事故でケガをしたのだろう、と言っていました。タカは翼を広げるとハエが飛んできてウジもわいていたので、自然にかえすことができないため安楽死を選んでいました。

☆休日

土曜日：ショッピング

この日は、WEST TOWN MOLL にブレース先生が連れて行ってくれました。ここはノックスビルでは一番大きいお店のようで、ゴディバやアバクロ、ビクトリアシークレットなど多くのお店が入っていました。たくさんショッピングした後、ホテルに戻り、ホテルのプールで遊んだ 1 日でした。

日曜日：BOOMSDAY FESTIVAL

日曜日はブーンズデイ フェスティバルに行ってきました。テネシー 1 の大きいお祭りのようです、夜には大きな花火が上がっていました。が、しかし途中から豪雨で、傘を持っていなかった私たちは、ずぶ濡れで、シャワーを浴びたみたいになっていました。だけど、アメリカの花火は豪快ですごかったです。今までにみた花火の中で、一番インパクトが強く、アメリカを感じることができました。

月曜日：ラフティング

この日は朝からラフティングに出かけました。車で約 1 時間半で、ラフティングができるところに着き、みんなでブレース先生が持ってきてくれたチキン、ポテトチップス、メロン、クッキーを食べました。その後、ついにラフティング!! 水が冷たすぎて、川に入ったとき正直、できるだけ濡れないようにしましょう、と忘れてしまいました。しかし、ラフティングを初めて 5 分でそんなことを忘れ

てしまうほど楽しくなりました。川の途中で川に飛び込んで泳いでいいよ、と言われ、全員で飛び込んで泳ぎました。その後、再びラフティングを初めました。しばらくして、ガンガンが川に落ちていました。あの時のガンガンの顔が今でも忘れられない思い出となっています。。

## ☆ 大学研修 2 週目

### 9/4(火) 大学研修 6 日目

#### コミュニケーション・プラクティス

この日は、コミュニケーション・プラクティスに行きました。コミュニケーション・プラクティスとは、一次診療のことで、ここでは糞便検査や血液検査など検査をメインにやっていました。また、診察室でのオーナーさんとの対応を録画し、金曜日にみんなでみて、対応の仕方を学んでいくとっていました。また、この日は、コミュニケーション・プラクティスを少し抜け出して、みんなで動物園も案内してもらいました。

### 9/5(水)～6日(木)

#### 大学研修 7 日目、8 日目 馬・内科

7 日目の馬内科では、まず朝にミーティングを行っていました。この日のミーティングでは、ラクダの病気についてパワーポイントで学生がまとめ、発表していました。そして、ミーティングの日はみんなが 1 品ずつ作ってきて、朝ご飯を食べながら発表を見ていました。食べていいよ、と言われたので、いろんな種類のアメリカの家庭料理が食べられてうれしかったです。

ミーティングが終わった後、この日はエキゾチックにトラがきて手術をされると言われていたので、エキゾチックへ...トラがやってきて、眼球摘出を見ることができました。し

かし、手術室までは入ることができなかったので、途中までみました。

#### 馬・内科 2 日目

この日は午前中に馬の去勢手術を見ることができました。今まで、牛やヤギの去勢しか見たことがなく、それも結構大胆に鎮静だけで手術をしていたので、もしかして馬も鎮静だけなのかな！？と思ったら、馬はそんなことがなく、ちゃんと麻酔科の人が導入・維持・覚醒をしていました。その後、去勢が終わったら、予約をしていたらしい白馬がきました。この白馬は首に腫瘍みたいなものがあるらしく、レントゲンを撮ることになったのですが、気性が荒いため鎮静でおとなしくしてからレントゲンを撮っていました。

### 9/7(金)

#### 大学研修 9 日目 馬・外科

とうとうこの日が最終日です。馬・外科では朝に入院している馬の状態などをみんなで確認していました。そして、この日はノックスビルの市長さんに会いに行くことになり、馬・外科を途中で抜け出し会いに行ってきました。そして、ノックスビルの名誉市民の賞状をもらい、記念撮影し、その後ブレース先生がご飯を食べに連れて行ってくれました。おいしいステーキのお店でした！

その後、再び馬・外科に戻り、皮膚の移植を見ました。

この日はノックスビル最終日ということで、ブレース先生が再び家に招いてくださって、今までお世話になった先生たちや、アメリカでできた友達と最後の夕食を食べました。そして、なんとブレース先生からプレゼントをもらいました。中にはお菓子や遊び道具、お酒が入っていました！プレゼントをもらえるとは思っていませんでしたので、とてもう

れしかったです。その後、次の日は、飛行機が6時に出発するため、みんなで記念撮影をし、ホテルへ帰りました。その後、荷造りで寝ることができませんでした。

#### 9/8(土) 帰国

早朝ホテルをチェックアウトし、ブレース夫妻に空港まで送っていただきました。荷物を預けて、ブレース夫妻にお別れをいい、搭乗口へ…。ノックスビルに来たときは日本に早く帰りたい!と忘れてしまっていたのですが、とうとう帰ることになると、ノックスビルにまだいたい、とっていました。お別れがとても悲しかったです。そして、ノックスビルからシカゴ空港に行き(シカゴ空港の空港内は極寒の地でした…)、シカゴ空港で6時間くらい待ち、飛行機に乗り成田に着きました。

最後に、アメリカで2週間過ごしてみて、積極的に何でも参加することの大切さと、言葉の壁と獣医学的な知識のなさを再認識し、もっと勉強しなくては、と思いました。また、アメリカの学生の勤勉さに感心しました。特に1限が8時から始まると聞き、また、大動物の研究室の人は6時にはもう患畜の世話をしていると聞き、驚きました。

そして、この研修で大変お世話になったDr. Braceは感謝してもきれないくらいです。また、この貴重な体験をする機会を与えてくれた学校、研修に行くことを快く承諾してくれた両親、引率して下さった堀先生、2週間一緒に楽しく過ごした友達全員、本当にありがとうございました。

Dear all Faculties Concerned,  
I appreciate sincerely for giving us so kind hospitality. I will never forget the great

time I had with all you.

Dear Dr. Brace,

I enjoyed the wonderful time we spent together in Tennessee. I had a lot of good memories, thanks to you! During my stay, I could not tell you to thank you because I could not speak English so well. so, now I want to say, thank you! And, thank you very much for the wonderful dinner!

I never forget your kindness and complete support.

#### テネシー大学夏季期研修に同行して 小動物第2内科学研究室 堀 泰智

研修を無事に終了することができたことを、国際交流委員会およびテネシー大学の関係教員ならびに職員の方々に対しての深く感謝致します。また、過去に同行された教員の先生方に多くのご助言を賜ることができ、無事に研修を終えることが出来ました。

研修の詳細については、今回一緒に行った学生の報告を読んでもらうとして、ここでは私が今回の研修の準備から研修終了までに気づいた点、知っていたら少しは役に立つと思われる点を思いついたままに書いてみようと思います。失礼なこと間違ったことが書いてあるかもしれませんが、あくまでも個人の意見と思って読み流してください。

#### 事前準備

今回この米国テネシー大学夏季研修の同行教員を引き受けたものの、何をどうしてよいのかサッパリわかりませんでした。事前準備の中で重要な点は①必要書類の作製、②狂犬病注射、③旅券・宿舍の準備の3点であった

と思います。これらについては過去の同行教員の先生方が残してくれていた研修までの準備マニュアルと昨年の同行教員の方々のご助言をもとに何とか進めることができました。また、各大学の担当教員（テネシー大学は角田先生ならびに久留主先生）のご尽力によって旅券・宿舎の準備は問題なく進めることが出来ました。

今回の研修中には大きなトラブルは発生しませんでしたでしたが、交通や病気・怪我などが発生した場合には同行教員に現場での対応が求められ、責任を負うことになると考えます。しかし、これらのトラブル発生時の対応方法や責任の所在などは国際交流委員会に規定がなく、事前に説明されなかった事に強い不安を感じました。

また、8月中の2週間というのは夏休みの半分近くを占め、卒論の追い込み時期と後期実習準備などが重なる貴重な時期でもあります。できるだけ前倒しでこれらの準備を進めていたつもりですが、ギリギリでないと準備できないものもあり、かなり研究室に負担をかけたかと反省しています。

最後に、今年度のテネシー大学の日程（パデュー大学も同日程であった）では、帰国日の翌日から再試験が始まったため、学生はかなり辛かったと思います。海外研修中に再試験の勉強をする時間は事実上ないため、来年度以降に海外研修に参加される学生諸君にはぜひとも前期試験での不合格科目がないように努力されることを願います。加えて、今回は研修直前に再試験日程が変更されることになり、研修期間中に再試験の日程が発表されるという異例の事態を経験しました。研修期間中、再試験のある学生は再試験勉強の予定が立てられず、再試日程が発表されても早急な対応ができない点で不利益が生じていると感じました。大学側には研修前に再試日程が決

定しており、研修期間中にも再試験勉強の混乱が生じないような配慮を願います。

## 英会話

この研修では当然コミュニケーションは全て英語ということになります。テネシーには東洋人の姿は少なく（テネシーの人口の1%）、また、我々が珍しいようでジロジロ見られている印象を受けました。現地の人の中には我々が英語を苦手なことにすら気付いていない人が多くいました。従って、英語ができなければ何ともなりません。最初はこちらの言っていることが通じず、また相手の言っている意味がわからず不安になるため、つつい他の人に頼りがちになりますが、日常の英会話は英語に触れることが上達の近道であること、アメリカ人に対して、物怖じせずにどんどん相手の懐に飛び込んでコミュニケーションを取ることが一番のトレーニング法であると痛感しました。

今回参加した学生たちは、海外旅行の経験も多数あり、英会話を少しできる人からかなり出来る人まで幅広かったが、それでもネイティブと同じというレベルではありませんでした。学生には、三沢の英会話講師（アメリカ人）を斡旋し、半年ぐらい前から毎週1回英会話の講習を受けてもらい準備をしてもらいました。

研修中のテネシー大学内外での意思の疎通は、学生達が行うこと、同行教員は通訳をしないことが事前に説明されていたため、学生達は現地でも自分で意思の疎通をするように努力していました。その甲斐もあって、研修が進むにつれて全員が相手の言葉のある程度理解し、自分の意思も伝えられていたようで、学生たちの日々の進歩には驚かされました。やはり、若いうちは頭が柔らかいのか、何でも吸収してしまうようであり、羨ましい限り

である。

現地では色々な人と出会いますが、特に Dr. ブレイスや教員・学生と長時間を過ごすことになります。最初の挨拶が終わった後、会話に困ることも少なくありませんでした。日本の事を話しても興味のない反応が返ってくることもあります。テネシーの名物やお勧めの食べ物、文化などについての質問ができるように準備しておくとお話が広がると思います。

## 空港

テネシー大学へは、成田空港からダラスフォートワース空港を経由してノックスビル空港まで行った。空港での注意点は、やはりセキュリティーチェックと入国審査にかなりの時間がかかるので、乗換便の時間には常に注意が必要です。飛行機の発着時間の変更は頻繁に起こるようなので、空港に着いたらいち早く発着時間とゲートの確認をしておくべきです。今回は往路で乗換便が定刻よりも1時間早くに出発することになり、復路はノックスビルの出発が定刻よりも1時間早くなっていました。

入国審査では、毎回緊張を隠せません。パスポートなどを渡すときに、“Hi” または “How are you?” とこちらから声をかけると、無視されることなく返事をしてくれ、和やかな雰囲気です。質問が始まると思います。質問内容は、人それぞれですが、多くは、目的、滞在先、滞在期間、いつ帰るのかなどです。次に指紋と顔写真をとって終了です。アドバイスとしては、まずは余計なことを言わずに聞かれたことだけに答えること、ダラスフォートワースの場合、入国審査で英語が理解できなくてもだれも助けてくれないので、事前に質問対策を立てておくことを勧めます。また、同行教員は入国目的が“観光”ではなく“ビ

ジネス”になるようなので、この点についても説明できるように準備をしておく方が良いと感じました。

機内持ち込み禁止のもの、特に液体は、容量から入れ物まで細かに規定されています。再度確認しておいたほうが無難です。

## 携帯電話・インターネット

携帯電話によってはアメリカに渡っても使える機種があるので、設定、使い方や料金などは、各々の携帯電話会社に事前に確認しておいた方がよいでしょう。しかし、通話料や通信代が国内での使用に比べるとはるかに高いため、日本にいる時と同じようには使えないかもしれません。過去には、学生と連絡を取る方法として現地でプライベートの携帯電話を購入して、学生との連絡を行ったケースもあるようです。自分の携帯電話を使ってアメリカ国内での連絡に使うよりは断然安いし、成田空港で事前に携帯電話をレンタルすることもできますが、これもかなり高額になります。

インターネットについて、今回はホテル並びに大学図書館内に無料の wi-fi が設置されており、現地で入手したパスワードや ID を入力することでメールのチェックや連絡を行うことができた。ホテルのインターネットは、部屋にある接続方法を読みながら容易に接続することが可能であった（大学内での接続も同様である）。

## チップ

日本にはない習慣であるが、食事に行ったり、タクシーに乗ったりしたら、支払い時にチップを払います。その支払額は料金に対して 10~15% のようである。ホテルのルームサービスには明確なルールは無いようで、人によっては、毎日 \$1 ずつ払う人、最初と最

後だけに払う人、全く払わない人など様々なようです。以前は、チップが給料がわりだったそうですが、今は給料をもらっているので、チップを払う必要はないという意見も聞いた。ちなみに私は、ベッドメイキングを頼む時（3日おき）だけにチップを渡した。

### 狂犬病

狂犬病の予防注射を事前に受けておく必要があります。日本国内では事前に3回の狂犬病注射を受けます。費用は1回につき15000円程度だったと思います。アメリカには狂犬病が常在しており、研修中には動物に触れる機会もあるので仕方ないことである。大学構内などを歩いていると野生動物（リスなど）をみることができ、狂犬病に罹っている可能性もあるので、くれぐれも触らないように（普通は、逃げるので触れませんが）。

### テネシー大学

アメリカのことを良く知っているわけではありませんが、思ったより治安のいい大学という印象を受けました。大学の敷地はとても広く、その中に多様な学部の校舎に加え、学生寮、体育館、本屋、博物館など、様々な施設があります。アメリカンフットボールのスタジアムは約10万人を収容でき大学のスタジアムとしてはトップレベルの設備だそうです。

大学内の移動は無料の自転車を利用することができるようなので（ほぼ最終日に教えられました）、これを利用して構内を散策するのも良いと思います。また、構内を走っているバスがありますが、どこから何処へ行くのか解らないので乗れませんでした。

テネシー大学の学生や教職員の人達は、アメリカの南部気質なのかもしれませんが、知らない人でも目が合うとHi! (Hello!) と挨拶

したり、ニコツとしてくれました。日本ではなくなりつつある習慣ですが、素晴らしい習慣が残っていることに感心しました。

私は2週間の大半を図書館で過ごしていましたが、授業がなくても朝から図書館で自習している学生の多いことに驚きました。また、アメリカの授業風景に興味があったので、Dr. ブレイスに彼の授業を受講させていただきました。内容はあまり理解できませんでしたが、倫理についての授業でした。彼は一方的に授業を進めるのではなく、問題を定義し、学生は積極的に自分の意見を主張し、教員とディスカッションしている光景が印象的でした。

### 臨床研修

ローテーション・スケジュールはDr. ブレイスが事前に計画したものを現地で知らされた。どの科に配属されるかは、前もって提出するPersonal Recordに沿って割り振られたのだろう。100%希望通りとはいかないが、何事も経験です。受ける気持ち・姿勢によっては、例えそれが希望したものでなくても有意義なものになると思うし、せつかくの機会なので、貪欲にいろんなことを吸収して欲しい。

アメリカは9月から授業開始であり、向こうの学生もローテーション・スケジュールに従って各診療科を回っているようでした。テネシー大学の学生は、飼い主への対応から患畜の検査計画、検査結果の判定、治療計画まで診療全般を担当し、教員は学生や研修医とディスカッションしながら彼らを指導することに専念しているようでした。

獣医学部ではアメリカ人以外の学生も多数研修しているようです。彼らは、我々と同じように、会話などのコミュニケーションでは苦労をしているようなので、日本から来た学



生にも優しく接してくれる人が多いようです。

## ホテルと周辺施設

ホテルは大学からハイウェイで20～30分くらい離れたところのターキークリークにありました(Homewood Suites by Hilton Knoxville West)。ここは比較的治安のいい場所のようで、周辺にはショッピングモールとホテルがあるだけでした。ホテルでは月曜日から木曜日までは朝・夕の食事がサービスされています。大学からホテルに戻るのが18時半ごろで、夕食は19時までなので毎日急いで夕食をかき込んでいました。ホテルの食事はビュッフェ形式で思いのほか美味しく、ビールも飲み放題でした。ビールも19時までのサービスですが、頼めばピッチャーをもらえるので、19時以降はピッチャーに貯めたビールを楽しみました。

また、ホテル周辺には2～3件のショッピングモールに加えスターバックスやSubway、ステーキハウス、イタリアンレストランなどが充実しているので食べ歩くのも良いかもしれません。さすがに、夜一人で出歩くのは危険かもしれませんが、24時間営業しているWalMartは便利です。

## 余暇

普段の研修がある時はなかなか自由な時間が持てないかもしれない。その分、週末におもいきり羽を伸ばせるように、Dr. ブレイスはショッピング、アクティビティなどいろいろ計画してくれていました。テネシーは意外とアクティビティが多いようで、周辺(といっても私にはとても遠い距離)には博物館や鍾乳洞、自然公園などの観光地があるようでした。テネシーにはこれらの詳しい内容は、学生の報告にお任せします。

## パーティー

2週間のうち、アメリカ到着直後の日曜日と最終日にDr. ブレイスがホームパーティーを主催してくれました。テネシーはバーベキューが最もポピュラーな郷土料理のようで、ブレイス家ではDr. ブレイスがテラスで肉を焼き、ブレイス夫人が作ってくれた前菜やサラダを頂きました。これまでアメリカで食べた食事の中では日本人好みの薄味で最も美味しい料理でした。

## 体調管理

食事ですが、アメリカの食べ物は、大味で脂っこくボリューム満点なものが多い。2週間も似たような食事が続くので、お腹の調子と相談しながら腹8分目にしておいたほうが無難であろう。レストランなどで食べきれなかった場合は、言えば持ち帰り用の箱をくれるか、詰めてくれる。それでも食べ過ぎたり胃もたれしたりするかもしれないので、胃薬は忘れずに。日本にはないものも色々あるのでぜひ試してみたらいいと思う。

気温は日中30℃を超える。でも室内は20℃ぐらいに設定されている。ホテルの部屋なら自分で温度設定を変えることができるが、大学内や公共の場所ではそうはいかず、この温度差などでクーラー病などになりがちであった。また研修最初では時差ボケも重なって、体調を崩しやすいかと思う。睡眠をしっかりとり、せっかくの研修を不意にしないためにも、体調管理はしっかりと。

## テネシー名物(詳細は各自調べてください)

テネシーボランティア:よく目にする単語で、深い意味があるらしい。テネシー魂のようなもの。

グレートスモーキー山脈:熊が沢山いる国立公園

カントリーミュージック：みんな大好き  
ロッキートップテネシー：密造酒の歌。テネ  
シー大の応援歌にもなっているカントリー  
ミュージック。

ブルース：みんな大好き（発祥の地）

バーベキュー：みんな大好き

ジャックダニエル：みんな大好き

テネシー＝ジャックダニエルくらい有名

ムーンシャイン：密造酒

有名人：エルヴィス・プレスリー、クエンティ  
ン・タランティーノ、モーガン・フリーマン、  
など

#### Dr. ブレイスの好きなもの苦手なもの

好きなもの：古コイン、ワイン、うどん

苦手なもの：運動

#### 最後に

アメリカに渡ってからは、テネシー大学の  
副学部長の Dr. ブレイスを中心に彼の秘書が  
何から何まで準備してくれた。彼らは新学期  
早々で忙しい中、本当に献身的に我々の為に  
親切・丁寧に対応してくれました。もし我々  
が逆の立場で、同じ事をするとなるとどれだ  
け大変か、そのことを忘れずに、感謝したい  
と思う。来年度研修に行く学生達にも、ぜひ  
楽しんできて欲しいとともに、このことだけ  
は忘れずに研修を受けてください。

今回ジョージア大学に研修に行った 7 人  
のみなさん、お疲れ様でした。みんなのおか  
げで非常に楽しかったです。研修中に大きな  
トラブルも無く、自分達でほとんどのことを  
やってくれたおかげで、本当に楽をさせても  
らいました。今回の経験は必ずあなた方の  
将来に良い影響を与えたいと思います。この 2  
週間アメリカで生活し研修を無事終えること  
ができたことに、自信をもって次のステップ

へ進んでください。

Dear Dr. Brace,

On behalf of our participants, I appreciate  
your hospitality and kindness during our  
stay in Tennessee University. We spent a  
worthwhile time in Knoxville. When I look  
back at Jack Daniel's, I always remember you and  
Tennessee.

Our students learned a lot of things  
which is not only veterinary education,  
but also culture difference, difference in  
ways of thinking, etc. I believe that these  
experiences are likely to affect students'  
future definitely.

Furthermore, I hope that our relationship  
will ever last. We are looking forward to  
visiting you in our university.

Thank you again!

With Best Regards,

Yasutomo Hori, DVM, Ph.D















# Georgia University School of Veterinary Medicine 18 Aug. - 02 Sep. 2012



Yuhi TAMURA, Hiroshi KATO, Kazuki ABE (Kagoshima Univ.)

Dr. Paige K. CARMICHAEL, Dr. Kazuki YOSHIOKA, Toshinori TAKEO (Kagoshima Univ.), Satoshi NAGASHIMA  
Lakecia PETTWAY, Dr. Takako SHIMOKAWA (Kagoshima Univ.), Izumi SHIRATORI, Masataka TAKESUE  
Konatsu MIURA, Shuhei SUZUKI, Aki MATSUOKA (Kagoshima Univ.), Tatsuya NOMURA

## 参加者一覧

同行教員：吉岡 一機 Dr. Kazuki YOSHIOKA

氏名	Name	所属研究室
加藤 寛	Hiroshi KATO	第一内科学
白鳥 いづみ	Izumi SHIRATORI	獣医生化学
鈴木 修平	Shuhei SUZUKI	第一外科学
武末 眞鷹	Masataka TAKESUE	獣医病理学
田村 雄飛	Yuhi TAMURA	第一内科学
長嶋 慧	Satoshi NAGASHIMA	獣医生理学
野村 竜哉	Tatsuya NOMURA	第一外科学
三浦 京夏	Konatsu MIURA	獣医解剖学

## 加藤 寛

### 〈移動〉

行きの飛行機の中はエアコンが効きすぎて非常に寒かった。しかも各シートに TV がついてないという…。フライトは約 12 時間あったので、暇つぶしに持って行った DS が機内では大活躍。シカゴで乗り換え、アトランタまで 2～3 時間のフライト。トータルの移動時間は 24 時間ほどでさすがに疲れた。アトランタ空港では迎えが来てくれて（1 時間以上待ったが）、そこから 1 時間ほど車で移動してやっとジョージア大学に着いた。車内では迎えに来てくれた学生と英会話。文法はめちゃくちゃだし、相手の英語は 5 割も聞けてないという状況に落胆しつつも、頑張っ

て話しかけ、低レベルな質問を繰り返しては相手を困らせた。ホテルは広くきれいで、生活するには十分だった。Wi-Fi も飛んでいて携帯でインターネットやアプリは使えた。帰りはアトランタに前ノリして早朝にシカゴに向けて出発。シカゴで乗り換えて成田には夕方の 6 時くらいに到着した。移動時間はとにかく暇なので、本なり DS なり何かしらの暇つぶし道具は必要だと感じた。あと長袖も持っておいた方が良くと思う。

### 〈ローテーションが始まるまで〉

ローテーションが始まる前に、学内ツアーがあった。バスでの学内ツアーではいきなりの英語のシャワーで辛かった…話すのが早すぎて分かったり分からなかったり…もう英語に疲れ始めていた。しかし、ジョージア大学の規模の大きさに驚愕。1 つの街？ってほどの広さ。そして設備も凄い。スタジアムや Book Store（ジョージアグッズがたくさん売っている。本屋というよりはお土産屋）の存在も驚いたが 2 \$ で見られる映画館まで

あった。学部数も多く感じたが、このキャンパスは学部数が少ない方らしい。アメリカ凄い。獣医学部と Teaching Hospital は詳しく案内してくれて、次々にラボを紹介してくれたが専門用語が多くてあまり分からなかった。もの凄くローテーションが不安になった。病院内のそれぞれのラボは広いというわけではなく、必要最低限の広さであったが、各ラボが近く、連携が取りやすそうであった。

### 〈orthopedic〉

日本語ですら理解に苦しむこの分野を英語で聞ける自信なんて全くないまま研修がスタート。案内されると、教授による股関節脱臼の説明が中盤に差し掛かっていた。とても難しい。英語もあまり分からなければ、説明された術式も初めて見るもので大変であった。学生は先生の説明を遮り次々に質問。それに教授が答え、質問や考えを聞き返せば学生はすぐにそれに返答できる。学生はなんでも質問出来る環境があって、教授はどんな質問も誠実に答える、そんな関係がとても素晴らしいと感じた。その後処置室へ移動。それぞれの患畜を 1 人の学生が担当し、診察、検査、診断をする。分からないことがあればレジデンスに質問、確認し、その後、教授に症例報告、治療方針を説明し、アドバイスを受けた後再び診察室でオーナーに説明という流れ。レベルが違う。午前中はかなり忙しそう

で、ほとんど見ているか患畜を撫でるだけだった。時間が空いたときに説明してくれたりしたが難しく二割くらいしか分からない。かなり放置されることが分かったため、少しずつ疑問に思ったことを聞いてみたり、ドローワーサインやコンプレッションテストをやらせてもらったりした。

この日見た症例は、前十字靭帯断裂、股異形成、膝蓋骨脱臼の手術歴のあるトイプーの

膝関節の痛み（原因は分からないが恐らくピンニングによる）、左前肢の尺骨形成不全（成長板早期閉鎖）などであった。明日は前十字靭帯断裂のオペ（TPLO）と前述のトイプーのピンを抜くオペがあるらしい。

次の日、スクラブを借りて、オペ室の中に入れてもらい TPLO のオペを見た。教授、アシスタント、その患者の担当学生しかおらず、あとは麻酔管理のテクニシャンと、日本でいう VT にあたるような人のみで行っており、オペを見学する学生はいなかったことに驚いた。教授はひとつひとつの手技について説明をし、器具出し含めほとんど 1 人で行っていた。学生に実際にスクリューを打ち込む作業をやらせていたりして、日本とは認識というかシステムが違うのだなと思った。VT さんが本を読んでいたことと、オペ室では音楽が流れていたことも驚きだった。整形外科のオペは初めて見たので、しっかり術野が見えたわけではないが（モニターはなかった）授業の知識と予習が役立ちとても面白かった。

#### 〈CPC〉

CPC と Dermatology は他の科とは別の開業病院みたいな建物にあり、いわゆる動物病院の施設があった。Second プロフェッサーが病院内を詳しく案内してくれた。特に Dentistry に関わる患者は多く、毎日処置するらしい。

行った時には既に何件かの患者がいたが、まずは近くのネコについて質問をした。脱臼状態らしく、皮膚つまみ試験でその症状が見てとれた。詳しいことは調べないと分からないが、多分腎臓の病気だろうと言われた。他には、外で喧嘩してきて傷を負ったシェパードがいた。コンディションは悪く、頭蓋骨に骨折があり、脳に問題がないか MRI や CT

を撮って調べたいけど、オーナーにお金がなく、その処置が出来ないため抗生物質と痛み止めの処置しか出来ないらしい。お昼前からは子猫の避妊のオペを見せてもらった。学生がオペを全て行っていたことに驚いた。教授に一对一でオペを教えてもらっていて、その環境がとても羨ましかった。CPC では ECG を用いておらず、肢にドップラー聴診器を付けるだけで、あとはカブノグラフィでモニタリングしていた。避妊する予定のネコはもう一匹いたが、高熱があり、CBC と FIV のテストをして結果が出てからオペを考えるようだ。また、頸部にとても大きな mass があるラブラドルもいた。膿瘍かもしれないけど開いて見ないと分からないということで、ペンローズドレーンを行っていた。中からは血とチーズ様物が出てきて、確定診断は下されなかった。

他にも下痢のゴールデン・レトリバーに輸液をしたり、子犬にワクチンを打ったり、フィラリアの検査をしたり、簡単な処置も多く行っていた。

#### 〈Dermatology〉

一件目は 13 才のジャックラッセルテリアで、強い痒みがあるとのことで来院。稟告では、2 年前から痒みに対する治療はしていたが最近また痒みが強くなったとのこと。処置室で、くし検査、スタンプ、テープ、モニターが付いた耳鏡で耳内の観察などをした。爪が茶色くなった部位からのテープ試験ではマラセチア感染が確認された。マラセチア感染した爪は茶色くなるらしい。所見としては、鱗屑、紅斑、色素沈着などが見られた。スタンプでは変性好中球とぶどう球菌が観察された。痒みの原因はアレルギーが考えられ、球菌とマラセチアの二次感染を伴っていると診断された。治療は、マラセブシャンプー、マ

ラセチック・ワイプ（ウェットティッシュのようなもの）、food trial、抗ヒスタミン薬となった。ステロイドは、以前処方した時に肝酵素が上がってしまったため処方されなかった。中でも印象に残ったのは、アレルギーの原因が特定されていない状態で、コントロールが容易な食物アレルギーに対して food trial を実施してしまうことであった。北里大学ではアレルギー検査を実施してアレルギーの原因を特定してから食事をコントロールするが、ジョージア大では、カンガルーやウサギを使った新規タンパクの food を使用出来、北里との違いを感じた。まず food trial で痒みをコントロール出来るか様子を見て、その経過を見てその後の治療を考えるらしい。

二件目は非常にレアなケースを見ることができた。8歳のダックスフンドで、稟告によると、4カ月前から、耳から水もフードも出てくるというものであった。この日は検査のみの実施で、CT、MRI を行い、耳鏡、鼻腔鏡で口腔から耳への通過性を見た。CTによると鼓膜の奥にある耳管（ユースタキア管）が拡張し、加えて軟口蓋が先天的にないことが分かった。耳鏡では水でフラッシュすると水が奥に吸い込まれていく様子が確認され、耳と口がつながっていることが分かった。しかし、何故今になってこんな症状が出て来たのかは分からなかった。ジョージア大学の皮膚科の先生も、こんな症例は初めてだと言っていた。

他にも、四肢をよく舐め、四肢先端の脱毛がある mix のテープ試験で、*Simonsiella* を観察したり、9歳のマルチーズで、アレルギーを伴った脂漏症であることが分かった例や、多剤耐性菌感染が疑われるダックスを見たりした。

## 〈Oncology〉

今日は Oncology。日本で総論しか勉強してないため、質問しても全然分からなかった。心が折れそうになった。でも、1人の学生がとても親切にしてくれて助かった。ただ、親切にしてくれた分理解出来ない自分が嫌だった。

最初は、他の病院で扁桃腺腫と診断されたが、セカンドオピニオンとして大学病院に来たチワワの診察に立ち会った。飼い主がとても攻撃的だったのが印象的であった。また、少し前に meningioma の外科手術を行った三歳の Mix の経過観察と、これからの放射線治療についての説明、Planning に立ち合わせてもらった。この時初めて知っている知識が話に出て来て嬉しかった。他にも multiple myeloma のコーギーで、左眼にも異常があり眼科に回されたものや、右前肢や口腔内に腫瘍がある G. レトリバーの浅頸リンパ節からの FNA を見たりした。見てはいないが、セルトリ細胞腫や NEC（神経内分泌腫）の症例も来ていたようだった。この科で行っていたのは基本的に、身体検査、FNA、CT、抗ガン剤投与であった。

## 〈Exotic〉

Round から始まったがさっぱり分からない。でも作業が始まってからは、色々な動物が見られて面白かった。午前中はフェレットのレントゲン撮影とエコーを見た。フェレットが大人しくしているわけもなく、全身麻酔をかけていた。麻酔管理がとても大変そうで、一枚撮る毎に TPR の確認をしていた。出来た写真ももちろん初めて見たものなのでとても興味深かった。エコーはひとつひとつの臓器を見つけ出しては記録していたため長く、最後までは見られなかった。レントゲンは他に、ツチガメ、オカメインコの撮影を見た。

どちらも麻酔は行わずに撮影していて、難しそうには見えなかった。カメは洗面器のような台に乗せて撮影し、インコは止まり木にとまらせて撮影していた。カメのレントゲン写真は甲羅の中身がよく分かりとても面白かった。

野生の Humming bird (ハチドリ) も来ていて、右肢と右翼を怪我し飛べないため、保護、経過観察をしていた。とても小さく、砂糖水を舐める姿が可愛かった。ハチドリは数時間毎に砂糖水を与えなければならないらしい。たまに羽ばたく姿はセミの羽ばたきに似ていて、ホバリングこそ見られなかったが羽ばたきが見られて嬉しかった。ジョージアでハチドリは生息しているが、その姿を見ることは珍しいらしく多くの人が見に来ていた。

他に、カメのエコーを見させてもらったり、Trichophyton 感染疑いのモルモットを見たが、培養結果が分かるまでは確定診断は下せないと言っていた。また、右眼に傷のあるリスもいて、多分視力はないが、生きていくのに問題はないらしくそのうち野生に帰すらしい。食欲不振、虚弱のオウムや、片跛のインコもいた。

お昼前には、他大とのサテライトでの症例発表会のようなミーティングもあった。これは Exotic ならではだと思ふ。Exotic animal は症例数が少なく、より多くの知識を得るために他の大学と情報交換をしているようだ。

翌日は朝からインコのオペがあるということで、スクラブを借りてオペの見学をした。切開は全て電メスで行われ、出血はほぼなかった。下腹部に大きな mass があり、病理に出すらしい。臓器の結紮はクリップを用いており、閉腹は結紮糸であった。途中で気管チューブが抜けるアクシデントが2回あり、

緊張感のあるオペだったが無事終わった。と思っていたが、導入室に戻って覚醒待ちというところで覚醒する気配がなく、容体が悪化し、慌ただしくなりだした。呼吸 BAG を任されたりして自分もパニック気味になったが、結局覚醒せず死んでしまった。やはり小さい動物は麻酔のリスクも高いことがよく分かった。

〈ローテーション以外〉

ジョージア大学ではローテーションのない日は大学側が何かしらのイベントを企画してくれていて、とても充実した日々を過ごせた。ワールド・オブ・コークというコーラ社のミュージアムや、水族館、チュービング、アウトレットショッピング、カラオケ、ボーリング、ビアガーデンなど多くの場所に連れて行ってもらえ、むしろ自由時間は少ないくらいだった(送迎もしてくれる)。また、ローテーションの日も、ローテーションのない日も夜は教授の家に招待されてホームパーティーがあり、夕飯はそこで頂けた。もの凄くもてなしでとても楽しめた。凄くアメリカっぽい時間を過ごせたと思う。

〈最後に〉

ジョージア大学では、各患者を一人の学生が担当し、診察、検査、診断を行い、その結果をレジデンスや教授に報告し、アドバイスや訂正を受け、オーナーに説明、というシステムになっており、日本との違いを強く感じた。簡単な処置は学生が行っていたし、オペも学生が深く関わっていた。日本ではこのような経験は学生時代には出来ないので羨ましいと思うとともに、ひとりひとりの学生のレベルの高さに驚いた。学生が考える環境がしっかりあって、それに見合うだけの意識や知識が学生にはあったように思う。そのよう

な環境を目の当たりにして自分の未熟さを痛感したり、努力しなければいけないなど強く思った。英語でのコミュニケーションも大変だったが、多くの人に親切にしてもらい、支えられた。今回の研修で、獣医学についても人生経験としても非常に貴重な経験をさせて頂いた。引率していただいた吉岡先生、一緒に行ったメンバー、またこの研修に携わって頂いた全ての方々に感謝したい。

Dear everyone in UGA

My stay at UGA in this summer was a wonderful and precious experience. People I met in UGA were very gentle and friendly. Thanks for everyone and everything you did for us to make our stay comfortable. I was able to pass very pleasant days and learn a lot of things that I couldn't learn in Japan. I never forget these special days. I really appreciate. I hope to see you again someday.

Hiroshi Kato

白鳥 いづみ

その昔、北里の合格通知の書類の中にあつた海外研修のレポート冊子を読んだ時から、この研修にずっと参加したいと思っていたので、今回この研修に参加出来て本当に嬉しく思っています。知識と英語力と脂肪を蓄えて無事に帰国できました！

<病院実習での姿勢>

とにかく自分から積極的に話しかけていかないと終日独りぼっちで涙目。冗談抜きで「質問しない＝わかっている」と思われます。見ているだけでも時間は過ぎていったけれど、

折角高い旅費を払って来たのだし、色々勉強したい、もっとよく見たい、やらせて欲しい、解説して欲しい、とか思ったら、遠慮せずにガンガンこっちから行動すべきです！相手の言う事が早すぎて聞き取れなかったら、それも恥ずかしながら正直に言うべきだと思います。是非頑張ってください！

<各科の様子>

@腫瘍科

肥満細胞腫、組織球性肉腫、髄膜腫、慢性リンパ性白血病、リンパ腫、メラノーマ…など数々の症例を見る事が出来ましたが、腫瘍の各論の知識がないので、質問しようにも上手く出来ないという悲劇が起きました…。科の部屋の中で主にする事は、手術後の経過の触診や針生検。必要に応じて放射線科や病理科へ、エコーや病理的診断をしに行ったりしました。診察室内では放射線治療について、飼い主と獣医師と学生がディスカッションをしていました。学生は診療に深く関わることが出来るのも羨ましいし、アメリカと日本のカリキュラムが違うとはいえども、向こうの学生の知識が深すぎて…ほとんどわからない自分が情けなくなりました。初日に心が折れそうになりました。とほほ一。

@エキゾチック科

頭骸骨を骨折したモモンガ、水腎症のモルモットなどがいました。衰弱、貧血、好酸球増加、甲羅の破損、線虫の寄生症状を示しているトウブハコガメの身体検査を観察。カメの採血は首を引き出して行うのですが、心拍数が非常に少ない(<30bpm)のもあり、エキゾチック科の獣医師でも苦戦していました。オカメインコの腹腔鏡検査では、腎臓、脾臓、肝臓を観察したところ、腎臓の周囲にあった白いマスに腫瘍の疑いがあったので、検査目的で採取していました。覚醒待ちの間にインコ

の心拍を聴診させてもらいました。正常値は 300 ~ 500bpm と非常に早いものでした。あとは学生が患畜を受け持って各自で処置しているの、それをお手伝い。その際に出身地や飼っているペットについてなどの軽い世間話などをしてみました。

#### @病理科

午前はケーススタディで、剖検した検体の写真や組織図を見て、学生が原因を推測し、先生が解答と解説を言っていく流れでした。スライドを用いての授業だったので、非常にわかりやすく、取り組みやすかったです。午後は剖検で、ワラルー(カンガルーとワラビーの中間種)、胃潰瘍で胃が穿孔して内容物が腹腔内に流出してしまった馬、原因不明で死んでしまった猫、蹴られて死んでしまった犬、ジステンパーの疑いがあった犬など、数々の剖検を見学しました。特にワラルーの剖検は貴重な体験でした。変わった胃の形をしていて、病理先生も興味深そうでした。剖検の結果は全て学生たちが記録して提出していました。

#### @大動物科

疝痛の馬、角膜が傷ついた馬、蹄鉄を変えたら跛行を示した馬、眼疾患のアルパカ等々。愛玩動物として馬を飼ってしまうアメリカの住宅事情にも内心驚きました。エコーやレントゲン、跛行検査、胃カテーテルなどを見学しました。ここも患畜は学生が受け持ち、治療法を考えて先生に報告していく形式で、朝一番に回診がありました。第一胃液のドナー牛がいたので、胃液の採取のやり方を教わりました。左けん部にゴム栓のようなものがあり、それを外して第一胃内に腕を入れ、胃内容物を採取し、不純物を取り除き、それをルーメンアシドーシスなどの第一胃液の均衡がおかしくなってしまった患畜に投与するそうです。久々の第一胃の臭いは相変わらずキツイ

ものでした。

#### <おまけ>

来年以降に海外研修を、ジョージア大を考えている人にとってためになりそうな事をつらつらと。

#### @持ち物

対戦ゲーム機：長いフライトや現地での日々の暇な時間を潰せるし、結構盛り上がるので、あるなら持ってくる事をオススメします。楽しいよ！

洗濯用品：ハンガーはホテルに 8 個位あるけど、洗濯バサミや物干しロープ、小型ピンチ等があれば下着とか干しやすいです。

勉強道具：獣医学英語と辞書はがあると便利。やっぱり獣医学英語を少しは勉強していった方がいいと思いました。質問するための語彙がないと辛いです。帰国後にすぐ再試があったので、念の為に授業の資料を持ってきましたが、清々しい位に一瞥もくれませんでした！笑 諦めて 2 週間全力で楽しみましょう。サングラス：意外と日差しが眩しいので重宝します。でも現地でも買えるので日本で焦って買う必要はなし。

日本食：インスタントのお味噌汁、チョコやお煎餅などの日本のお菓子はちょっとした癒しになりました。

#### @お土産

現地の人に渡すお土産：先生が用意してくれたお土産とは別に、私達がお邪魔する研究室に渡すお土産として、駄菓子や細々した文房具を詰め合わせたギフトセットを作りました。なかなか好評だったかと。来年 UGA に行く人は、期間中に車出しなどで申し訳ない位にお世話になる、ラケーシアを始めた事務員の方々の分も是非用意してほしいです！

帰国後に家族友人研究室等へ渡すお土産：大学の BookStore、ダウンタウンの商店、地ビール蔵、コカコーラミュージアム、水族館で各種グッズ、アウトレットや免税店で各種ブランド品、CNN センターやウォルマートなどで、箱詰めお菓子やいかにもアメリカな菓子が買えます。円高万歳!! 物欲万歳!!(^o^)  
買すぎて帰りの飛行機でスーツケースの重量オーバーしちゃって、皆の荷物に分散させてもらったりしてすみませんでした。それでも尚シカゴで香水買っちゃってすみませんでした。おほほ。

#### @食事

朝：現地のスーパーで買いだめたシリアルや果物やサラダを食べる日々。

昼：病院の近くまたは別の学部棟のカフェテリア。後者の方がメニューが充実しています。

夕：ほぼ毎日 UGA の先生のお家にお呼ばれしてホームパーティ。どのお宅も美味しくてお腹はち切れんばかりのボリューム！折角の機会なので、同行メンバーとだけではなく、UGA の先生や学生との会話にもたどたどしいながらも挑戦してみました。

油断するとすぐに肉パン肉そしてチーズみたいな食生活になります。飲み物も甘い物多いしお酒を飲む機会も多いし。アメリカ人に肥満が多い理由がよくわかりました。

旅先でテンション上がって好き勝手に食べていたので、当然それはそれは太りました。ご馳走様でした。ダイエットは明日から頑張ります。体重が 40g しか増えなかったという鈴木君は異常です。

#### <最後に>

アメリカと日本の獣医学教育、国の文化や規模の違いなど、臨床の知識以外の事も沢山学べました。今まで自分が見ていた視野がい

かに狭かったかを思い知る事も出来ました。同行のメンバーや吉岡先生、鹿児島大学の人達、UGA の学生や先生方や事務員、そして UGA センターのチャールズ！お陰様で最高の二週間になりました。本当にありがとうございました。

日本にいる今の自分で何に挑戦できるかをよく考えて、あと少しの学生生活を遊びだけではなく色々なことで充実させていきたいと思いました。

#### 鈴木 修平

#### 8/18 (土) 移動日

期待と不安を抱え迎えた出発日は、朝から雨・雷で関東南部に警報が出ていたり、あいにくの天気だったが、いざ成田についてみれば、空港周辺は晴れていて、心配はなさそうだった。

成田まで電車で向かう道中、おばちゃん達に電車の停車駅を聞かれ、そのままその駅まで少し話したところ、この人たち、地元出身の歌手の追っかけをして、山口県から来たという ... すさまじきおばちゃんパワー (笑)。

そんな出会いを経つつ成田に到着、吉岡先生やほかのみんなとも合流し、お茶漬けを食べ日本食に名残を惜しみつつチェックインし、手荷物検査等も問題なく通過。10 時間強のフライト中、どうにかこうにかヒマをつぶし、変なタイミングで機内食がでたりしながら Chicago で乗り継ぎ、入国審査や税関で手間取ったのもいたが、大きな問題もなく、Atlanta に到着。そしてここで最初の問題、ここからどうすれば？まあとこかで立札かなんかを持って待っているだろうと思っていたら ... いない。一通り見回してもそれらしき人は見つからず、出口のところで立ち往



生…。約2時間後、ようやく合流でき、話を聞いたところなんと国際線のターミナルで待っていたらしい。そんなタイムロスもあってか、アメリカ最初の食事は、なんとマクドナルド。ちょっと残念にも思いつつ、まずドリンクのサイズを見てびっくり。Mサイズといいつつその大きさは日本のLサイズ並み。そしてLを見てみると、うわさ通り小さめのバケツくらいの大きさが。ちなみに日本でいう「～セット」は、「meal」っていうらしい。

#### 8/19(日) Welcome Brunch & GameNight

特に時差ボケを感じないまま、ホテルのロビーに集合、ここで鹿児島大の人たちと対面し、校内のラウンジで Welcome Brunch。さらにこれぞアメリカとでも言わんばかりに真っ赤なクリームに乗ったマフィンももらった。ちなみにこのマフィン、砂糖のザラザラが残っているくらい甘い。ある程度は覚悟していたが、予想をはるかに上回る甘さだった。

その後、ホテルからシャトルバスを出してもらい、ダウンタウンまで行き、1時間ほど散策。帰りみちでは、日本では想像できないくらい大きなフットボールスタジアム(大学内の施設)によりつつホテルへ。

昼過ぎからは Dr.Malorie の家に行き、そこで Wii で遊んだり庭でバドミントンとかで遊んで、そのまま夕食もごちそうになった。なんとこの先生、数年前に十和田に来たことがあり、しかもうちの研究室(1外)に来ていたことがわかり、写真を見せてもらった。さらに現在妊娠中だったので、来年以降はお子さんもいるかもね。

ホテルに戻り、洗濯しようとかやっていたところ、田村・野村組の部屋のトイレが詰まるという珍事発生。日本のトイレは実はすごい、ということが分かった。

#### 8/20(月) Campus Tour

午前中はバスでキャンパスツアー。そもそも、校内をバスで回れる、というか、普通に道路が通ってるくらい、敷地が広い。Georgia 大学はいくつもの学科があって、獣医学科以外の各施設、歴史、設備等も説明してくれた。

そのあとは教室で昼食をたべつつ、学長・副学長たちと自己紹介・写真撮影をした後、病院内を案内してもらった。病院内は各分野ごとに分けられた部屋で、それぞれが診察や処置をしており、翌日からここで実習することを考えると、緊張感が増してきた。

そのあとはスーパーに連れて行ってもらい、朝飯用のパンやらシリアルやらを買い込んだ。やはりアメリカ、シリアルの種類は多いわ蛍光色だわ、冷凍のケーキやらは見るからに甘そうだわ…。スーパー一つで、軽いカルチャーショックを受けました。

夕飯は、近くにあった「Your pie」というピザ屋に行くことに。基本、自分でトッピングを選んでいく感じの注文法だったが、そういうのはめんどくさかったのでメニューに書いてある組み合わせを頼み、ここでアメリカ最初のビールにありつく。

#### 8/21(火) Soft tissue ①

病院実習初日。Surgery の部屋に案内されるも、誰もおらず、しばらく待機。その後幸か不幸かいきなりオペ見学。症例としては、肝臓と脾臓にマスがあり、肝臓の方はギロチン法とパンチバイオプシーを行い、脾臓は脾摘をしていた。後々わかったが、2人執刀していたうちの、一人はもちろん Dr. だったが、もう一人は学生だった。Dr. の指示ありきではあったが、実習犬ではなく患者で学生が執刀するなんて、日本では考えられないことだったので、日米の獣医医療の差に驚いた。

そのほかにも、診察や患者への説明、診断、投薬、手術など、多くの処置を学生がやっており、獣医医療・教育に対する日本との姿勢の違いを感じた。

オペが終わった後は完全に放置されてしまい、自分から行動しなければとも思いつつ、そこまで思いきれず、病院内のほかのところをウロウロ。この日病院で気付いたことは(おもに北里の病院との違いとして)、まず麻酔の導入時、気管チューブは無菌ではなくそこからへんに置いてあり、喉頭鏡も長くまっすぐな大動物で使っている様なものだった。オペ前は自発呼吸を残し、オペ中はベンチレーターで維持。また、足のパットの根元にマイクを当て脈音を聞き血圧を確認し、皮膚縫合は科によっても違ったが、ナイロン等で縫合はせず、ホチキスみたいなものを使っていることもあった。オペ後は完全な覚醒を待たずケージに戻っていた。

夜は、病理の Dr.Brown の家に行き、夕飯をいただいた。この人がまた、陽気なおばちゃん、おもちゃのうんこやらパンやらチーズやらを仕掛けたりしていた。

## 8/22(水) Soft tissue ②

最初の1時間はミーティングか何かをやっていたのか、また一人部屋に取り残される。その後徐々に診察が始まりだし、やっと実習になってきた感じだった。

午後になり、またオペ(膝窩リンパ腫が右胸部に転移し肉腫となり、その肉腫の切除)の見学をした。

夕方からは Dr.Gogal の家のホームパーティにお邪魔した。なんとこの家には庭にプールがあるという、これまた日本ではあまり考えられないような家で、少し寒かったもののプールで遊びつつ、夕食をいただいた。

## 8/23(木) Ophthalmology

午前中は KCS (ドライアイ) についてのセミナーをやっていて、そこに参加。知識不足と英語力不足により、言ってることのほとんどはわからなかったが、セミナーのやり方が、「この症例についてどう思う？」といったよう聞かれそれに対して答えるというように、学生側が発言する機会が非常に多く、また日本では答えに自信がないと発言を控える風潮があるが、ここでは間違えることよりも発言すること自体に重点が置かれているようで、そこでも日本との違いを感じた。

午後は馬の目の診察に向かった。真菌性の角膜損傷で、まずメスの刃の裏で表面の細胞を取り細胞診に回し、瞼の裏に洗浄液を流すための留置があり、そこから洗浄液をながし、洗浄していた。

夕方は Terrapin という地ビールの工場兼ビアガーデンのようなところに行き、7種類くらいのビールを飲み比べ。帰った時間が割と早かったので、鹿児島大の人ともホテルで2次会をやることになり、シャトルバスを出してもらい買い出しへ。しかし売店で、買う人全員分の ID が必要と言われ、いったん歩いてホテルに戻り、再びバスを出してもらい買いにいった。ありがとう、Charles (笑顔が素敵すぎるフロント係)

## 8/24(金) In Atlanta

TGIF!! しかしそもそも研修組は実習は休み。ということで Atlanta にある『Word of Coke』と『CNN center』へ。『World of Coke』は、要はコカコーラの工場見学。コカコーラの歴史やら、いろいろなアトラクションを見たり、世界各地の製品の試飲もできた。『CNNcenter』ではフードコートがあり、そこで昼食&多少お土産を買った。

帰ってきてからは少し時間あったので

UGA グッズなどが売っている BookStore に行ったら、ちょうど閉まっていたため、迎いのバスが来るまで小1時間の散歩。近くにあった前述のスタジアムの入り口に通りかかったところ、ゲートが（たぶん業者の出入り用に）開いていたので、ちょっと忍び込んだ。中から見ると、並みのスタジアムなんか比較にならないほどの客席や、巨大なスクリーンなんかもあったりして、あらためてその規模の大きさに驚いた（警備員にばれた奴らがいたのは内緒）。

夕食は Dr.Hensel のうちで奥中先生（←関西人）達と一緒に BBQ。たべたり飲んだり、ライトアート？で遊びだし、ハンモックやら焼きマシュマロやらも出してもらった。その帰りの車中、母親がスロバキア人（だったかな？）というドイツ系スイス人である Dr.Hensel の外国語講座。そのとき覚えたのが、「Dobru noc! (=おやすみなさい)」。

と、いうことで、Dobru noc!

### 8/25(土) Shopping

当初は Climbing の予定だったけど、前日に中止になったので、アウトレットに連れて行ってもらった。買い物に2時間ももらったけど、たぶん1日あってもまわりきれないかもしれないくらいの規模で、正直もつといたかった。

夕方からは1階は寿司屋、2階はカラオケの「SHOKITINI」というお店へ。韓国系のカラオケの機会だったため、デンモクと文字はハングルだったけど、普通に日本の曲も入ってた（ただしバックに流れる映像が、基本、ヤクザみたいのに追われる・誰かしらが死ぬといった感じで、そんな映像で歌ったジブリ曲とのミスマッチたるや）。最初は3時間ももつのか心配だったけど、なんだかんだ盛り上がり、同時にカルフォルニアロールな

んで目じゃないくらい派手な寿司を食べたりと、長いようで短かった3時間だった。

### 8/26(日) Tubing

この日は Tubing、要は浮き輪みたいのに乗ってのんびり川下りをした。ウォータースライダーで遊んだり、日向ぼっこしたり、スカーリングしてみたり。途中サングラスなくしかけたり、蛇に出くわした人がいたりしながらも、自然のなかでゆるやかな時間を過ごした。

お昼はまたピザ。今度はサイズを選べたので、調子に乗って一番大きな 18in3 枚を 5 人で注文。そして来たピザを見て、大きさに驚いていたら、実はそれは他の人が頼んだ 16in。いざ 18in が来てみるとその大きさたるや…。3枚は調子に乗りました、すいません。

そんな感じで1週間折り返し。

### 8/27(月) Internal Med. ①

実習も2週目ともなると、病院内を把握し始め、内科の診察を見つつ、暇なときには他のところもぶらぶらしていた。内科では、基本的な身体検査をやった症例数件と、胸水を胸腔穿刺で抜き取った症例をみた。身体検査で気づいたのが、大型犬が多いせいもあるのか、聴診や触診と同じような流れで、直腸検査もほぼ毎回やっていた。

昼は全学共通の食堂行って、サラダを頼んだ。ここでの失敗が、おそらく店員はドレッシングをかけるからストップを言ってくれ、という様なことを言っていたのだろう、何も言わない僕を店員が何度も見てくるのに気付かなければ、サラダではなくドレッシングをメインに食べる（飲む？）羽目になっていただろう。

放課後は、世界最大のスーパーマーケット

チェーンであるという、Wal-mart へ買い物に。食料品やお菓子はもちろん、薬品やペット用品、家電や洋服まで、一通り売っていた(しかしまあ言ってしまうと田舎の JUSCO がすこし大きくなった感じ)。

#### 8/28(火) Internal Med ②

午前中は症例数こそ多かったものの、一件エコー下での膀胱穿刺での採尿があったくらいで、ほとんど身体検査・直腸検査や血検といった基本的な診察だった。その他はいつものように他のところをウロウロし、エキゾで亀の ECG (+Ca 剤の輸液)、飛べなくなった鷹のレントゲン撮影 (⇒烏口骨の骨折)、両側の眼摘と、試験的開腹し腸壁に腫瘍が見つかりそのまま腸管切除したオペを外から見学した。

この日は夕方からはローラースケートに行った。しょっぱなお尻から落ち、走り出しても何回もこけ、ついには受け身をとってこける術を身に着けた。やはり黒髪の女の子は外人にはモテるみたいで、鹿児島大の女の子がナンパされ、アドレス交換してた。

#### 8/29(水) CPC ①

CPC=Community Practice Clinic とは、平たく言えば1次診療、街の獣医さん。ワクチン接種や、Spay、Cast、といった簡単なオペを行うところだった。そこで午前中に Spay を見させてもらい、麻酔のプロトコルや術式などをみさせてもらった。

夜は奥中先生・Hensel・Brown 達にご飯とバーに連れてってもらったりと、本当にこの人たちにはお世話になった。

#### 8/30(木) CPC ②

ついに病院での実習も最終日を迎え、いつも以上に質問等に積極的に聞いていった。こ

の日みたのは、スケーリング、Cast、抜爪であった。スケーリングでは、おもちゃの光線銃のような、手に持つタイプの X 線装置を使っていて日本との技術の差を感じた(が、帰国後調べてみると、日本でも販売されている器具だったことが判明)。また、1頭安楽殺した症例があり、膵臓にマスができそれが胆管をふさぎ、全身の黄疸を呈している個体で、その遺体を開腹し、マスや黄疸の確認をしていた。

夜は副学長の家で、「Farewell Dinner」という、要はお別れ会を開催してくれた。今回の研修でお世話になった先生・学生がみんな呼ばれており、まさに最後にふさわしいホームパーティーだった。

#### 8/31(金) Georgia Aquarium

長かった実習も終わり、2週間お世話になったホテルを後にすることに。この翌日に、例のスタジアムでフットボールの試合があったらしく、どうせならそれを観て帰りたいものだが、どうにもその試合で選手やスタッフの分の部屋を確保するために、こちらは半ば追い出される形になったそう。

ホテルをチェックアウトし、空港のある Atlanta へ向かい、「Georgia Aquarium」という水族館を観光。カエル展がやっていたり、エサやりショーの時間と重なったりと、最終日だからとも言わんばかりにはしゃぎ、最後にイルカショーをみた。イルカショーというと、日本ではただ曲芸をやっていくイメージだったが、いざ始まると、もちろんイルカの曲芸が見せ場ではあったのだが、まるでミュージカルのような演出で、旅の最終日にいい思い出になった。

水族館後は、鹿児島大一向とはいったん別れ、各々空港近くのホテルへ。かねてから聞いていたように、プールつきのホテルだっ

たため、一息ついてからみんなプールへGO。滑走路の近くだったので、頻繁に着陸態勢に入った飛行機を見ることもできた。

そして夕食は、アメリカに来たならステーキを食べなければ、ということで、近くのステーキハウスを教えてもらい、そこにいった。アメリカ最後の夕食は、T-born、という棘突起を輪切りにしたもので、その味やボリューム感を感じつつ、吉岡先生に、棘下筋・棘上筋等ステーキを解剖学的に解説してもらった。

#### 9/1(土)→9/2(日) 出国

いよいよアメリカともお別れ。ほとんど移動時間だったため、半分が重量オーバーで空港で荷造りし直したり、香水買おうかぎりぎりまで迷っていた人がいたりしたくらい(笑)。

10時間をどうにかつづし日本に帰国。久々の日本に、日本食が恋しくなり、みんなで10時間をどうにかつづし日本に帰国。成田空港で鹿児島大とお別れをし、一同東京駅へ。久々の日本に、日本食が恋しくなり、ラーメン(←もはや日本食!)を食べ、その後2週間強生活を共にした8人とも別れ、あつという間の研修も終了。

今回の研修で思ったのは、獣医学のレベルとしては日本もアメリカもそれぞれの良し悪しがあり、一概にどちらが進んでいるかは言えないが、教育面や学生のモチベーションとしては、学生が処置できたりディスカッションの場面が多かったりと、アメリカのほうがはるかに進んでいると感じた。これを読むと、遊んでばかりいたような印象を受けかねないが、この研修を通して感じたことを今後に生かし、獣医師として立派な仕事をするために努力していきたいと思った。

そして実習だけでなく病院外のいろいろなところにも連れて行ってもらい、一生忘れられない思い出を作ることができたのは、一緒に行った7人、引率の吉岡先生、鹿児島大の3人と先生、UGAサイドの教員・生徒のおかげです。この研修を円滑に進めるために、ご尽力いただいた教員の方々も、本当にありがとうございました。

願わくば、このメンバーでまた集まりましょう!!

#### 武末 眞鷹

#### 18日(一日目)

8時に実家を出て13時に成田空港に集合し、11時間半かけてシカゴまで移動した。

機内には、予想に反して個別のモニターで映画を観たりできなくて、本を読むかみんなでゲームをしたりして時間をつぶした。

また機内はとてもクーラーがききすぎてとても寒く、CAさんに交渉しても聞き入れられず、ブランケットも全て出払っていた。

寒さのため一睡もできなかった。機内食がこれでもかというほど給仕され時間の感覚が変になった。

シカゴでは入国審査で関税の書類のサインを漢字で記入したため、戻って書き直せと告げられ唖然とした。

シカゴから2時間かけて飛行機でジョージア空港に向かった。

空港では出迎えてくれるジョージアの学生との調整がうまくいかず、連絡がつかないまま外で2時間待つ(現地9時)こととなった。

マクドナルドに立ち寄りながらさらに3時間かけてホテルに到着し、チェックイン時には12時を過ぎていた。

部屋に入った後は日本から各々持ち寄ったお土産の品を集めてプレゼント用に包装した。

19日

10時に大学の獣医学部棟で Welcom party でランチをとり早速アメリカらしいマフィンやベーグル、フルーツを食した。

その後、ダウントウンに繰り出したが、日曜日だからかほとんどの店が閉まっていた。

ホテルに帰る途中に立ち寄った大学構内のアメフト場や書店ではアメリカの大学のスケールの大きさに驚かされた。

書店にはジョージア大学のグッズがたくさん売られていて帽子やサングラスを買った。

鹿児島大の学生たちと一緒に整形の先生の家を招かれて、Wiiをやったり庭で体を動かして遊んだ。

20日

10時から大学全体を案内してもらって、最後に動物病院を回った。

動物病院の建物自体は別段キレイでもないし大きくもなかったが…

夕方からはボウリングを2ゲームやった。アベレージが2ケタの自分には珍しくストライクやスペアを連発し、調子が良かった。

夕食は大学から少し離れたピザ屋まで歩いていった。

ソースから具材まで自分で選んで注文する店で、かなり混乱しながらもおいしくできて満足できた。

かなり贅沢なトッピングでも10ドルとかなりリーズナブルだった。

21日

ローテーションの初日、寛と一緒に Orthopedics (整形外科) にいった。

自分たちが行ったら Round が始まっていて先生と学生が股関節脱臼の外科的処置の方法についてセッションしていて自分たちが講義で見たことのないような治療法を含めてな

にやら細かいことまで議論していて学生の勉強熱心なところに感心させられた。

セッションが終わって、その日は診察日だったようで、たくさんの患畜を見ることができた。

整形外科では一通りの神経学的検査や歩様の検査、画像診断をまず学生がやって先生に報告していた。

整形の科自体が忙しくなかなか相手にしてもらえず、また話しかける雰囲気でもなかった。

その日に来た症例としては前十字靭帯断裂や股異形成、尺骨の成長板閉鎖の犬などの症例が見られた。

前十字靭帯断裂では実際に引き出し徴候やコンプレッションテストを見せてもらった。

22日

この日も整形外科に行き、前の日に見た前十字靭帯断裂や2年前の手術のピンを抜く手術の他に急患で骨盤骨折の手術もやっていたが、自分たちが見れたのは前十字靭帯断裂の手術だけだった。

前十字靭帯断裂の手術は日本で主流の関節外法ではなく TPLO 法で整復していた (見えにくくてあまりわからなかったけれど…)

手術の風景としては、執刀医と助手2人 (先生と担当の学生)、麻酔医と外回りだけがいて学生はほぼマンツーマンで先生から教えてもらっていてピンの打ち込みをやらせてもらっていた。

他に、アプローチしか見られなかったけれど、髄膜腫の摘出のための開頭手術も見た。

23日

この日は前日までと違い、一人で軟部外科を回った。

この日に予定されていた手術は下顎にでき

た腫瘍摘出のための片側の下顎骨の摘出術と臍ヘルニアの手術、耳介の腫瘍摘出が予定されていて10時にオペ室に入って、まずは下顎骨の摘出術を見た。

下顎の腫瘍については、細胞診などの検査でもよくわからないとのことだった。

手術は顎関節を外すのに手こずって6時間もかかっていた。

執刀の先生自身が初めての手術だったということで整形のようには違い学生は把持と器具出しのみをしていた。

整形のオペのときは気づかなかつたけれど、麻酔は完全に麻酔科の学生が管理していて麻酔科の先生が時々様子を見に来る程度だった。

## 24日

コココーラセンターやCNNにいった。

コココーラセンターではポラーベアと一緒に写真を撮ったり、4Dの映画をみたり世界中のココーラの製品を試飲したりした。

世界中のコーラの製品にはクスリっぽいものや、苦いもの、単純にマズいものなど様々あって皆、結局は飲みなれた普通のコーラが一番と感じていたようだった。

自分は10年前に一度日本にきてすぐに店頭から姿を消したバニラコーラが好きだった。

## 25日

朝からアウトレットに行ってお土産を買った。

自分は3日目にしてバッグの底に大穴が二つも空いてしまったのと、病院で使う靴が合わなかったので丈夫そうなバッグと靴を買うことにした。

どれも安くいいものだったけれど財布の

ひもが固くてアウトレットモールを何周かしてようやく買えた。

帰りに中華料理屋で昼食をテイクアウトして、久しぶりに米が食えた。

## 26日

チュービングという川下りをした。

激流下りのようなことだと思いつんでいて、泳げないので溺れたらどうしようかと少し怖かったけれどすごく浅くて流れもゆるゆるだったので完全に杞憂だった。

チュービングでは川を優雅に漂っていた。

帰りにピザを食べた。やはりピザはいい！スーパーに行ってお土産を買った。

## 27日

この日はCPCを回った。

この日は患者が少なかったのか、FIVの猫や皮膚腫瘍がある犬が来た他には、

たまに来て定期的な健康診断のようなものがほとんどであった。

午前中は子猫の避妊手術を見せてもらった。

CPCでは避妊手術くらいは先生の指示のもと学生が全てやるようだった。

聞くとアメリカでは先生がついていれば基本的に手術をやってもいいということだった。

手術を受けていた猫は野良猫ではなく、飼い主がいるペットであるということにカルチャーショックを受けた。

避妊手術は15回目ということで、今まで見てきた先生の手技に比べると少し不安なところもあったが自分が去年開腹実習で経験したときは子宮をだすのに苦労していたけれど、かなり速かった。

手術室は先生と執刀した学生で助手はいなくて、麻酔はCPCの学生が管理していた。

午後は完全に予定がなかったので隣の皮膚科やいろいろな科を覗いて腸閉塞の手術を見たりした。

28日

前日に引き続き、この日も CPC に行った。

頸部皮下に膿瘍のあった犬のドレーンや、膣に膿瘍ができて両目から膿のような涙がでてくることを主訴に来院した犬を見た。

膣の膿瘍は眼の異常と違う原因で、眼の異常がどこからきているのかということとはわからなかった。

前日と同じように健康診断や他の科で処置を受けた患畜の経過観察を中心に見て、何件か猫の避妊手術が入っていた。

こちらが黙っていると、全く相手にされずただただ立つだけなので「この子はどこが悪いの？」ということの切り口に話を広げていたが、前日と同じく健康な犬の検査がほとんどでかなりしんどかった。

隣の皮膚科もその日は症例が少なく、CPCでも午後の予定はほとんど入ってなかったので病理解剖を見に行った。

病理解剖はワラルー（右心臓肥大）、猫（腎臓に結石の核がある）、犬（ジステンパー疑い、胃に炎症の跡）や馬（開腹すると胃破裂）が解剖されてた。

29日

この日は emergency と internal medicine に行った。

emergency には部屋の奥に感染制御のためのケージが一つ置いてあって普通のケージにの周りの床の半径1メートルほどのところにテープが貼ってあって「立入禁止」と書かれてあるだけの雑なものだった。感染制御のゲージには pyoderma の犬がいて抗生剤が点滴されていた。

酸素室にははっきりとした黄疸がでている IMHA の犬や蛇にかまれて顔がパンパンに腫れた犬、肺葉切除した犬がいた。

その他には交通事故やその他の術後管理が主で、緊急時のプランや投与するべき薬の投与量などが書かれてあった。

internal medicine では慢性膵炎や肝臓のにマスがある犬、弁膜症の犬など何頭かの入院患畜がいて学生やレジデントの先生がそれぞれの患畜のヒストリーや診断に至った経緯、これからの治療方針について説明してくれた。

30日

前日に引き続き internal medicine にいった。

この日は首を痛がる犬がいて神経学的検査や画像診断をやっていたり、気管狭窄の犬がいた。

皮膚やリンパ節、肺に腫瘍がある犬がいて、穿刺すると真菌が検出されて Blastomycosis と診断されていた。

その他、脾臓のバイオプシーの採材もみた。

午後は人も動物もいなくて暇だったのと、ローテーションも最終日だということで大動物の病院や病理なども見て回った。

大動物病院にはルーメンアシドーシスの治療のための第一胃汁のドナーが飼われていたり、患畜としてアルパカが来ていたりした。

田村 雄飛

8月18日

この日は羽田からシカゴ空港を経由し、アトランタ空港への移動日だった。機内に入り離陸するとこれから始まる海外研修へ期待すると同時に、自分の英語力の無さや異文化へ



の不安に感じた。移動を終えて、アトランタに着き空港のメインゲートの前で迎えの人を待っていたが一向に来なかった。ジョージア大学の学生が迎えに来てくれるはずだったが1時間ほど探したり、ゲート前にいたがこなかったため先生が大学に電話してくださったが連絡は取れなかった。もう1時間くらいしてやっと学生が迎えに来てくれた。違うゲートで待っていたそうなのだが、笑いながら謝っていた。さっそくアメリカンスタイルを痛感した。マクドナルドで夕食を済ませた。ビッグマックを食べたが日本と同じサイズだった。

#### 8月19日

この日は午前中にウェルカムランチをごちそうしてくれた。この海外研修は鹿児島大学も毎年参加していて、学生3人と引率の先生1人と顔を合わせた。この時点ではろくに話もせず、互いの大学の友達と話していた。その日のデザートに出たマフィンがジョージア大学のスクールカラーである黒と赤でカラーリングされていて、さらにまとわりつくような甘さだった。体には良くなさそうだった。

夕方からは **Game Night** ということで先生の家で食事をとりながら **Wii** をやったり外で遊んだりした。鹿児島大学の学生ともたくさん話すことができた。

#### 8月20日

学生が大学の広大な敷地をバスで案内してくれた。案内役の学生はテンションが高くとても楽しめたのだが、言っていることのほとんどは聞き取れなかった。大学内には雑貨なども売っているブックストアや巨大なスタジアム、体育館などがあり日本とのスケールの違いを思い知った。レイコさんが「聞き取れ

ませんでした」「もう一度言ってください」といったニュアンスの英語を勉強していたため、いろんな言い回しを教えてもらった。案内が終わると全員でスーパーに行った。滞在中は基本的に朝食を各自でとる必要があり、約1週間分の朝食を買った。珍しいものが多かったため、待ち合わせ時間に遅れそうになった。夜のボーリングは楽しめた。

#### 8月21日

この日からは実際にジョージア大学の獣医療を見学することができた。私は救急医療を見学した。午前中はショックについてセミナーをやっていて、救急の教授とレジデント、学生で発言を交わしながら進めていた。驚いたのは学生の知識の定着度であり、教授やレジデントの質問に対してスラスラと答えていた。午後からは診察をするかとおもいきや、案外と暇そうで、カルテへの記入などの事務仕事をこなしていた。

この日は病理の教授の家に招待してもらって、夕食や会話を楽しんだ。かなりおちゃめな先生で場を楽しませてくれていた。日本のアニメとゲーム好きのジョンは名札に日本語で「ジョソ」と書いていた。

#### 8月22日

2日目の救急医療の見学だった。この日も午前中はセミナーで議題は熱中症だった。教授のお気に入りのテーマだそうで嬉々としてしゃべっていた。午後は呼吸不全でICUに入っている若齢のラブラドルの診察や、熱中症で来院したネコの入院管理などを行っていた。しかし前日と同じで暇だったため、他の科を回って時間を過ごした。小動物の診療センターはいくつかの科を除いて同じ棟にあり、移動は自由だった。英語で会話することにもだんだんと慣れてきたのだが、学生と

話すようになってから、横から眺めているだけはほとんどかまってくれず、自分から症例について聞いたり、要望を伝えたりする必要があることがわかってきた。

夜は自宅にプールのある邸宅にお邪魔した。子供が人形のように可愛かった。

8月23日

小動物内科を見学した。症例は主に消化器系と腫瘍だった。腫瘍学の科もあったのだが、明確に分けられているわけではなかったようだ。眼窩、鼻腔、硬口蓋まで広く浸潤している患者の鼻腔内視鏡にてバイオプシーをするところを見た。

夜はテラピンというアセンズの地ビール工場に行き、ビアガーデンでビールを楽しんだ。いろんな種類のビールを楽しめた。全員酔っ払い、ホテルでも飲み直した。

8月24日

病院見学はこの日は休みで、アトランタの観光に行った。コカ・コーラの博物館に行った。どちらかと言うとアトラクション施設に近く、映画や試飲、記念撮影などをすることができた。世界各国の飲料会社と提携、吸収しているため試飲ではいろんな国のいろんな味のファンタがあったが多くは日本人の口に合わなかった。そのあとはCNNの本社ビルに行ったが、詳しく観光はできなかった。

夜は皮膚科の先生の家を招待してもらった。先生の彼女は大阪出身の日本人で、皮膚科のレジデントだった。英語にときどき混ざり関西弁が印象的だった。

8月25日

クライミングの予定だったのだが予約がとれなかったため、ショッピングに行った。各々服やサングラス、バッグを買いあさった。ア

ウトレットということもありかなり破格の値段だった。夜はカラオケ・寿司バーへ行った。レッドニンジャロール、ボルケーノロール、サムライロールなどを食べた。おいしくはあったが、やはり寿司と呼ぶには躊躇があった。

8月26日

川へ行ってチュービングを楽しんだ。浮き輪のようなものに乗って空を見ながら流れていたら、川岸から伸びた木の枝に蛇がいて驚いた。一部始終を見ていたおじさんは見えなくなるまでずっと笑っていた。この日の夜は招待されたりしなかったので、みんなでキューバ料理をテイクアウトし部屋で食べた。

8月27日

休日は終わり、獣医療見学が再開した。この日は整形外科を見学した。膝蓋骨内方脱臼、大腿骨骨折などの症例を見た。空いた時間はエキゾチック科の見学に行った。水腎症のフェレットのエコーを見せてもらったりした。見学のあとは夕方からウォルマートでショッピングをした。お菓子などの土産を買ったり、少なくなった朝食を買い足したりした。夕飯にはバイキング形式の学食に行った。24時間営業だったことには驚いた。

8月28日

2日目の整形外科の見学をした。大腿部の骨折を外部で行った犬が来院した。術部が腫れ、血液の混ざった漿液様物が流れていた。外科用ホチキスを外し、廃液を行なって消毒して処置を終えた。他にも前十字靭帯断裂などもあった。前十字靭帯断裂にはTPLOによる治療が一般的なようだった。

この日は室内のローラースケート場へ行っ

た。スケートをしながらダンスをしていた子供と遊んだりした。

8月29日

眼科を見学した。見学したすべての科を通して言えることだったのだが、ジョージア大学ではまずは学生が問診をして、所見をとったりヒストリーを聞いたりし、自分なりの診察をしていた。その後先生と一緒に診断を進めていっていた。この日は犬の緑内障、ネコの外傷性のぶどう膜炎、馬の角膜潰瘍などの症例を見ることができた。他にもアルパカの角膜潰瘍も見ることができた。

夜はフリーだったのだが、24日にお世話になった皮膚科の先生たちとダウンタウンに行って食事をしたり、屋上にあるバーで飲んだりしていた。そのあとはダウンタウンのツアーをしてくれて、歴史などについて教えてくれた。

8月30日

最後の見学の日だった。この日も眼科を見た。緑内障の犬の眼球摘出術や瞬膜フラップなど、眼科のオペを中心に見学していた。夜は副学長の家を招待してもらって、パーティーを楽しんだ。たくさん学生や先生方も来てくださって、別れを惜しんでくれた。最後には集合写真を額に入れてプレゼントして下さった。海外研修の終わりが近いことを再認識し、すこし寂しくなった。

8月31日

この日は再びアトランタへ行って水族館で遊んだ。日本の水族館とは違って、テーマパークのような様相だった。イルカショーはミュージカルのような形式で、日本のものとはかなり違っていたがとても楽しめた。その

後は翌日のフライトのためにアトランタ空港近くのホテルに移動した。すぐ近くを飛行機が飛ぶところをホテルのプールから眺めた。夜は最後の晚餐ということで豪盛にステーキを食べた。Tボーンステーキについて一機先生に解剖学的に解説していただいた。

9月1日～2日

ジョージアでの2週間を惜しみつつの移動だった。またこの2週間を一緒に過ごした鹿児島大学の学生たちともこれが最後の時間になるため、一緒に時間をすごした。

この2週間はとても濃密で貴重であり、この海外研修で経験したものは獣医療にかぎらず、他の多くのことに活かしていきたいと、そう強く思える2週間だった。

長嶋 慧

8月18日

成田空港集合で、いざジョージアへ出発。機内ではほとんど日本人のCAだったため、助かった。長時間のフライトはやはり足腰にきた。待ち合わせのジョージア大学の学生が、待ち合わせ場所を間違えていたためしばらく待った。道や建物あらゆるものがでかい、ホテルまで送ってもらい、部屋に着くと疲れすぎてたためすぐに就寝。

8月19日

時差ボケも無くとても目覚めのいい朝。鹿児島大学の人達と合流し、大学内でパンやフルーツのランチをもてなしてくれた。また個人に特性のカップケーキが用意されていた。いかんせん全ての物が甘くあまり食べられなかった。ダウンタウンに向かい、散策や買い物を済ませた。マロリー宅でゲームナイ

トを開いてくれた。鹿児島大学の人達とも話せるようになり、頂いた料理もとてもおいしかった。

8月20日

今日はキャンパスツアーで、大学内をバスで回り建物の説明を受けた。どの建物も広く天井が高い。また研究室毎に建物があり、中も綺麗だった。小動物の棟は北里の方が綺麗だが、大動物の棟では空調管理がしっかりしてたためか、あまり虫が見当たらず臭いも無く綺麗だった。ツアーが終わり、ボーリングに連れてってもらった。平日のせいかもしれないがあまり学生や若い人達は見当たらなかった。ただ盛り上がる所は世界共通だとわかった。

8月21日

研究室ローテーション初日。皮膚科へお邪魔した。ジョージア大学の皮膚科には日本人のDr 奥中さんがいた。とても流暢な英語で喋るが、質問するとこてこての関西弁で答えてくれて親切に教えてくれた。皮膚の検査や診療の仕方は日本と変わらなかった。衝撃的だったのは、アレルギーに対する食事療法としてカンガルーの肉が使われていた。基礎研の立場からすると全てが新鮮に思えた貴重な体験だった。

夕食はスイカを食べきるまで帰らせないとという過酷な難題を突き付けられた。飼っていた犬が肥満過ぎて獣医師と思えない飼い主だった。

8月22日

皮膚科2日目、紅斑や趾皮膚炎など日本語で言われればわかるが英語で言われても何もわからず、また辞書にも載ってなかったため調べるのにとっても困った。

夕食はプール付きの豪邸でごちそうになった。小さな姉弟を連れてきた母親がいて一緒にプールで遊んだ。まだまだ自分も回りの友達も若いなど実感した。自分も将来こんな家に住みたいと思った。遊び疲れたのかみんなすぐに寝てしまった。

皮膚科

主に大学で習った授業内容と変わりは無かった。今回の実習期間で見られた診察は毛包虫症、疥癬、アレルギー症状、傷口を舐めてしまって起きた多型紅斑であった。

8月23日

今日は腫瘍学を見に行った。大学の授業でそこまで触れてなかったため、聞いてもさっぱりわからなかったが、鹿児島大学の先生も一緒に受けていたので日本語で説明を聞けることができた。この研究室は主に診断だけだったので治療は他の研究室に回していた。見学が終わってからはセラピンというピアガーデンに行った。持ち込みは平気だが本当にビールしかなく飲めない自分としては辛かった。鹿児島大学の人達とも打ち解け始めホテルに帰ってからも一緒に飲み明かした。  
腫瘍学

リンパ腫、肥満細胞腫、扁平上皮癌、繊維腫の患者が訪れていた。触診による検査をさせてもらい、腫れを確認できた。

8月24日

ローテーションは休みでコカ・コーラミュージアムへ行った。CNNでご飯を食べた。

皮膚科の先生の所でご飯を食べた。ローテーション初日にお世話になっていたことや日本語が通じるという点もあり自分含め皆くつろいでいた。カメラを使ってのプレゼントも作った。

8月25日

当初予定していた室内のロッククライミングが中止となり、アウトレットでの買い物になった。とりあえず安い。衝動買いなんてもんじゃなく、帰りのスーツケースに入れられないため諦めたものがたくさんあった。

夜は学生達とカラオケに行った。ジブリやアニメの歌はアメリカでも日本語で歌えることがわかった。

8月26日

川を浮き輪で下るチュービングを体験した。水不足のためか、所々で浅くなっており、岩が剥き出しの場所がいくつかあった。滑って転んで岩に頭をぶつけてコブができた。ゆっくり流れて自然を感じる安息の時間を得られた。

8月27日

ローテーションの折り返し、今日はエキゾチックにお邪魔した。鷹やハチドリ、りす、モルモットなど日本では見られないような動物が多く見られたことに感動した。通常の英語辞書には載っていないような単語が飛び交い、わからなかったため一つ一つ質問したら丁寧に答えてくれた。夜は学食に行った。ほとんど24時間開いているバイキング形式の食べ放題、ファミレスが近くに無いぶん、この形式は学生たちの溜まり場だった。

8月28日

エキゾチック2日目。目から口にかけて傷のあるボアが来た口腔検査で右の上顎に腫瘍が見つかった。この日は検査だけで出血を抑えるだけしか処置をしなかった。夕方からはローラースケート、小学生振りだったためバランスも取れず何度も転んだ。アメリカの男性は女性が転ぶとすぐに駆けつけ手をさしの

べていた。とても紳士的な印象を受けたが、アドレスまで聞こうとしていたところを見てしまっただけだと感じた。

エキゾチック

搔痒症状を示すモルモット、食欲の無い青オウム、怪我して飛べなくなったハチドリ、心拍数が異常に少ないフロリダ Gopher tortoise 正常は6~20回/minだが3回しかしてなかった。肩甲骨脱臼・烏口骨骨折したクーパーズホーク、肛門周囲腫のフェレットなど様々な動物が来た。全ての治療は見られなかったが、野生の動物と触れ合う良い機会が得られた。

8月29日

ローテーションでソフトティッシュューに行った。始めにミーティングを行って、生徒が受け持つ患者の症状や治療方針など1時間ほど話し合っていた。この日は主に検査だけで針生検や触診で行っていた。

夜は皮膚科の先生方と夕食をダウントウンに食べに行った。夜の街は危険と言われていたため、現地の人がいれば安心して夜でも観光できた。ステーキをご馳走になり、その後はお洒落なバーに連れてってもらった。そこで人生初のテキーラを飲んでみんなで楽しめた。

8月30日

最後のローテーションで昨日と同様にソフトティッシュューのミーティングから始まり、今日は手術を行った。オペ室では音楽や動画など観ていてとてもリラックスして行っていた。これにはカルチャーショックを受けた。

夜は今までお世話になったUGAのみんなが集まってパーティーを開いてくれた。UGAでの最後の日だったのでとても感慨深いものがあった。集合写真の写真たてをプレ

ゼントしてくれた。最後までお世話になりっぱなしだった。

ソフトティシュー

肺癌のミックス、何か所にもマスがあるゴールデンレトリバー、これらは主に腫瘍学の研究室と合同に検査していた。また交通事故で運ばれてきた右前肢と左耳が取れそうな感じだった。患部に砂糖を掛けて消毒していたのには驚いた。浸透圧の関係で浸出液を出すと言っていた。膀胱結石の手術を見せてくれて、左腎と結石を取り除いた後尿管が狭窄していたためチューブを射して拡張させていた。

8月31日

朝 UGA からアトランタに向けて出発。世界一大きいと言われるアクアリウムで数多くの魚や両生類をたんのうした。イルカショーではただの芸ではなく劇団四季のような華やかなショーが観られた。最終日のホテルは鹿児島大と違ったためしばしの別れをした。遊び残すことが無いようにおおはしゃぎした。ステーキを食べに行ったがアトランタのステーキハウスには黒人が多くとても威圧感があった。

9月1日

早朝 5時半起き アラームが勝手に鳴り 4時に目覚めた。飛行機でシカゴまで向かい鹿児島大と合流して、乗り継ぎまで買い物など済ませた。飛行機では疲れていたためか途中から記憶が無く、いつの間にか日本に着いていた。着いてもまだ実感がなくふわふわと浮き足立っていた。人混みの多さやジメっとした天気で現実に戻ったのだと実感した。

総括

向こうでは自分から何をしたいか言ったり

行動しないと取り残されることが分かった。この機会で自分には積極性が少し生まれた気がした。質問するとわかりやすい英語で一生懸命説明してくれる熱意に感動した。

貴重な経験をさせていただき、ジョージア大学の皆さん、引率の吉岡先生、一緒に行ったメンバー、鹿児島大学の生徒と先生、研修に関わってくれた方々にとっても感謝します。

野村 竜哉

8月18日（1日目）

出発の日。みんなと成田空港に集合し、出国前に日本食とお茶漬けを食べてからアメリカに出発。飛行機（ユナイテッド）の中では、個人用のテレビがなく共用のテレビで映画を見たり、みんなとDSをやったりしながら過ごした。機内食は、夜はビーフを朝はパスタを食べた。そして、約12時間のフライトを経てシカゴに着き、そこから更に約2時間かけてようやくアトランタ（国内線）に到着した。空港からホテルまではジョージア大学の人が迎えに来てくれる予定であったが国際線だと勘違いしたらしく、そのために空港で2時間待たされてしまった。みんな空腹だったため、ホテルに行く前にマックによってもらいがつつりチキンサンドイッチ（サウザンスタイル）セットを食べた。ホテル（ジョージアセンター）に着くと疲れがたまっていたためすぐに寝てしまった。ホテルのペアは雄飛だった。

8月19日（2日目）

ウェルカムランチまで時間があったため、雄飛とホテルの近くにあるジムに散歩がてら探しに行ったが閉まっていた。後から調べてみるとホテル内にも小さなジムがあった。

朝食は大学で用意してくれており、果物やカップケーキやベーグルにクリームチーズをのせて食べた。カップケーキの生クリームが赤色をしていてアメリカを早くも感じた。

鹿児島大学からも生徒が3人と先生が1人来ていたが、すぐに打ち解けた。

朝食後、大学の近くのダウンタウンでショッピングをし、その後は2011年に卒業したDr.Frankの家でGame Nightをもらった。奥さんと3頭の犬に出迎えてもらい、おいしい料理を食べながらWiiでマリオカートやWiiスポーツをしたり、広い庭ではバドミントンやフリスビーなどをして楽しんだ。Dr.Frankはアニメ好きで家にはアニメのDVDが並んであり、日本人より知っていてまたWiiも強かった。

8月20日（3日目）

8時に起床し、ホテル内のジムへ行き30分ほど汗を流した。10時からランチをはさみキャンパスツアーをして各学部や研究室の紹介、小動物・大動物診療所の説明をしてもらい、その後集合写真を撮った。

午後はGrocery Storeというスーパーで食材を買い、その後ダウンタウンでショッピングやヨーグルトの店でアイスを食べた。

18時からジョージア大学の生徒とボーリングを2Gして楽しみ、夜ご飯は大学の近くのピザ屋（Your Pie）で自分でトッピング（ホットソース・オニオン・ガーリック・モッツァレラ・ベーコン）を注文して食べた。

8月21日（4日目）

朝ご飯はサンドイッチ（サラミ・チーズ・ポテトサラダ）、シリアルを食べた。この日からClinical Rotationが始まった。

Clinical Rotationの1日目は内科。鹿児島大学の先生は内科の先生だったので一緒に

見て回った。先生は英語がペラペラだったので聞いて分からないことがあると先生に助けてもらった。アメリカでは生徒が実際にオーナーと話して診察・診断し、処置室でそのことを先生に伝え今後の方針を決めるというスタイルとっていて、日本とは生徒が行える範囲が広いことに驚いた。ATも採血や膀胱穿刺などをやっていた。

所見ではTPR、心雑音、触診（リンパ節）、可視粘膜（CRT）、直腸検査をルーチンで行っていた。

診察

チワワ：

心疾患（心雑音）、気管虚脱→心電図

ワイマラナー：

尿失禁・膀胱炎（小さいときから）、  
鼠径ヘルニア、肥満細胞腫（左後肢）

G. シェパード：

GDV、腸閉塞→午後オペ

M. ピンシャー：

IMHA、メレナ→CBC、PE

お昼は大学内のコンビニでマルちゃんのやきそばを食べたが、日本のとは違く甘かった。午後は暇だったのでICU・外科（脳のオペ）を見たりした。

18時から病理学研究室の教授Dr.Brownの家でDinner。Dr.Brownは玄関に偽物のうんちを置いたり、かつらをかぶったりなどお茶目な人だった。

8月22日（5日目）

朝ご飯はサンドイッチ、シリアルを食べた。

Clinical Rotation 2日目も内科。朝から内視鏡を見ることができた。食道狭窄の子猫で内視鏡によりバルーン拡張術を行った。成功しなかった時は、胃にアプローチしPEGチューブを設置することになっていたが、バルーン拡張術は成功した。

お昼は大学で開催された BBQ でアメリカンなハンバーガを食べた。

午後も内視鏡を見ることができた。鼻腔内にマスがあるウエスティーで、鼻腔鏡を挿入しバイオプシーを行った。後から CT を見せてもらったが、眼間と右目腹側に骨溶解が見られた。

その後はフリーだったので髄膜腫や骨盤骨折のオペを外から見学した。

17時からは Dr.Gogal の家でプールに入ったりしながら Dinner を食べた。

8月23日（6日目）

朝ご飯を食べ、この日は整形外科を見学した。朝は診察の前に股異形成についての講義を聞かせてもらった。

診察

Mix：創外固定（橈尺骨）の抜ピン

生徒が先生に指導してもらいながら抜ピンを行っていた

ポストンテリア：

右後肢 CCL 断裂

以前に両側の MPL 有り

ドローワーサイン、コンプレッションテストにより診断→TPLO

アメリカの CCL 断裂に対する第一選択は TPLO であった

R. レトリバー：

左後肢の股異形成→THR をやるかどうか？

午後は暇だったので IVDP や寛骨骨折のオペを外から見学したが、術野が見れなかったためどんな手技なのか確認することはできなかった。

Clinical Rotation 後、Terrapin というビール工場へ行き、ジョージアの地ビールを飲んだ。

ホテルに帰ってからコンビニにお酒を買い

に行き二次会スタート。その日は1時に就寝した。

8月24日（7日目）

この日は Clinical Rotation がなく、World of Coke で世界のコーラを試飲し、CNN（テレビ局）ではお昼（お米が食べたくなり、中華を選択）を食べた。

夜は皮膚科の教授である Dr.Hensel の家で Dinner を食べ、とても優雅な夜だった。

8月25日（8日目）

8時に起床。朝ご飯を食べ、アウトレットでショッピング。武末と回り、Crocs を購入した。お昼はまた中華を食べ、ホテルへ戻り休憩後、SHOKITINI というところでカラオケをしながら寿司を食べた。寿司はドラゴンボールを注文し、うなぎやアボガドなどが載せられたもので美味しかったのだが、量が少なく追加でエビ天うどんも食べた。

8月26日（9日目）

7時30分に起床。この日は Tubing（浮き輪に乗って川下りする）をしに川に行った。川は穏やかで下るのに2時間近くかかった。

お昼はピザ屋でピザをお腹いっぱい食べ、その大きさと安さに感動した。

ホテルへ帰った後 Wall Mart に食材を買いに行き、その後ホテル近くのキューバ料理店で夜ご飯やお酒を買いホテルで飲んだ。

8月27日（10日目）

7時30分に起床。また Clinical Rotation が始まり、2日間軟部外科を見学した。

研究室に着くと誰もいなかったので隣の整形外科でやっていた骨折時のプレートや創外固定の適用についての症例検討を聞いた。



## 診察

Mix : 左前肢の膿瘍でオペによりドレナージを行い、そのバンテージ交換に来ていた

クッシング症候群のため皮膚は粗く、治療の経過が長い

Mix : 右後肢の膿瘍 (マス)

Dr はプロプリオセプション、屈曲反射、跳び直り検査のあと聴診や直腸検査を行っていた

午後は胃切開のオペに入らせてもらった。異物はひも状異物と植物によるものだった。

術式は日本と同じ様に行っていた。

Clinical Rotation 後 Wall Mart で買い物をし、夜は大学内の学食を食べた。学食は15ドルでバイキング形式だった。

### 8月28日 (11日目)

7時30分に起床。軟部外科2日目。この日は一日中オペを見ることができた。

一件目 : 肺葉切除

胸腔鏡で肺の状態を確認後、開胸し肺葉を切除

切除後サチュレーションが78に低下したためドブタミンを投与し91まで回復

その後、ドレージを設置し閉創

二件目 : 左後肢の MCT (2か所)

電メスで MCT を摘出、閉創

三件目 : 試験的開腹

開腹したところ、腸内にマスがありそれにより腸閉塞が起こっていた。

約25センチ摘出し腸管を吻合、腹腔洗浄後閉創

Clinical Rotation 後は軽食を取った後、室内のローラースケート場に行ってローラースケートを1時間ほど楽しんだ。

### 8月29日 (12日目)

7時30分に起床。最終日2日間は皮膚科を見学した。皮膚科では Dr.Hensel と日本人でレジデントである Dr.Okunaka にお世話になった。

## 診察

R. レトリバー :

ノミによるアトピー性皮膚炎

くし試験や耳鏡検査、スライドグラスにスタンプしディフクイック染色  
→アトピカ(シクロスポリン)で治療  
左目の眼やにから前回行った目のオペの縫合糸が残っていることが発覚  
→眼科で抜糸してもらう

耳鏡検査のやり方を生徒に丁寧に教えていた(耳を自分の方に引き耳鏡を入れる)。

その後、糸状菌症の講義を聞き午後の診察へグレートデン :

毛包炎

ディフクイック染色により毛包内にマラセチアを確認

Clinical rotation 後、Dr.Hensel と Dr.Okunaka に Down Town に連れてってもらい、一件目では美味しい料理(ビーフシチュー)を食べ、二件目では屋上のバーでお酒を飲んだ。

次の日も Clinical rotation があるがその日がもう最終日のような感じだった。

### 8月30日 (13日目)

8時15分に起床。Clinical rotation 最終日 : 皮膚科。

## 診察

猫 : 上唇(左側)の腫れ

2週間前にノミによるアレルギーでステロイドと抗炎症剤を処方  
スタンプ標本により好酸球性肉芽腫と診断

#### G. レトリバー：

慢性のアレルギーと掻痒 慢性腎炎  
軽度の炎症が頸部に存在  
耳鏡検査を行い、耳垢を塗抹し検査  
→マラセチアが少しいた

#### アイリッシュセッター：

甲状腺機能低下症のため腰部に脱毛  
が見られたが改善傾向  
耳鏡モニターにより右耳の水平耳道  
に白いグジュグジュしたものが見ら  
れた（外耳炎）  
石灰沈着により触診でも耳道が硬い  
→確定診断のため CT をやりたいが  
高価なためオーナーが望まず、診断  
できず

#### R. レトリバー：

アレルギー様症状（食べ物 or 環境）  
四肢に脱毛が見られた  
浅い搔把試験を行った  
→抗生剤（セファレキシン）、アト  
ピカを処方

Clinical rotation 後、最後の Home Party  
は Dr.K.P.Carmichael の家で行い、そのあ  
とタピオカジュースの店で Thai Tea を飲ん  
だ。

ホテルに帰り、帰国の準備をしてから就寝。

8月31日（14日目）

最終日。Georgia Aquarium へ行き、最後  
にイルカショーを見てジョージアの研修が終  
わった。夜は吉岡先生にステーキをおごっ  
てもらい、最後までアメリカを感じるこ  
うできた。

この2週間、英語の出来なさを痛感した  
日々だった。レクリエーションやそれぞれの  
教授の家での Dinner の時は、生徒や教授と  
北里やジョージア大学についてなど話すこと

ができたが、Clinical rotation では当たり前  
のことなのかもしれないが、ほとんどが自分  
から動いたり聞いたりしないと何も教えてく  
れない雰囲気、最初は萎縮してしまってあ  
まり質問することができなかった。Clinical  
rotation も徐々には慣れていったが、専門英  
語の壁もあり聞いても聞き取れなかつたりし  
たのでカルテを見せてもらったりした。

アメリカでは生徒が担当の患者の診察をす  
るところが日本と一番の違いであった。また、診察から検査を行いその結果を基  
に考えられることを先生と一対一で話し合い  
診断し、診察後にカルテもパソコンで記録す  
る（その後先生に添削してもらっていた）な  
ど徹底されていた。実際に症例を見て考える  
ので卒業後すぐでも率先力になる理由がわか  
る気がした。獣医学では自分たちの方が一年  
多く勉強しているはずだが、知識の差は歴然  
として勉強の足りなさ、またそうやって実  
際にやれることに羨ましさを感じた。

この2週間はあっという間だったが、アメ  
リカの獣医医療を見て聞いて獣医に対する視  
野を広げられ、とても貴重な体験ができた。  
ジョージア大学でお世話になった先生や生  
徒、そして一緒に同行してくれた吉岡先生に  
はとても感謝している。

#### 三浦 京夏

研修は8月18～9月2日まで行われた。  
私は8月21, 22日に Exotic.zoo medicine、  
23日に CPC(chronic and practice center)、  
27, 28日に救急、29, 30日に病理を見学さ  
せてもらった。研究室は教授たちと、2013  
年度卒業予定の生徒で構成されていた。

#### Exotic.zoo medicine 1日目

まず研究室にいったら誰もいなかったの

で、売店に案内してもらおうとそこでミーティングが行われていた。ミーティングの内容はちんぷんかんぷんで、英語を聞き取ることができなかった。しかし単語がいくつか聞き取れたので、どんな動物が入院しているのかを予測してすごした。その後、研究室に戻ると、たくさんの生徒が話しかけにきてくれてうれしかった。鷹が入院していたので、眼科の先生による鷹の視力検査や取り扱いについての小講義が行われた。その後はギニーピッグ(モルモット)のエサヤリを手伝わせてもらった。あつというまに午前が終わり、お昼を食べに行くようすだったので話しかけると一緒に食べることになった。お昼は普段はみんなで食べないらしいが、私の初日なので一緒に食べてくれた。ミニチュアブドウと言うものを先生が食べていて、教授が全部一気に食べて！と冗談でいってきたり、梅干をあげたらそんなに悪くない食べ物だ、とってくれたりした。

午後はリスが2種類きた(もとからいた *frying squirrel*, 午後からきた *tree squirrel*) ので、グルコースの経口投与を行い、レントゲン写真を撮りにいった。インコのレントゲン写真もとりにいったが、これは *ventriculus* と言われてよくわからなかったが、*ventricle* とは胃なので消化器系の疾患であると予測できた。

ギニーピッグの容態は、診察が午後になくてエキゾチック科に見学に来た、ジョージア組みの友達と一緒に質問してみるとわかった。腫瘍による塞栓で水腎症となり尿路拡張していて、オペを行った後に食欲不振だったのでこの大学に送られてきたことが判明した。しかしやはりこういうことは追求してしつこく生徒や先生に聞かないとわからないから難しいと思った。

アフター4は、病理の先生のおうちでホー

ムパーティーであった。すごくギャグ好きな先生で、料理のなかに偽者の食品サンプルをおいたりカツラをかぶせてみんなを惑わせていた。John という日本のアニメオタクと友達になってすごく盛り上がった。こうして1日目終了。

## Exotic zoo medicine 2 日目

朝、アナという生徒が、入院しているオカメインコの写真を飼い主に送るので写真をとるのを手伝ってといわれて手伝ったが、そのあと何もすることがないので居場所がなかった。なぜか今日はみんな冷たい・・・

でも一人がいすをもってきてくれて涙がでるほどうれしかった。その後みんなが移動しはじめたのでついていって見たらミーティングが始まった。またちんぷんかんぷんであった。研究室にもどって鷹が野生に返されたときいて、まだ治ってないのになぜ・・・と思ったが、英語がききとりにくくてそれ以上聞けなかった。

10時くらいからリクガメ (*box turtle*) の左後肢の付け根からカメラをいれて、バイオプシーを行った。カメの挿管は初めてみたしなかなか見る機会もないと思ったが、すごく小さくて大変そうだった。肝臓、胃、小腸、卵巣をみて、腎臓をバイオプシーした。教授が、手術着を来た僕はジョージ・クルーニーみたいだ、といて皆をなごませていたのですごくいい雰囲気であった。

昼はBBQに招待されていたので、いって見たらもう肉がなかったので肉のないBBQを楽しんだ。そのあと肉もちゃんとでてきてみんな肉に走っていった。

午後はギニーピッグにリドカインを投与していた。鎮痛、胃腸運動促進の意味で行っているということであった。ちょっと午後は暇だったので他の科のオペを見に行ったりし

た。病院は四角形の構造になっていて、他の科も自由にみてまわれるようになっており、オペも外から見学しやすいようになっていて便利だった。

その後は **frying squirrel** のレントゲン写真をとって、寛骨の異常が見つかった。陰嚢がすごく大きくて、私は腫瘍だとおもってしまったのでたずねると **squrtus** と何回も教えてくれたがそのときはわからなかった。

夜はプールのあるおうちでホームパーティーした。プールにみんな大はしゃぎですごく楽しかった。コリーが3匹もいる家だったのでとてもかわいらしかった。

**Exotic zoo medicine** は一番みたかった科だったので楽しみだったし、その分とても興味深い体験ができた。この後の日の暇な時間にいってもボア蛇がいたりイタチがいたりした。ただ最終日の友達から、安楽死のことや手術の失敗のことを聞いて、やはり日本より進んでいる分野にも関わらず、犬猫よりも難しいこともたくさんあるのだと思った。また、飼い主がかわいがっている愛玩動物もいたが野生から保護した動物もいて、野生に返すまでの判断や、どこまで治療するかなども難しいと感じた。**Exotic zoo medicine** を専門にしていきたいと感じていたが、この体験を通してその現実なども目の当たりにし、まずは臨床をしっかりみにつけないと犬猫以外の動物の治療は行えないことがわかってすごく勉強になった。

#### CPC（一次診療・行動学）

CPC と皮膚科だけ **main clinic** と離れていて、生徒が一次診療を練習できる場所となっている。歯科も行動科もあるのでたくさん患者がくるときいた。一通りみてまわったあと、生徒が行う避妊手術を見た。レベルは

我々と同じくらいなのに実際の患者の手術を行えるのはとてもうらやましかった。しかも先生が一对一でアドバイスをしてくれていた。

そのほかは処置室で口腔に膿瘍がある猫の採血、診察を行っていた。

午後は他の犬との喧嘩で怪我したジャーマンシェパードがいたので聞いてみると、頭に怪我をしていたので脳に異常がないかみるために CT をとろうとしたが飼い主が費用をもてないので CT をとれないことになり生徒がすごく悲しんでいた。また、首に大きな膿瘍がある犬の首に穴を開けてドレナージしていて、血とチーズ様物がでてきた。CPC がそのとき暇だったので CPC 全体の人間が集まってみている。その後オレンジの液体をいれていて、聞いたらバイダミン（イソジンのこと）であった。薬品の名前も日本とちがったのでおどろいた。

皮膚科には、日本人の奥中先生というすごく素敵な先生がいたのでたくさんお世話になった。

CPC を見てわかったのは、獣医の教育体制が日本より全然いいということであった。こんなに一次診療を練習できる環境がととのっているのは日本も見習うべきなのかも、と思った。

夜はテラピンという、広い芝生のうえでビールをのみまくるところにいった。frisbee したり先生としゃべったり伝統的な袋を投げるゲームをしたりして楽しんだ。

#### Emergency（救急）1日目

救急では、けっこうほっとかれるときいていたのでびくびくしていったが、みんな親切にしてくれた。直腸脱のペキニーズが入院していて、飼い主が **crazy** なので飼えなくて入

院している、と先生がいていたのでとてもかわいそうだった。免疫療法によって黄疸（毛もまっきいろ）のシュナウザー、イタリアングレーハウンドみたいな子犬も入院していて、呼吸困難をおこすらしくて筋電図などをとられていた。じつはイタリアングレーハウンドではなくてグレーのラブラドルだと聞いてびっくりした。眼振していて、高熱によってなぜか左足が帯熱しているというシャム猫もいた。顔がチワワなのに身体が大きい犬が交通事故できていて、耳を手術されたあとだったので入院していた。

午後はちょっと皮膚科によって、耳からごはんや水がでる犬の CT をとりにいくのに付いていった。構造的に全部が吻側に移動していて、ユースタキ管が拡張しているのでそこからごはんが出るかもしれないということであったのですごく興味深かった。軟部組織でキャバリアのオペをしていたので、入らせてくれたので見学したが、泌尿器の疾患といていたのに胃を切っていた。このとき私は胃を膀胱だとおもっていたので、胃から草がでてきたとき、膀胱から草がでてきた！とすごく驚いたが、メンバーにあれは胃だといわれてそれをまちがった自分がすごく悔しかった。

夜は Wal-mart で買い物したあとすぐ近くの学食にいったが、1500 円ですごくたくさんのご飯が食べ放題だったが味は普通でときどき大変な味のものもあった。量が多いので残そうとおもって隣の子にごはんをあげたら先生に全部食べなさい！といわれて全部食べた。みんな生クリームを食べたりなんだりたのしくすごした。

## 救急 2 日目

腸腺ガンのボクサー犬が増えていた。パイオメトラといわれてぱっとわからなかった

が、臨床の研究室にっているメンバーが子宮蓄膿症と教えてくれた。臨床では日本でもよくでてくる単語らしいので臨床の研究室にっている人がちょっとうらやましかった。両側胸部の膿胸のダックスのドレナージのためにチューブを留置するところをみた。手術実習でやったようにチャイニーズフィンガートラップでとめていて、勉強したことが出てうれしかった。他に空き時間があるときはエキゾや軟部組織を見学していた。

午後には VT さんがボクサー犬の水腫をさわらせてくれた。また、眼球摘出のオペが多い日だったので、眼科はいつもオペしていた。眼圧が上がりすぎて脳圧が上昇してしまうため両目を摘出してしまった犬もいた。みんなもけっこう病院になれてきて、自分の科が暇な時間は他の科をまわったりオペをみたりしてあつという間に終わった。

アフター 4 は、ローラースケートにつれていってもらった。店員さんだと思ってた人がナンパする人だったので驚いた。ローラースケートはものすごく楽しくて、少しすべれるようになってうれしかった。

## 病理 1 日目

午前中はずっと講義だったのでとうとうしてしまった。寄生虫について、細胞診についての内容であったけど、少人数に対して講義されるのでアットホームな雰囲気、みんなちゃんと聞いていた。午後は剖検がジステンパーの犬一匹だけで、肝が黄変していて肺がうっ血していた。資料をもらいたかったが、まだ提出されておらずもらうことができなかった。

アフター 4 は、free night だったので奥中先生と Dr.Patric と VT のブライアンとのみに行った。つれていってもらったお店のビーフシチューがすごくおいしくて感動した。屋

上にあるバーではすごくアメリカを感じた。私はお酒があまり飲めなかったけど十分たのしかった。ダウントウンも紹介してもらったが、昔は白人と黒人の住むところがわけられていてその名残の残っている街のようで、でも今は人種に関係なく病院にもいろんな人種の人が居るし、ブライアンは黒人系の人種だけど、奥中先生がみんなブライアンのこと大好きだから、といていたのが印象的だった。たしかにブライアンはすごくいい人だし、病院を見てても人種なんか全然関係ないと思った。

## 病理 2 日目

ついに病院での最終日！病理は 10 時からだったのでカフェでひまつぶした。なぜかあまり病理の人と仲良くなれない気がしたけど、今日の午前は生徒のプレゼンテーションだったのでみんなおやつくれてちょっと仲良くなれた。ほとんどは難しい内容のプレゼンだったが、一つ褐色細胞腫についてのプレゼンがあり、良く理解できた。輸送途中で亡くなった犬が、副腎肥大しており、褐色細胞腫によって輸送のストレスと圧力によってカテコラミンが過剰放出されてなくなったということであった。研究室でやっていたことだったし、授業でもやっていたことなので理解できてうれしかった。

午後は検体が無くて、15 時にいくと ataxia で衰弱死して、ワクチンを 1 回しかうけていない 2 歳の犬の剖検をやっていたので見学した。脊髄が外傷がないのに血腫ができていてそれが死亡の一因ではないかと推測されていたがこのあとさらに詳しく検査しないとわからないようだった。

夜は、さよならパーティーを開いてくれて、今まで関わってくれた人がみんな集まってオールスターの走馬灯みたいだった。写真

たと写真をもらってうれしかった。そのあとカキ氷をみんなで食べに行って騒いでたのしかった。

病理は、私以外の人はみんな面白いものを見ていたようだが私が行った時にはちょうど検体があまりないときだったので少し残念だったと思う。でも病理の研究室は病院 1 個分のスペースがあり、しっかり勉強できる環境で、日本とそんなに違いはないのだと感じた。

## その他の日々

ジョージア大学のキャンパスツアーでは、本当に大きな大学だということがわかった。なんとといってもアメリカンフットボール場はオリンピックで使われたほど大きくて感動した。ブックストアが構内にあって、大学のパーカーから犬の服までおしゃれなものが揃っていた。ジョージア大学の門は卒業前に真ん中を通ると卒業できないという言い伝えがあるらしく、みんな避けて通っていて面白かった。人々はみんなこっちから笑顔をみせると必ず (90%) 笑い返してくれて素敵だと思った。

この日の深夜に単語の勉強をしていたら、トイレに行きたくなっていったらトイレが詰まって風呂場が海みたいになってしまった。なんとかロビーの人に話して、治してもらったが、トイレがすぐ詰まるので大変だと感じた。

World of coke はディズニーランドみたいなところで、シロクマと写真をとったり映画みたいな 4D 映像をみたりグッズを買ったり世界中のコーラの試飲コーナーがあったりしてすごく楽しかった。

KARAOKE と SUSHI BAR は、カラオケに日本の曲も結構はいていたが、ととろなのに背景がやくざ映画みたいな暴力的なシーンになっていてうけを狙っているのかと

思った。シーン・・・とするかなあと不安だったけど、ダンスのできる友達や盛り上げてくれるメンバーばかりだったし、来てくれたジョージアの生徒も愉快的な人たちだったので盛り上がったのしかった。アメリカのお寿司は、これはこれで文化として成立していると感じた。日本のすしとはぜんぜん違ったけど、おいしかった。

TUBING は、浮き輪にのって川を下っていくもので、すごく癒された。すこし長かったけど、漂いながら人生を見つめなおした。吉岡先生はぐったりしていた。ウォータースライダーがけっこう怖かったけどすべてみると楽しかった。その後行ったピザやですごく大きなピザが出てきて、とてもおいしかった。余ってしまったので Doggy bag してみんなでホテルで頂いた。夜みんなでビアガーデンに行ったら、滑り台や飛行機のある飲み屋さんだったのでみんなで小学生のようにはしゃいだ。がちゃがちゃもあったので、25セントでみんなガチャガチャをしまくった。すっごく楽しくて幸せだった。

水族館は、病院の人からアメリカで一番大きいときいていたので期待していたが、期待通りだった。カエルコーナーがみんなのお気に入りであった。熱帯魚コーナーとかジョージア近辺の河のコーナーに分かれていてそれぞれ珍しい魚がたくさんだった。一番感動したのは白いワニで、美しかった。イルカショーをみさせてもらったが、一つのショーになっていて、日本のイルカショーよりも大分感動した！暗いなかでライトを浴びるイルカが楽しそうで、こういう見せ方もあるのだなーと思った。水族館の裏も見学できると聞いていたのだけど見学できなかったのが残念だった。

最後に。今回の実習は、私の期待以上に意

味が大きかったと思う。日本の動物病院に実習に行ったこともあったけど、それよりもこの大きな大学病院でしかも外国の病院に実習にいったことで、自分の勉強や経験のレベルがどれだけ低いかを見にしみて感じることができた。また、外国だということで日本語よりも質問がしやすかった気がする。私は将来エキゾチックアニマルを診ようと思っていて、アメリカの方がその分野が進んでいると聞いていたので期待していた。そしてその臨床を初めて見学することができたが、思っていたよりずっと難しい分野で、しかも野生との線引きは難しく、まずは犬猫の範囲をしっかりとっておかないと全く意味がないことがわかった。また、救急などの臨床を見学して、今まで犬猫の臨床にあまり興味がなかったが、臨床も面白そうだと思うことができた。実習はしんどいときもあったが、皆で励ましあえたので助かった。3日目くらいからは緊張も少し解け、質問をいっぱいして楽しむことができた。

メンバーは、最初はすごく不安だった。ジョージア組は他の2大学のメンバーよりも適度な雰囲気は漂っていた。しかし実際はみんな遊ぶときは小学生のように遊んで、勉強するときは大学生にもどってすごく真剣だったのでメリハリがついてとても良かったと思う。しかも帰るころにはものすごく仲良くなっていて、引率の吉岡先生もみんなの父親みたいでとても頼もしかったし、一緒に遊んでくれてうれしかった。

たった2週間だったが、ものすごく濃かった。研修に行った甲斐はものすごくあった。来年行く人のために、もっていった方がいいものは、上着（クーラーがすごく寒いです！）です。

最後にジョージア大学の皆さん、吉岡先生、メンバー、鹿児島大のメンバーに感謝します。

To everyone at Georgia University,  
Thank you for welcoming us to your university. Everyone in your university was very kind and I was impressed with it. It was only 2 weeks, but I guess I could learn more things than I expected. And also, it would be one of a clue to decide my future direction. sincerely . Konatsu Miura  
KITASATO university.

### ジョージア大学夏季研修報告 獣医解剖学研究室 吉岡 一機

学生8名が、ジョージア州の北東に位置するジョージア大学獣医学部附属動物病院において、約2週間の獣医臨床研修を行った。成田空港での集合、シカゴ空港での乗継等、全く問題なくアトランタ空港までたどり着いたものの、ジョージア大学まであと一歩のところで躓いてしまった。アトランタに19:13定刻通り到着したものの、ジョージア大学の迎えに会えたのは22:00を過ぎていた。ジョージア大学は学生が車2台を使って迎えに来ていたが、アトランタ空港の出口が多いためお互いの待ち合わせ場所が随分と離れていたようであった。ジョージア大学への電話は日曜で繋がらず、北里大学の何人かの教員に電話をし、何とかジョージア大学と連絡を取ろうとしたがうまくいかなかった。もともとこのような緊急連絡時にジョージア大学の担当者の携帯番号を知らずに渡米したことを深く反省した。

動物病院での研修は、腫瘍科、大動物臨床、整形外科、エキゾチックアニマル、救急医学、皮膚科、眼科、行動学などの専門領域から各学生が3～4の科を選択し、ジョージア大

学獣医学部の学生と一緒に担当の先生から指導を受けた。学生から感想を聞くと、科により学生への対応はまちまちであったようである。すなわち症例が多く忙しい科は、研修学生に対応する余裕がなく、一方、科によっては先生やジョージア大学獣医学部の学生とじっくりコミュニケーションがとれ、しっかりと学べたようである。学生は事前に興味のある専門領域を選択するのだが、好きな領域のみにこだわるのではなく、対応の良い科を先輩方から聞き選択することも必要なのかもしれない。さらに大動物臨床を希望する学生が少ないのだが、アメリカではウマなどの大動物臨床が盛んなため、施設等も日本に比べて立派なようである。将来小動物臨床志望であっても是非、アメリカの大動物臨床を経験してほしいと思う。研修当初、学生は専門英語を用いた英語でのコミュニケーションに大変苦労し、またジョージア大学獣医学部の学生が飼い主への説明など積極的に動物病院での診療業務に携わっている姿を見て、衝撃を受けていたようだが、徐々に学生も慣れ、積極的に病院業務に関わっていたようである。

学生の研修態度に関しては、遅刻や欠席をする者はおらず、すべての日程を予定通りこなしていた。このことは学生自身の目的意識の高さにもよるが、ジョージア大学獣医学部の配慮によるところが非常に大きいと感じた。すなわち、ジョージア大学獣医学部が考えたスケジュールには、毎日程よいアクティビティが含まれており、学生たちはその日に溜まったストレスを溜めることなく次の日の研修に望めていたと感じられる。Dr. Malorie や Dr. Hensel、Dr. Brown、Dr. Gogal、副学部長である Dr. Carmichael は、それぞれ自宅でパーティーを開いてくださり、その他、ボーリング、ローラースケート、



カラオケ、ビヤホール等、毎日何らかのアクティビティが用意されていた。おかげで学生と私のみで夕食を食べた日は数日のみであった。このような日程を実施するのは、車での送り迎えや経費の点で大変であり、ジョージア大学獣医学部のスタッフや学生に感謝している。

最後に、2週間の研修期間は、私にとっても毎日が楽しく充実していた。特に、予定通り日程を消化でき、学生の生活態度や安全に関して全く問題がなく、同行教員を悩ますような事柄は皆無であった。これは、学生の分別ある行動や明るい性格によるところが大きく、8人の学生達に大変感謝している。この研修が学生達にとって貴重な経験となり、日本での残りの学生生活や獣医としての将来によい影響を与えることを願っています。

The training period for two weeks was good for students. Since students did neither lateness nor absence, they did the schedule as planned all. It is for support of UGA and I appreciate it. Since various activities were contained in the schedule, students were given training in the next day, without dragging the stress which accumulated on that day. Especially Dr. Malorie, Dr. Hensel, Dr. Brown, Dr. Gogal, and Dr. Carmichael had the party at the house, respectively. I appreciate. This training will become an experience precious to students, and will have good influence the student life in Japan, and in the future which act as a veterinarian. I hope wonderful friendship of UGA and Kitasato University will continue.

Sincerely yours,

Kazuki Yoshioka, DVM, Ph.D



















北里大学 獣医学部 獣医学科  
米国三大学夏期研修 2012

インディアナ州立 パデュー大学 獣医学部

Purdue University, School of Veterinary Medicine

West Lafayette, Indiana, <http://www.vet.purdue.edu>

出国：8/25（土） 成田 16:35 発 UA 882

帰国：9/9（日） 成田 15:30 着 UA 881

テネシー州立 テネシー大学 獣医学部

The University of Tennessee, College of Veterinary Medicine

Knoxville, Tennessee, <http://www.vet.utk.edu>

出国：8/25（土） 成田 11:30 発 AA 176

帰国：9/9（日） 成田 16:20 着 AA 153

ジョージア州立 ジョージア大学 獣医学部

The University of Georgia, College of Veterinary Medicine

Athens, Georgia, <http://www.vet.uga.edu>

出国：8/18（土） 成田 16:35 発 UA 882

帰国：9/2（日） 成田 15:30 着 UA 881

# Schedule 1 Purdue University

<http://www.vet.purdue.edu>



研修先の担当の先生 : Dr. J. Catharine Scott-Moncrieff

Purdue University School of Veterinary Medicine,  
West Lafayette, IN 47907-1240, USA

Tel : +1-765-494-1107 Fax : +1-765-496-1108

研修期間の宿泊先 : Purdue Village

50 Nimitz Drive West Lafayette, IN 47907, USA

Tel : +1-765-494-2090 Fax : +1-765-496-6828



出国 : 8/25 (土) 成田 16:35 発 UA 882 帰国 : 9/9 (日) 成田 15:30 着 UA 881

## 参加者名簿 (8名)

学生番号	氏名	Name	所属研究室
08011	石原 希朋	KIHO ISHIHARA	獣医微生物学
08019	井本 博貴	HIROKI IMOTO	獣医放射線学
08021	岩田 竜治	RYUJI IWATA	獣医病理学
08030	大森 英明	HIDEAKI OOMORI	人獣共通感染症学
08079	高田 璃羅	RIRA TAKADA	獣医薬理学
08131	三宅 正徳	MASANORI MIYAKE	獣医衛生学
08144	山本 栄子	EIKO YAMAMOTO	獣医解剖学
08145	山本 静孝	SHIZUTAKA YAMAMOTO	小動物第1 外科学

同行教員 : 嶋本 良則 YOSHINORI SHIMAMOTO

## Flight information

Date	Flight	Flight No
8/25 (土)	成田 16:35 → シカゴ 13:54	UA 882
	シカゴ 16:40 → インディアナポリス 18:36	UA 5348
9/8 (土)	インディアナポリス 11:30 → シカゴ 11:39	UA 6135
	シカゴ 12:36 → 成田 15:30 <9/9 (日) 着>	UA 881

出国時の集合日時と場所 : 8/25 (土) 13:30

成田空港第1ターミナル/南ウイング 4F ユナイテッド航空チェックインカウンターB付近

[http://www.narita-airport.jp/jp/guide/t\\_info/c\\_list\\_t1\\_south.html](http://www.narita-airport.jp/jp/guide/t_info/c_list_t1_south.html)

(Tel : 03-3817-4411 / 0570-064-777 <http://www.united.com/web/ja-JP/Default.aspx>)

# Schedule 2 The University of Tennessee

<http://www.vet.utk.edu>



研修先の担当の先生 : Dr. James J. Brace,  
University of Tennessee College of Veterinary Medicine, PO Box 1071,  
Knoxville, TN 37901-1071, USA  
Tel : +1-423-974-7263 Fax : +1-423-974-4773  
Cell phone: 865-603-256 E-mail: jbrace@utk.edu  
研修期間の宿泊先 : Homewood Suites at Turkey Creek  
Address: 10935 Turkey Drive, Knoxville, TN 37922  
Telephone: 1-865-777-0375

出国 : 8/25 (土) 成田 11:30 発 AA176 帰国 : 9/9 (日) 成田 16:20 着 AA 153

## 参加者名簿 (7名)

学生番号	氏名	Name	所属研究室
08127	丸岩 伯章	TAKA AKI MARUIWA	小動物第一外科学
08057	坂爪 友輝	TOMOKI SAKATSUME	獣医薬理学
08110	濱口 洋	HIROSHI HAMAGUCHI	獣医放射線学
08134	盛林 直規	NAOKI MORIBAYASHI	獣医薬理学
08058	坂野 友哉	YUYA SAKANO	獣医放射線学
08022	岩塚 尚子	NAOKO IWATSUKA	獣医解剖学
08063	佐藤 美奈未	MINAMI SATO	獣医微生物学

同行教員 : 堀 泰智 YASUTOMO HORI

## Flight information

Date	Flight	Flight No
8/25 (土)	成田 11:30 → ダラス 8:55	AA 176
	ダラス 12:35 → ノックスビル 15:35	AA 3297
9/8 (土)	ノックスビル 07:00 → シカゴ 07:40	AA 4100
	シカゴ 13:15 → 成田 16:20 <9/9 (日) 着>	AA 153

出国時の集合日時と場所 : 8/25 (土) 9:00

成田空港第2旅客ターミナルビル/3F アメリカン航空 チェックインカウンターDとEの間

[http://www.narita-airport.jp/jp/guide/t\\_info/c\\_list\\_t2.html](http://www.narita-airport.jp/jp/guide/t_info/c_list_t2.html)

(Tel : 03-3298-7677 <http://www.americanairlines.jp/>)

**受託手荷物** JAL : 2個まで。重量 : **23kg (50ポンド)** /個を超えないこと。それぞれの手荷物の3辺(縦・横・高さ)の和が158cm (62インチ)を超えないこと。

# Schedule 3 The University of Georgia

<http://www.vet.uga.edu>



THE UNIVERSITY OF GEORGIA  
College of Veterinary Medicine

研修先の担当の先生 : Dr. Paige Carmichael (Associate Dean for Academic Affairs)

The University of Georgia College of Veterinary Medicine, Athens, GA 30602, USA

Tel : +1-706-542-5728 Fax : +1-706-542-3014 E-mail: kpc@vet.uga.edu

研修期間の宿泊先 : The University of Georgia Center for Continuing Education (Georgia Center)

1197 South Lumpkin Street, Athens, GA 30602-3603

Tel : +1-706-542-2654 Fax: +1-706-542-2635

最終日 8/31 (金) -9/1(土) : Holiday Inn Express Atlanta College Park

4601 BEST ROAD

COLLEGE PARK, GA 30337 USA

Hotel Front Desk: 1-404-761-6500 | Hotel Fax: 1-404-763-3267

<http://www.ichotelsgroup.com/h/d/ex/1/en/hotel/atlbr?requestid=186915>

出国 : 8/18 (土) 成田 16:35 発 UA 882 帰国 : 9/2 (日) 成田 15:30 着 UA 881

## 参加者名簿 (8名)

学生番号	氏名	Name	所属研究室
08041	加藤 寛	Hiroshi KATO	小動物第一内科学
08073	白鳥 いづみ	Izumi SHIRATORI	獣医生化学
08074	鈴木 修平	Shuhei SUZUKI	小動物第一外科学
08086	武末 眞鷹	Masataka TAKESUE	獣医病理学
08096	田村 雄飛	Yuhi TAMURA	小動物第一内科学
08103	長嶋 慧	Satoshi NAGASHIMA	獣医生理学
08109	野村 竜哉	Tatsuya NOMURA	小動物第一外科学
08128	三浦 京夏	Konatsu MIURA	獣医解剖学

同行教員 : 吉岡 一機 Kazuki YOSHIOKA

## Flight information

Date	Flight	Flight No
8/18(土)	成田 16:35 → シカゴ 13:54	UA-882
	シカゴ 16:16 → アトランタ 19:13	UA-3727
9/1(土)	アトランタ 07:45 → シカゴ 08:47	UA-308
	シカゴ 12:36 → 成田 15:30 < 9/2(日) 着 >	UA-881

出国時の集合日時と場所 : 8/18 (土) 13:30

成田空港第1ターミナル/南ウイング 4F ユナイテッド航空チェックインカウンターB 付近

[http://www.narita-airport.jp/jp/guide/t\\_info/c\\_list\\_t1\\_south.html](http://www.narita-airport.jp/jp/guide/t_info/c_list_t1_south.html)

(Tel : 03-3817-4411 / 0570-064-777 <http://www.united.com/web/ja-JP/Default.aspx>)

アメリカ合衆国地図：赤色の囲みが各大学のある州



## 注意事項

### 1) 成田空港まで

成田空港ホームページ <http://www.narita-airport.jp/jp/>

JR、京成電鉄およびリムジンバスが成田空港に乗り入れています。  
何れも本数が限られていますので、余裕をもって乗車しましょう。

目安の所要時間

**JR**：総武線と成田線の快速で東京駅から 80 分

成田エクスプレス（座席指定が必要）も各地（東京、横浜等）からあります。

**京成電鉄**：京成上野駅からスカイライナー（座席指定が必要）で約 60 分。

特急約 75 分、料金 1000 円は最も経済的。その他の快速や急行などでは、  
乗り換えがあり、時間がかかりかかります。

第 2 ターミナル利用 → 空港第 2 ビル駅下車
第 1 ターミナル利用 → 成田空港駅（終点）下車

**リムジンバス**：各地（東京、大宮等）からありますが、道路事情で所要時間が大きく左右されますので利用は控えた方がよいでしょう。

### 2) 飛行機へのチェックイン

成田空港の各航空会社のカウンターで行います。

旅行代理店から渡された搭乗券（boarding pass）とパスポートを航空会社のカウンターに提示して、チェックインします。このとき、大きなスーツケースを預けます。これはアメリカ入国まで戻ってきません。貴重品や成田空港内、機内で必要なものは別に 1 個の手荷物にして持っていきましょう。

これから海外旅行を繰り返す可能性のある人は、マイレージサービスなどの手続きをするのも良いでしょう。

### 3) 荷物チェックリスト

手荷物

パスポート（紛失・盗難に備えてコピーと写真 2 枚も準備しておくとう安心です）

航空券

現金／トラベラーズチェック

海外旅行傷害保険証および関連資料（米国での医療費は大変高額です）

ノートパソコン、デジカメなど（あるいはカメラとフィルム）

筆記用具

スリッパ（機内と宿舎内で便利）

クレジットカード（パスワードがあれば覚えておく）

その他（安眠枕、耳栓、アイマスク、ガム、ウェットティッシュ、コンタクトなど）  
一泊分の衣服（スーツケースと一緒に到着しなかった場合に重宝）

スーツケースなど

常備薬（解熱薬、虫さされ、防虫スプレー、胃腸薬等）

洗面用具（ボディーソープ、シャンプー・リンス、ひげ剃り、ブラシ、洗顔石鹸、  
歯磨きセット、タオル、ハンカチ、ティッシュペーパー、爪切り）

洗濯用具（洗剤、洗濯バサミ、洗濯ロープなど）

デイパックなど（ちょっと出かける際に便利）

衣類（圧縮袋を使うと便利）

ビニール袋（いろいろ便利）

ガムテープ（スーツケース修理など、いざというときに重宝）

目覚まし時計（遅刻しないように）

\*眼鏡を使用している人は、予備の眼鏡を持って行くのが望ましい

注意！！

- アメリカへ行く際、スーツケースに鍵をかけると、中身のチェックのために鍵を壊されます。無用なトラブルを避けるには、鍵をかけないか、あるいは TSA ロックと呼ばれる鍵の付いたスーツケースやバンドを使用した方がよいでしょう。
- テロ関連で機内持ち込みが制限されているもの（飲料水や化粧品、コンタクトレンズ洗浄液など）は、手荷物ではなくスーツケースに入れましょう。詳しくはホームページ等で確認ください。[http://travel.univcoop.or.jp/shuppatsu/tokou\\_06.html](http://travel.univcoop.or.jp/shuppatsu/tokou_06.html)
- 無料で預けられる荷物のサイズを航空会社ホームページで確認しましょう。
- 盗難や破損を防ぐため、カメラ・ビデオ・ノートパソコンは預けてしまうスーツケースに入れなくて、機内に手荷物で持ち込みましょう。
- 渡航前に歯の治療を済ませておきましょう。米国での歯科治療費は保険でカバーできません。

#### 4) 報告書

学外実習のレポート以外に、研修の報告書を作成してもらいます。原稿用紙 5 枚程度の体験記をまとめ、コンピューターで作成した文章のデータをフロッピーや CD で提出してもらいます。実習中に日々の研修活動やレクリエーションについて、こまめに記録をしておきましょう。お世話になった現地の先生方へも報告書を送るので、英語でまとめの文章を必ず書いてください。（報告書提出締切 9 月 28（金）、同行教員まで）

#### 5) 海外旅行保険

アメリカでは病気や怪我の治療には、保険がないため大変高額な医療費を要求されます。そこで、皆さんには予め海外旅行用の損害保険に加入してもらいました。保険証書といっしょに、推奨の医療機関や日本語の通じる医者などのリストが渡されたはずですので、この資料を各自が忘れずに携帯してください。



## 6) 国内連絡先

北里大学獣医学部

青森県十和田市東 23 番町 35-1 獣医臨床繁殖学研究室

0176-23-4371 (内線 454)

担当者：坂口 実 教授、 e-mail : saka99@vmas.kitasato-u.ac.jp

Kitasato University,

School of Veterinary Medicine,

Higashi 23-35-1, Towada, Aomori 034-8628, JAPAN

Tel : +81-176-23-4371 Fax : +81-176-23-8703

Prof. Minoru SAKAGUCHI, e-mail : saka99@vmas.kitasato-u.ac.jp

## 7) その他

### パスポートと出国・入国手続き

- 出国カードは早めを書いておきましょう。出国審査官の前では混雑のため書けません。
- 機内で渡されるアメリカ入国審査用の用紙にはすぐに記入しましょう。  
その際にはパスポートの置忘れに注意！貴重品はいつも同じ場所にしまいましょう。
- アメリカ入国の際、審査官が乗って来た航空機の便名、訪問理由、訪問先、滞在期間などを聞きます。予め英語で答えられるようにしておきましょう。
- アメリカ入国審査官が出国時に必要なカードをパスポートにホッチキスで止めてくれます。これがないと帰国できなくなるので、紛失注意。
- テロ対策で指紋を取られることがあります。その際、少しでも犯罪者のものと似ていると、取り調べが行われます。何を調べられても良いように、荷物や持ち物はきちんと整理しておきましょう。
- アメリカから植物や果物は持ち込めません。また、牛肉製品（ジャーキーなど）は成田空港で没収される可能性が高いので注意してください。

関連情報 <http://www.narita-airport.jp/jp/travel/kinsi/index.html>

### お金など

- クレジットカードは自分の信用証明にも役立ちます。JCB と American Express より VISA と MasterCard の方が対応する店舗が多く、使いやすいかもしれません。ただし、いずれにしても、最近の使用の際に4桁のパスワードを求められる場合が多いので、各自確認しておきましょう。
- 最初に入る国の現金 100 ドル程度を小銭 1-5 ドル札と 20 ドル札に分けて持っておけば何かと小用の買い物に便利です（土日は銀行が休みだったり、朝早く、また夜遅くに飛行機が着いて両替できないことがあります）。100 ドル札（特に未使用札）の使用は嫌がられることもあります。
- 免税店は最後に搭乗する空港でだけ利用できます。チェックイン後、搭乗までが買い物時間。

- チップについては、レストランでは 15%、タクシーでは 10%、ホテルではピローチップを毎朝 1 ドルぐらい、重いバッグを持ってもらっても 1 ドルで十分です。
- 帰国後、ドル札は日本円に換金できますが、コインは換金できません。帰国直前までに（空港等で）コインを最優先で使い切るようにすればムダがありません。
- 大学内でも不用意に財布を置かないように！カバンと一緒に置き忘れると盗難に遭う可能性は高いので、注意しましょう。

#### その他

- アメリカはサマータイム中のため、実際の時差より 1 時間早いことに注意しましょう。
- 室内は禁煙が原則です。ホテルの部屋でも禁煙の所も多いので、喫煙可能な場所を確かめましょう。
- 飛行機のリコンファーム（予約再確認）は不要です。
- 電気製品は電圧の違いで使えないことがあります。
- 水着を持って行っておくと、キャンパスにあるプールに入れるかも。
- 電話：海外から日本へ通話するには、オペレーターを通すよりもクレジットカードがあれば安く簡単です。かけ方は概ね次のとおり：受話器を取り、カードを通して、0081（日本の国番号）を押し、その後にかきたい相手先の電話番号から最初の 0 をとったものを押します。また、いざという時のために、出国前に自分の携帯電話をアメリカでも使用できる物に交換できるサービスを利用するのも良いでしょう。もちろん料金は割高です。

# Purdue University Small Animal Hospital Dress Code Guidelines

## I . Purpose

To establish dress code standards which promote professionalism and that ensure the health and safety of the small animal hospital staff and patients.

## II. Attire:

A. All attire should be clean and neat.

B. Protective lab coats/uniforms shall be clean and worn at all times when working with animals. A clean coat/uniform should be donned if the original becomes soiled.

C. Hospital nametags/identification badges shall be worn in plain sight at all times by faculty and staff members who are on the hospital premises. There shall be no defacement of the nametags (i.e. stickers, tape, pens etc.)

D. Footwear must be worn at all times in the hospital and must be clean, conservative, protective and appropriate for the work environment. Thongs, opened-toed sandals, athletic shoes and stiletto-type heels are discouraged but acceptability is ultimately left to the discretion of the supervising clinician or section head. (See Section V)

E. Men must wear clean and neat slacks, dress shirts and socks. Ties are encouraged on receiving days. The supervising clinician shall decide whether wearing a tie is required or not. Jeans and shorts are **not** acceptable.

F. Women must wear clean and neat slacks, blouses, skirts or dresses. No jeans, shorts, low cut blouses or excessively short skirt lengths are permitted. Garments made of transparent material are **not** acceptable.

G. All pants and or dresses should be of reasonable length and should not drag on the floor.

H. Midriffs shall not show whether due to low riding pants or short shirts/blouses.

I. NO head covers (i.e. hats or scarves) shall be worn indoors when receiving patients. (See section V)

### **III. Personal appearance:**

A. Hair (including beards and mustaches) shall be kept neat (trimmed and groomed), clean, and combed with no extreme styles, colors, or hair ornaments attached.

B. Fingernails shall be clean, manicured and of appropriate length. (For example surgery rotations require short nails that will not penetrate surgical gloves.)

C. All make-up shall be worn in moderation.

D. Moderately styled jewelry may be worn. Extraneous jewelry such as long dangling earrings can be dangerous and is discouraged.

E. Refrain from wearing excessively strong scented perfumes, colognes and aftershaves. Many clients and staff are sensitive to them.

F. Tattoos should be covered during receiving times. No tattoos that convey extremist views should be visible at this workplace. Such displays diminish work unit cohesion, create an atmosphere of intimidation and hostility and interfere with productivity and morale.

### **IV. Non-adherence:**

**A. The supervising clinician or section supervisor ultimately determines if the dress is satisfactory. If dress is determined to be unacceptable, students or staff shall be asked to meet the set guidelines before being allowed to participate in clinic activities.**

B. Absence due to non-conformance **MUST BE** made up.

C. Further disciplinary actions may be taken if patterns of non-compliance to these standards are observed.

## **V. Exceptions:**

A. Exceptions to these standards may be allowed if cultural, religious or medical reasons can be established.

B. Exceptions to the guidelines may be made when activities requiring a different type of dress are necessary.

**SVM Administrative Document #47**

**Date Approved by EXCOM: 5/1/08**

### **Policy on Clinic and Laboratory Attire in Public Areas**

The following policy was drafted by the Infectious Disease Committee and the Executive Committee of the Dean and approved by the Executive Committee. The goal is to prevent possible contamination of public areas in the SVM.

1. Hand washing is required before leaving a clinic or laboratory area.
2. Boots/shoes and outerwear soiled with animal excrement, bedding, or other similar material must not be worn outside of the clinic or laboratory area. Such items must be removed prior to leaving the clinic or laboratory area.
3. Only clean outerwear should be worn outside of clinic or laboratory areas.

No materials that are used with animals such as gloves, masks, surgery hats, surgery booties, etc. are allowed in dining or public areas. These items should be left in the clinic or laboratory areas.



平成24年度  
北里大学 獣医学部 獣医学科